学術集会プログラム

学会賞受賞講演

◎

11 月 6 日（金） 12：30 ～ 13：20　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　山本　幸代（産業医科大学医学部医学教育担当教員）

出会いと挑戦が紡ぐ，一つの環―次の世代へのメッセージ―

室谷　浩二

神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科

会長講演

◎

11 月 5 日（木） 9：30 ～ 10：00　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　上田　陽一（産業医科大学・西日本看護医療大学）

Local, Global, Synergy―活動を通して得た学び―

山本　幸代

産業医科大学医学部医学教育担当教員

特別講演

◎

11 月 6 日（金） 9：45 ～ 10：35　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　田島　敏広（自治医科大学小児科学講座）

内分泌代謝学のこれから：みんなで考えよう！

小川　佳宏

九州大学大学院医学研究院病態制御内科学

特別講演

◎

11 月 7 日（土） 13：20 ～ 14：10　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

共催：男女共同参画・ワークライフバランス委員会企画

座長　藤澤　泰子（浜松医科大学小児科）

遺伝性疾患の病態解析からみえる生命現象の世界

青木　洋子

東北大学大学院医学系研究科遺伝医療学分野

特別講演シリーズ 1

◎

11 月 6 日（金） 10：45 ～ 11：15　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　長谷川　奉延（慶應義塾大学名誉教授/柏たなか病院）

iPS 細胞を用いた再生医療の内分泌領域への応用

長船　健二

京都大学 iPS 細胞研究所

特別講演シリーズ 2

◎

11 月 7 日（土） 9：10 ～ 9：40　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　大薗　恵一（医誠会国際総合病院難病医療推進センター）

医療 AI の進歩と医師の役割

植田　大樹

大阪公立大学

特別講演シリーズ 3

◎

11 月 7 日（土） 9：45 ～ 10：25　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　田久保　憲行（順天堂大学医学部小児科学講座）

行動医学とヘルスサイエンスの融合―行動変容が支える慢性疾患マネジメント―

野崎　剛弘

中村学園大学大学院栄養科学研究科

Meet the Expert1

◎

11 月 5 日（木） 10：05 ～ 10：35　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　井原　健二（大分大学医学部小児科学講座）

MTE1　　性分化疾患の外科的治療：診療連携の役割と位置づけ

野口　満

佐賀大学医学部附属病院

Meet the Expert2

◎

11 月 6 日（金） 15：45 ～ 16：15　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　土橋　一重（塩山市民病院小児科、山梨大学臨床教授、昭和医科大学客員教授）

MTE2　　原発性脂質異常症 Update～小児・思春期・若年成人期を通じたシームレスな診療のために～

岡崎　啓明

帝京大学医学部附属溝口病院

海外招聘講演

11 月 6 日（金） 13：25 ～ 14：15　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　山本　幸代（産業医科大学医学部医学教育担当教員）

Endocrine Aspects of the Diagnostic Evaluation of Pediatric Obesity：New Evidence and Recommendations from an International Guideline

Erica L.T. Van den Akker

Erasmus University Medical Center- Sophia Children's Hospital

KSPE-JSPE 交換講演

11 月 7 日（土） 10：30 ～ 11：00　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　鹿島田　健一（国立成育医療研究センター内分泌・代謝科）

Recent Advances in the Genetic Etiologies of Central Precocious Puberty

Hae Sang Lee

Department of Pediatrics, Ajou University School of Medicine, Ajou University Hospital

シンポジウム 1　小児・思春期糖尿病の移行期医療を考える―1 型・2 型を含めた多職種連携の実践―

11 月 5 日（木） 15：40 ～ 17：00　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場） ◎

共同企画：JSPE 移行期医療委員会

座長　鈴木　滋（旭川医科大学小児科）

川井　正信（大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門）

SY1-1　1 型糖尿病の移行期について考える　~小児科医の立場から~

小川　洋平

新潟大学医歯学総合病院小児科

SY1-2　小児肥満症・2 型糖尿病診療から考える移行期医療

牧村　美佳

国立病院機構小倉医療センター

SY1-3　内科側からみた小児・思春期糖尿病の移行期の実情と課題

三浦　順之助

東京女子医科大学内科学講座糖尿病・代謝内科学分野

SY1-4　多職種で『大人になる力』を育む移行期支援―糖尿病キャンプの重要性―

薬師神　裕子

愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻

シンポジウム 2　甲状腺とヨウ素

11 月 5 日（木） 15：40 ～ 17：00　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール） ◎

共同企画：JSPE 甲状腺委員会

座長　南谷　幹史（帝京大学ちば総合医療センター小児科）

阿部　清美（埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科）

SY2-1　日本の小児におけるヨウ素摂取と甲状腺機能・成長発達との関連―全国ヨウ素摂取量調査から考える―

伊藤　善也[1]、塚田　信[2]、山口　真由[3]、國井　葉[4]、布施　養善[5]

[1] 日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域、[2] 日本栄養大学栄養科学研究所、
[3] 鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科、[4] 昭和医科大学横浜市北部病院甲状腺センター内科、
[5] 成長科学協会

SY2-2　母体へのヨウ素含有消毒剤使用と新生児甲状腺機能：分娩様式による先天性甲状腺機能低下症再採血率の違い

中村　英記[1]、鈴木　滋[1,2]

[1] 名寄市立総合病院小児科、[2] 旭川医科大学小児科

SY2-3　日本人幼小児におけるヨウ素含有造影剤を用いた造影検査が甲状腺機能へ及ぼす影響

橘　真紀子

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

SY2-4　バセドウ病に対する無機ヨウ素による抗甲状腺作用の分子メカニズムの解明
内田　豊義
順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学

シンポジウム 3　低身長児における骨系統疾患の鑑別と診断―臨床所見から遺伝子解析まで

◎

11 月 5 日（木）　15：40 ～ 17：00　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）
共催：若手教育シンポジウム
座長　道上　敏美（大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門）
窪田　拓生（大阪母子医療センター腎・代謝科）

SY3-1　X 連鎖性低リン血症性くる病・骨軟化症
大幡　泰久
大阪大学大学院医学系研究科小児科学

SY3-2　SHOX 異常症の早期診断―臨床所見から遺伝学的診断まで―
伊達木　澄人
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学

SY3-3　軟骨無形成症
長谷川　高誠
岡山大学学術研究院医療開発領域小児科

SY3-4　軟骨低形成症の診断
窪田　拓生
大阪母子医療センター腎・代謝科

シンポジウム 4　家族性高コレステロール血症（FH）をモデルに考える小児期脂質異常症の早期診断・介入―学会連携の取り組み―

◎

11 月 5 日（木）　15：40 ～ 17：00　　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）
共催：日本動脈硬化学会　共同企画：日本小児脂質研究会
座長　多田　隼人（金沢大学附属病院循環器内科）
山本　幸代（産業医科大学医学部医学教育担当教員）

SY4-1　なぜ小児期の FH は見逃されるのか―FH ヘテロ・ホモの診断の課題と今後の取り組み―
山本　幸代
産業医科大学医学部医学教育担当教員

SY4-2　遺伝子診断から考える FH 早期診断の新たな可能性
多田　隼人
金沢大学附属病院循環器内科

SY4-3　FH の早期発見 ・ 早期介入を目指して―小児 ・ 成人診療連携による香川県の取り組み―
松永　圭司[1,2]
[1] 国立循環器病研究センターオープンイノベーションセンターバイオバンク、
[2] 香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学

SY4-4　「高槻宣言 2024：こどものコレステロールをチェックして、FH を救おう！」の普及を目指して
菊池　透[1,2]
[1] 埼玉医科大学小児科、[2] 日本小児脂質研究会

シンポジウム 5　小児内分泌科医を育て続ける―卒前から専門医、その先までの教育―

◎

11 月 6 日（金）　8：20 ～ 9：40　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

企画：教育・人材育成

座長　長谷川　奉延（慶應義塾大学名誉教授/柏たなか病院）
　　山本　幸代（産業医科大学医学部医学教育担当教員）

SY5-1　学びを支え、人を育てる―医学教育における伴走型支援の実践―
山本　幸代
　産業医科大学医学部医学教育担当教員

SY5-2　「教える」から「問いを育てる」へ―小児内分泌医の魅力を伝え、成長を支える専門研修
藤本　正伸
　鳥取大学医学部周産期・小児医学分野

SY5-3　若手の立場から学会・先輩方へ伝えたいこと
根本　千裕
　神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科

SY5-4　「俯瞰と匙加減」、「届く言葉」、そして「ためらいの作法」―医学部長の経験から考える人材育成―
鬼形　和道
　島根大学医学部附属病院

SY5-5　1 人 1 人の学会員が良い指導者、かつ良い学習者を目指そう
長谷川　奉延[1,2]
　[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] 柏たなか病院

シンポジウム 6　やせをどう捉え、どう支えるか―FUS（Female Underweight/Undernutrition Syndrome）が示す新たな視点―

◎

11 月 6 日（金）　14：20 ～ 15：40　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

共同企画：JSPE 栄養委員会

座長　森　潤（大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科）
　　小山　さとみ（獨協医科大学埼玉医療センター小児科）

SY6-1　ライフコースの視点から考える「やせ」の問題―FUS と子どものやせ
井ノ口　美香子[1,2]
　[1] 慶應義塾大学保健管理センター、[2] 慶應義塾大学医学部小児科

SY6-2　FUS を成人医学の視点から考える：やせに伴う耐糖能異常と栄養・運動の重要性
田村　好史
　順天堂大学大学院医学研究科スポーツ医学・スポートロジー/代謝内分泌内科学

SY6-3　不健康やせから子どもを守る
庄司　保子[1,2]
　[1] 富山大学地域連携推進機構地域医療・保健支援部門、
　[2] 富山大学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻疫学健康政策学分野

SY6-4　FUS・不健康やせを社会で防ぐために―健康教育・学校健診・成長曲線と小児科医の役割―
蜂屋　瑠見
　国際医療福祉大学市川総合病院小児科

シンポジウム 7　性分化疾患（DSD）診療のこれから―多職種連携で支えるチーム医療の実装―

◎

11 月 6 日（金）　14：20 ～ 15：40　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

共同企画：JSPE 性分化疾患副腎委員会

座長　石井　智弘（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）
　　鹿島田　健一（国立成育医療研究センター内分泌・代謝科）

SY7-1　DSD 診療における多職種連携～福岡市立こども病院での取り組み～
都　研一[1]、宇都　裕子[2]
[1] 福岡市立こども病院内分泌・代謝科、[2] 福岡市立こども病院地域医療連携室

SY7-2　DSD 診療における看護職の役割と専門性
石見　和世
兵庫県立大学看護学部

SY7-3　性分化疾患における多職種連携：小児外科・小児泌尿器科の立場から
矢内　俊裕
茨城県立こども病院小児外科、小児泌尿器科

SY7-4　性分化疾患（DSD）診療のこれから：ターナー症候群に対して産婦人科医の立場から
河村　和弘
順天堂大学

シンポジウム 8　1 型糖尿病はどこまで予防できるのか―スクリーニング・免疫介入・β 細胞温存の最前線―

◎

11 月 6 日（金）　14：20 ～ 15：40　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

共同企画：JSPE 糖代謝委員会

座長　松井　克之（滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科）
　　望月　美恵（甲府病院小児科）

SY8-1　日本における 1 型糖尿病発症前スクリーニング・モニタリング―PREP-T1D 研究の成果と今後の展開―
中條　大輔[1,2]、今川　彰久[3]、川村　智行[4]、菊池　透[5]、及川　洋一[6]、島田　朗[6]
[1] 国際医療福祉大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科学、
[2] 国際医療福祉大学市川総合病院糖尿病・代謝・内分泌内科、[3] 大阪医科薬科大学内科学 I、
[4] あべのメディカルクリニック、[5] 埼玉医科大学小児科、[6] 埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科

SY8-2　小児 1 型糖尿病スクリーニングの現状と未来
鈴木　潤一
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

SY8-3　1 型糖尿病の発症・進行予防と β 細胞機能温存
髙谷　具純
獨協医科大学埼玉医療センター小児科

シンポジウム 9　中枢性思春期早発症―診断と治療を再考する―

◎

11 月 7 日（土）　8：00 ～ 9：20　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

座長　伊達木　澄人（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学）
　　鞍嶋　有紀（島根大学医学部小児科学教室）

SY9-1　中枢性思春期早発症診療の現在地：診断基準と治療適応のギャップ
水野　晴夫
藤田医科大学医学部小児科学

SY9-2　変わりゆく思春期、変わらない診断基準―国内の成り立ち・国際比較・疫学から「再考」する―
曽根田　瞬[1,2]、田中　敏章[1]
[1]たなか成長クリニック、[2]聖マリアンナ医科大学小児科

SY9-3　中枢性思春期早発症の治療を再考する―何のために、どう治療するのか―
濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科

シンポジウム 10　小児肥満診療の実践と課題―地域・施設での取り組みから学び、日常診療へつなぐ―

11 月 7 日（土）　14：15 ～ 15：35　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）　◎

共同企画：JSPE 糖代謝委員会/栄養委員会

座長　井ノ口　美香子（慶應義塾大学保健管理センター）
菊池　透（埼玉医科大学小児科）

SY10-1　小児肥満診療の一般小児科診療への普及を目指して
菊池　透
埼玉医科大学小児科

SY10-2　地域の小児病院での肥満診療への取り組み
田邉　裕子[1,2]
[1]関西医科大学香里病院、[2]大阪旭こども病院

SY10-3　クリニックでの小児肥満外来の取り組み
村下　眞理
医療法人むらしたこどもクリニック

シンポジウム 11　先天性高インスリン血症の現在地と未来―診断・治療・遺伝からみた包括的アプローチ―

11 月 7 日（土）　14：15 ～ 15：35　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）　◎

座長　鈴木　滋（旭川医科大学小児科）
高澤　啓（東京科学大学発生発達病態学分野）

SY11-1　オクトレオチドを中心とした CHI 治療
細川　悠紀
倉敷中央病院小児科

SY11-2　先天性高インスリン血症の病変局在診断で実施した F-DOPA PET の信頼性と限界についての検討
増江　道哉
中部国際医療センター小児科

SY11-3　先天性高インスリン血症における Pancreas%に基づいた膵切除と長期予後
渡辺　稔彦[1]、下島　直樹[2]、石丸　哲也[2]、鹿島田　健一[3]、増江　道哉[4]
[1]東海大学医学部小児外科学、[2]国立成育医療研究センター外科、
[3]国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[4]中部国際医療センター小児科

SY11-4　CHI の遺伝学的診断
樋口　真司、森　潤
大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科

SY11-5　過去から未来へと繋ぐ、重症先天性高インスリン血症の新たな診断・治療戦略の提唱
髙澤　啓
東京科学大学発生発達病態学分野

シンポジウム 12　成長異常の早期発見と対応

◎

11 月 7 日（土）　14：15 ～ 15：35　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

共同企画：成長曲線委員会

座長　溝田　美智代（今村総合病院小児科）
　　石井　加奈子（九州大学病院小児科）

SY12-1　成長曲線を活用した成長異常の早期発見と地域連携
森　潤
大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科

SY12-2　学校健診における成長曲線活用の実践―北九州市における事後措置体制の構築と継続的改善への取り組み―
山本　幸代
産業医科大学医学部医学教育担当教員

SY12-3　学校健康診断における成長曲線の活用～静岡市の取り組みについて～
大久保　由美子
静岡市静岡医師会

SY12-4　島根県での学校健診における異常成長曲線判定の取り組みと成長曲線異常判定プログラム開発から見えたこと
鞍嶋　有紀
島根大学医学部小児科

SY12-5　成長曲線活用の次のステップ：成長曲線管理委員会の役割
磯島　豪
国家公務員共済組合連合会虎の門病院小児科

シンポジウム 13　小児内分泌領域における Unmet Medical Needs―適応外・未承認医薬品をめぐる課題と展望―

◎

11 月 7 日（土）　14：15 ～ 15：35　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

座長　室谷　浩二（神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科）
　　藤澤　泰子（浜松医科大学小児科）

SY13-1　適応外使用医薬品への取り組み～55 年通知の活用～
長崎　啓祐
長野県立こども病院内分泌代謝科

SY13-2　古典型 21 水酸化酵素欠損症における Unmet Medical Needs：糖質コルチコイド用量低減に向けた新規治療について
天野　直子
東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

SY13-3　小児肥満に対する GLP-1/GIP 製剤―未承認をめぐる現状と課題―
田久保　憲行
順天堂大学医学部小児科学講座

SY13-4　5α 還元酵素欠損症に対する DHT 治療―Treatment Window of Opportunity and Unmet Medical Needs
石井　智弘
東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

SY13-5　小児がん領域におけるドラッグアクセス改善に向けた取り組み
鈴木　麻也
九州大学病院

モーニングセミナー

11 月 7 日（土） 8：00 ～ 8：50　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

共催：レコルダティ・レア・ディジーズ・ジャパン株式会社

座長　小倉　正恒（順天堂大学医療科学部臨床検査学科）

MS-1　早期診断から始まる FH ホモ接合体診療―小児期から実践する LET's Strategy―

小倉　正恒

順天堂大学医療科学部臨床検査学科

MS-2　健診で見逃さない家族性高コレステロール血症―香川県の取り組みと HoFH 早期発見への挑戦

南野　哲男

香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学

ランチョン教育セミナー 1

11 月 5 日（木） 11：55 ～ 12：45　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

座長　堀川　玲子（サンマルコクリニック）

LS1　ソグルーヤ®の SGA 性低身長症への適応拡大を契機に成長ホルモン治療を再考する

大幡　泰久

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

ランチョン教育セミナー 2

11 月 5 日（木） 11：55 ～ 12：45　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

共催：BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社

座長　道上　敏美（地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門）

LS2-1　小児軟骨無形成症の脊柱・下肢アライメントとボソリチドの効果

松下　雅樹

名古屋大学整形外科

LS2-2　軟骨無形成症における大孔部狭窄初期評価と頭蓋底軟骨結合の検討

加藤　美穂子

あいち小児保健医療総合センター脳神経外科

ランチョン教育セミナー 3

11 月 5 日（木） 11：55 ～ 12：45　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

共催：Ultragenyx Japan 株式会社

座長　石井　智弘（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）

LS3　LC-FAOD 診療アップデート―トリヘプタノインによる新たな治療アプローチ―

中村　公俊

熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座

ランチョン教育セミナー 4

11 月 5 日（木） 11：55 ～ 12：45　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

共催：ファイザー株式会社 スペシャルティケア メディカルアフェアーズ

座長　森　潤（大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科）

LS4　成長ホルモン治療におけるレジストリー研究の役割と展望の考察

磯島　豪

国家公務員共済組合連合会虎の門病院小児科

ランチョン教育セミナー 5

11 月 6 日（金） 11：30 ～ 12：20　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

共催：JCR ファーマ株式会社

座長　田久保　憲行（順天堂大学医学部小児科学講座）

LS5　SGA 性低身長症の GH 治療の現在地：長期データからみた有効性と安全性

鈴木　滋

旭川医科大学小児科

ランチョン教育セミナー 6

11 月 6 日（金） 11：30 ～ 12：20　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

共催：リズムファーマ株式会社

座長　鳴海　覚志（慶應義塾大学医学部小児科学教室）

LS6　後天性視床下部性肥満の病態と治療戦略：頭蓋咽頭腫術後肥満に対する新たな展望

長崎　啓祐

長野県立こども病院内分泌代謝科

ランチョン教育セミナー 7

11 月 6 日（金） 11：30 ～ 12：20　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

共催：アレクシオンファーマ合同会社

座長　道上　敏美（地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門）

LS7　低ホスファターゼ症の患者家族はどのような医療支援を必要としているか？

北岡　太一

医療法人医誠会医誠会国際総合病院小児科

ランチョン教育セミナー 8

11 月 6 日（金） 11：30 ～ 12：20　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

共催：ファイザー株式会社

座長　石井　智弘（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）

LS8-1　自己注射移行期における GH 製剤の主体的選択がアドヒアランスと成長反応に及ぼす影響

尾﨑　佳代

兵庫県立こども病院代謝内分泌科

LS8-2　**臨床試験から考えるソムアトロゴンの位置付け**
森川　俊太郎
北海道大学大学院医学研究院小児科学教室

ランチョン教育セミナー 9　1 型糖尿病の未来を拓く

11 月 7 日（土）　12：20 ～ 13：10　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）
共催：サノフィ株式会社ジェネラルメディスンメディカル本部
座長　田島　敏広（自治医科大学小児科学講座）

LS9-1　**1 型糖尿病の早期発見を目指して～スクリーニングの意義と課題～**
鈴木　潤一
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

LS9-2　**小児 1 型糖尿病の新たな診療アプローチ～PREP-T1D 研究が示す日本の今後の方向性～**
菊池　透
埼玉医科大学小児科

ランチョン教育セミナー 10

11 月 7 日（土）　12：20 ～ 13：10　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）
共催：協和キリン株式会社
座長　田中　弘之（岡山済生会総合病院）

LS10-1　**小児期と成人期の低リン血症性くる病・骨軟化症の画像所見の特徴**
坂本　優子
順天堂大学医学部附属練馬病院整形外科

LS10-2　**小児期から成人期までをつなぐ低リン血症性くる病・骨軟化症の治療**
髙士　祐一
福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科学講座

ランチョン教育セミナー 11

11 月 7 日（土）　12：20 ～ 13：10　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）
共催：Ultragenyx Japan 株式会社
座長　鹿島田　健一（国立成育医療研究センター小児内科系専門診療部内分泌・代謝科）

LS11-1　**今、小児科医が出来ること　家族性高コレステロール血症ホモ接合体の早期診断と治療　最新のガイドラインから考える**
斯波　真理子
大阪医科薬科大学 循環器センター

LS11-2　**小児期のホモ接合体家族性高コレステロール血症の治療法を考える：5 歳男児のエヴキーザによる治療経験から**
島　彦仁
東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野

スイーツセミナー 1

11 月 5 日（木） 15：40 ～ 16：30　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

共催：JCR ファーマ株式会社

座長　難波　範行（鳥取大学周産期・小児医学分野）

SWS1　Growth disorders and recent updates in growth hormone therapy in Europe.

Erica van den Akker

Erasmus University Medical Center – Sophia Children's Hospital

スイーツセミナー 2

11 月 6 日（金） 14：20 ～ 15：10　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

座長　田島　敏広（自治医科大学とちぎ子ども医療センター）

SWS2　週 1 回製剤をきっかけに考える SGA 性低身長症の GH 治療

森川　俊太郎

北海道大学大学院医学研究院小児科学教室

スイーツセミナー 3

11 月 6 日（金） 14：20 ～ 15：10　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）

共催：サンド株式会社

座長　川井　正信（地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門）

SWS3　社会医療費増大の時代にわれわれは何ができるか

伊達木　澄人

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学

スポンサード教育セミナー 1

11 月 5 日（木） 17：15 ～ 18：05　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）

共催：リズムファーマ株式会社

座長　水野　晴夫（藤田医科大学医学部小児科学）

SS1　視床下部性肥満―病態の理解と臨床アプローチ―

伊達木　澄人

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学

スポンサード教育セミナー 2　FGFR3 関連骨系統疾患の診断を再考する―軟骨低形成症の診断ガイドから学ぶ―

11 月 6 日（金） 15：45 ～ 16：35　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）

共催：BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社　メディカルアフェアーズ

座長　難波　範行（鳥取大学医学部周産期・小児医学分野）

SS2-1　見逃さない―軟骨低形成症の診断ガイドから FGFR3 関連骨系統疾患の診断を再考する

窪田　拓生

大阪母子医療センター腎・代謝科

SS2-2　軟骨低形成症の診療―整形外科医と小児内分泌科医との連携―
鬼頭　浩史
あいち小児保健医療総合センター整形外科

インタラクティブプレミアムセミナー　テクノロジーが切り拓く持続可能な未来

11 月 7 日（土）　9：00 ～ 11：20　　第 6 会場（北九州メッセ　3 階　301-304 会議室）
共催：サンド株式会社メディカルアフェアーズ本部
座長　松井　克之（滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科）

IPS-1　もう一人の私（AI）にどうタスクシフトするか？日常診療を支える生成 AI 活用
香田　将英
東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

IPS-2　小児内分泌診療で遺伝学的検査をどう使う？ 症例から学ぶ 適応・解釈・応用
鳴海　覚志
慶應義塾大学医学部小児科学教室

IPS-3　GH の歴史を振り返り、未来を考えよう
小山　さとみ
獨協医科大学埼玉医療センター小児科

スポンサード教育シンポジウム

11 月 5 日（木）　10：00 ～ 10：50　　第 6 会場（北九州メッセ　3 階　301-304 会議室）
共催：大正製薬株式会社
座長　田島　敏広（自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科）

SES-1　小児・思春期 2 型糖尿病診療のポイント～10 歳以上の小児へのルセオグリフロジンへの期待～
菊池　透
埼玉医科大学小児科

SES-2　進化する成人 2 型糖尿病の治療～治療目標の達成を目指して～
加来　浩平
川崎医科大学

最優秀演題賞・若手優秀演題賞候補口演 1

11 月 5 日（木）　13：00 ～ 14：15　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）
座長　鳴海　覚志（慶應義塾大学医学部小児科学教室）
難波　範行（鳥取大学医学部周産期・小児医学分野）

SP1-1　X 連鎖性低リン血症モデル *Hyp* マウスの成獣個体における歯・歯周組織の形態的異常
西澤　千晶、宮川　和晃、道上　敏美
大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

SP1-2　リガンド非依存性機能亢進症状を伴う *GNAS*-Gsα バリアント 4 個の機能解析とタンパク構造解析

池田　麻衣子[1]、加藤　芙弥子[1]、沼倉　周彦[2,3]、Atilano Carcavilla[4,5]、
Guiomar Perez de Nanclares[6]、西村　玄[7]、西條　直也[8]、高山　順[9,10]、藤澤　泰子[1]、
仙石　徹[11]、緒方　一博[11,12]、才津　浩智[13]、緒方　勤[1,14]
[1] 浜松医科大学小児科学講座、[2] 山形大学医学部小児科、[3] 埼玉医科大学病院ゲノム医療科、
[4] マドリード自治大学ラ・パス大学病院小児内分泌科、
[5] ラ・パス大学病院骨系統疾患集学的診療ユニット（UMDE），ERN-BOND、
[6] アラバ大学病院 Bioaraba 健康研究所分子（エピ）遺伝学研究室希少疾患研究グループ、
[7] 武蔵野陽和会病院放射線科、[8] 東北大学大学院医学系研究科小児科、
[9] 東北大学大学院医学系研究科、[10] 東北大学未来型医療創成センター、
[11] 横浜市立大学医学研究科生化学教室、[12] 国際医療福祉大学大学院研究支援センター、
[13] 浜松医科大学医化学講座、[14] 浜松医療センター小児科

SP1-3　CAH に対する酵素・補酵素遺伝子共発現を用いた革新的遺伝子治療戦略

内木　康博[1,2]、高田　修治[3]、勝又　規行[4]、深見　真紀[4]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌代謝科、
[2] 国立成育医療研究センターシステム病態研究室、
[3] 国立成育医療研究センターシステム発生研究部、
[4] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部

SP1-4　濾紙血由来 DNA を用いた 21 水酸化酵素欠損症の CYP21A2 ロングリード解析

山野　春樹[1]、齋藤　洋子[1]、鈴木　友梨[1]、家村　綾正[1]、桐野　玄[1,3]、安達　恵利子[1,3]、
中谷　久恵[1]、我有　茉希[1]、辻　敦美[1]、小原　收[2]、鹿島田　健一[3]、髙澤　啓[1]
[1] 東京科学大学発生発達病態学分野/小児科、
[2] 公益財団法人かずさ DNA 研究所ゲノム事業推進部、
[3] 国立成育医療研究センター内分泌代謝科

SP1-5　ロングリードシーケンスを用いた X 染色体 DNA メチル化の評価

五十嵐　瑞穂[1,2]、増渕　颯[1]、服部　淳[1]、浦川　立貴[1]、田中　裕之[3]、吉井　啓介[4]、
鹿島田　健一[4]、福原　康之[5]、深見　真紀[1]、鏡　雅代[1]
[1] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[2] 東京大学小児科医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻、[3] 東京大学小児科、
[4] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、
[5] 国立成育医療研究センター遺伝診療センター遺伝診療科

最優秀演題賞・若手優秀演題賞候補口演 2

11 月 5 日（木）　14：15 ～ 15：30　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　石井　智弘（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）
　　深見　真紀（国立成育医療研究センター）

SP2-1　糖原病 Ia 型の本邦好発変異を標的とした新規核酸医薬による治療法の開発

岡田　賢[1]、佐倉　文祥[1]、中村　秀文[2]、但馬　剛[3]、松尾　雅文[4]
[1] 広島大学大学院医系科学研究科小児科学、[2] 国立成育医療研究センター研究開発監理部、
[3] 国立成育医療研究センター研究所マススクリーニング研究室、
[4] 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科

SP2-2　*ZNRF3* 関連副腎低形成症の新たな臨床像：束状層機能の改善と球状層機能障害の遷延

内田　登[1,2,3,4,5]、水谷　陽貴[3]、濱島　崇[3]、生駒　雅信[4]、髙橋　修平[2]、石井　智弘[5]、
長谷川　奉延[2,6]、鳴海　覚志[2]
[1] 東京都済生会中央病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、[4] 豊田厚生病院小児科、
[5] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[6] 柏たなか病院

SP2-3　本邦 5α 還元酵素欠損症の臨床的特徴：小児内分泌学会全国登録システムを用いた多施設共同後方視的観察研究

岩佐　真実[1]、池側　研人[1]、長谷川　行洋[1,2]、天野　直子[1]、木島　俊英[3]、鳴海　覚志[3]、和田　珠希[4]、川井　正信[4]、荻原　康子[5]、内木　康博[5]、鹿島田　健一[5]、成田　知聡[6]、三森　愛美[6]、田久保　憲行[6]、望月　貴博[7]、水谷　陽貴[8]、濱島　崇[8]、室谷　浩二[9]、佐野　伸一朗[10]、麻生　敬子[11]、石井　智弘[1]

[1] 東京都立小児総合医療センター、[2] 東京都立多摩北部医療センター、
[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[4] 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門、
[5] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[6] 順天堂大学医学部小児科学講座、
[7] 希望の森成長発達クリニック、[8] あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、
[9] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[10] 静岡県立こども病院糖尿病・代謝内科、
[11] 東邦大学医療センター大森病院小児科

SP2-4　卵形成期における GNAS exon H からの転写が GNAS メチル化確立を決定づける

浦川　立貴[1,2,3]、黄　海鵬[4]、永井　琢人[5]、服部　淳[1]、川崎　友之[4]、才津　浩智[6]、岩崎　順博[3]、ジュプナー　ハラルド[3]、阿久津　英憲[4]、深見　真紀[1]、鏡　雅代[1]

[1] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[2] 長崎大学医学部小児科学教室、
[3] マサチューセッツ総合病院 Endocrine Unit、
[4] 国立成育医療研究センター研究所再生医療センター、[5] 多治見市民病院小児科、
[6] 浜松医科大学医科学講座

SP2-5　妊娠満期の母体-胎盤-胎児ユニットにおける 11-oxygenated androgen 代謝の解明

古賀　信彦[1,2]、福井　由宇子[1]、土井　響[1]、荒巻　道彦[1]、本村　健一郎[3,4]、和田　誠司[4]、服部　淳[1,5,6]、中村　明枝[1]、深見　真紀[1,5]

[1] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[2] 福岡大学小児科、
[3] 国立成育医療研究センター研究所女性免疫バイオメディカル研究室、
[4] 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター、
[5] 国立成育医療研究センター研究所ダイバーシティ研究室、
[6] 国立成育医療研究センター研究所精密創薬研究部分子薬理研究室

English Oral Session 1

11 月 5 日（木）　10：40 ～ 11：30　　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）

座長　緒方　勤（浜松医療センター）
　　田嶋　朝子（東京慈恵会医科大学小児科）

EO1-1　Erythropoietin improves hepatic inflammation and metabolism via sEH–epoxide pathway in obese mice

Goda Takeshi[1], Chiharu Cho[1], Madoka Konishi[1], Nozomi Inoue[1], Satoshi Miyagaki[1], Yasuhiro Kawabe[1], Hisakazu Nakajima[1], Masakazu Shinohara[2], Satoru Sugimoto[1]

[1] Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine,
[2] The Integrated Center for Mass Spectrometry, Kobe University Graduate School of Medicine

EO1-2 Therapeutic knock-in genome editing in mouse model of Ornithine Transcarbamylase Deficiency

Batjargal Khishigjargal [1], Tomoki Togashi [1], Yuji Kashiwakura [1,2], Nemekhbayar Baatartsogt [1,2], Kosuke Tsuchida [1], Takahiro Sato [1,3], Morisada Hayakawa [1,2], Kiwako Tsukida [2,4], Kazuhiro Muramatsu [2,4], Atsushi Hoshino [5], Osamu Nureki [6], Tsukasa Ohmori [1,2]

[1] Department of Biochemistry, Jichi Medical University,
[2] Center for Gene Therapy Research, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan,
[3] Department of Surgery, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan,
[4] Department of Pediatrics, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan,
[5] Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto,
[6] Department of Biological Sciences, Graduate school of Science, The University of Tokyo, Tokyo

EO1-3 PROGRES 2.0 : Observational cohort study of patients receiving weekly somatrogon or daily Genotropin®

Lissette M. Céspedes [1], Dominika Janus [2], Evelien Gevers [3], S. Faisal Ahmed [4], Thomas Edouard [5], Suet Ching Chen [6], Aristides Maniatis [7], Violeta Iotova [8], Primoz Kotnik [9], Marta Ciaccio [10], Abdulmoein Al Agha [11], Anne-Sophie Lambert [12], Annie Leong [13], Bradley S. Miller [14], Elena Lundberg [15], Malgorzata Wasniewska [16], Mariam Oniani [17], Maxime Gerard [18], Shenali Anne Amaratunga [19], Michael P. Wajnrajch [1,20]

[1] Pfizer Inc, New York, NY, USA,
[2] Department of Pediatric and Adolescent Endocrinology, Jagiellonian University Medical College, University Children`s Hospital, Krakow, Poland,
[3] Centre for Endocrinology, William Harvey Research Institute, John Vane Science Center, Queen Mary University of London, London UK, and Dept of Paediatric Endocrinology, Barts Health NHS Trust – Royal London Hospital, London, UK,
[4] Office for Rare Conditions Registries, School of Medicine, University of Glasgow, Glasgow, United Kingdom,
[5] Endocrine, Bone Diseases and Genetics Unit, Reference Centre for Rare Growth Disorders, CRESCENDO–FIRENDO network, Endo-ERN, Paediatric Research Unit CIC 1436, Children's Hospital, Toulouse University Hospital, Toulouse, France,
[6] Royal Hospital for Children, Developmental Endocrinology Research Group, School of Medicine, University of Glasgow, Glasgow, United Kingdom,
[7] Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, CO, USA,
[8] Department of Pediatrics, Medical University of Varna, UMHAT "Sv. Marina", Varna, Bulgaria,
[9] Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolic Diseases, University Children's Hospital, University Medical Centre Ljubljana and Department of Pediatrics, Medical Faculty, University of Ljubljana, Ljubljana, Slovenia,
[10] Endocrinology Service, National Hospital of Pediatrics, "Juan P. Garrahan", Buenos Aires, Argentina,
[11] Endocrine Care Academy and Clinical Services, Jeddah, Saudi Arabia,
[12] APHP, Paediatric Endocrinology Unit, Hospital Bicetre, Le Kremlin Bicetre, France,
[13] Paediatric Endocrinology Unit, University Malaya Medical Centre, University Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia,
[14] Division of Endocrinology, Department of Pediatrics, University of Minnesota Medical School, M Health Masonic Children's Hospital, Minneapolis, MN, USA,
[15] Institution of Clinical Sciences, Pediatrics, Umeå University, Umeå, Sweden,
[16] Department of Human Pathology of Adulthood and Childhood, University of Messina, Messina, Italy,
[17] M. Iashvili Children Central Hospital, Tbilisi, Georgia,
[18] Service de Pédiatrie, Hôpital Ambroise Paré, Boulogne Billancourt, France,
[19] Department of Paediatrics, Second Faculty of Medicine, Charles University, Motol and Homolka University Hospital, Prague, Czech Republic,
[20] New York University Grossman School of Medicine, New York, NY, USA

EO1-4 Vosoritide Increases Growth Velocity in Children With Hypochondroplasia：Phase 3 Trial Results

Namba Noriyuki [1], Andrew Dauber [2,3], Ravi Savarirayan [4,5,6], Philippe M. Campeau [7], Ricki Carroll [8], Moira Cheung [9], Valérie Cormier-Daire [10], Josep M. De Bergua [11], Thomas Edouard [12], Michaela V. Gonfiantini [13], Julie Hoover-Fong [14], Peter Kannu [15], Yutaka Kinoshita [16], Takuo Kubota [17,18], Roberto Mendoza-Londono [19], Yasuhisa Ohata [17], Roberta Onesimo [20], Katja Palm [21], Carlos Prada [22,23], Rachel Reynaud [24], Massimiliano Rossi [25], Oliver Semler [26], Kei Takasawa [27], Roberto Bassi [28], Sajda Ghani [29], Alice Huntsman Labed [29], Dane Osmond [28], Ian Sabir [29], Jeanette White [28], Mohamad Maghnie [30,31]

[1] Division of Pediatrics and Perinatology, Faculty of Medicine, Tottori University, [2] Division of Endocrinology, Children's National Hospital, [3] Department of Pediatrics, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences, [4] Molecular Therapies, Murdoch Children's Research Institute, [5] Royal Children's Hospital, [6] Department of Pediatrics, University of Melbourne, [7] Centre Hospitalier Universitaire Sainte-Justine Research Center, [8] Department of Pediatrics, Nemours Children's Hospital, [9] NIHR Great Ormond Street Hospital Biomedical Research Centre, University College London, [10] Department of Genomic Medicine for Rare Diseases, Reference Center for Skeletal Dysplasia, Necker-Enfants Malades Hospital, Paris Cité University, INSERM UMR 1163, Imagine Institute, [11] Arthroscopic Surgery Unit, MIKS Hospital, [12] Endocrine, Bone Diseases and Genetics Unit, Reference Center for Rare Growth and Bone Disorders, OSCAR and CRESCENDO Network, ERN-BOND and Endo-ERN, Paediatric Research Unit CIC 1436, Children's Hospital, Toulouse University Hospital, [13] Rare Diseases and Medical Genetics Unit, Bambino Gesù Children's Hospital, IRCCS, [14] Johns Hopkins University School of Medicine, [15] University of Alberta-Stollery Children's Hospital, [16] Department of Orthopedics, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University, Tokushima, Japan, [17] Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, The University of Osaka, Suita, Japan, [18] Department of Pediatric Nephrology and Metabolism, Osaka Women's and Children's Hospital, Osaka Prefectural Hospital Organization, Izumi, Japan, [19] Division of Clinical and Metabolic Genetics, Department of Pediatrics, The Hospital for Sick Children and University of Toronto, Toronto, ON, Canada, [20] Pediatric Unit, Fondazione Policlinico Universitario A. Gemelli IRCCS, and Catholic University of Sacred Heart, Rome, Italy, [21] Department of Pediatrics, Faculty of Medicine and University Hospital, Otto von Guericke University Magdeburg, Magdeburg, Germany, [22] Edwards Family Division of Genetics and Rare Diseases, Ann & Robert H. Lurie Children's Hospital, Chicago, IL, USA, [23] Department of Pediatrics, Northwestern University Feinberg School of Medicine, Chicago, IL, USA, [24] Aix-Marseille University, APHM, INSERM, MMG, UMR 1251, Multidisciplinary Pediatric Department, La Timone Children's Hospital, Marseille, France, [25] Genetics Department, Reference Center for Skeletal Dysplasias, Femme Mère Enfant Hospital, Hospices Civils de Lyon, and INSERM U1028, CNRS UMR5292, Lyon Neuroscience Research Centre, GENDEV Team, Claude Bernard Lyon 1 University, Lyon, France, [26] Department of Pediatrics, Faculty of Medicine and University Hospital Cologne, University of Cologne, Cologne, Germany, [27] Department of Pediatrics and Developmental Biology, Institute of Science Tokyo, Tokyo, Japan, [28] BioMarin Pharmaceutical Inc., San Rafael, CA, USA, [29] BioMarin（UK）Ltd, London, UK, [30] Department of Pediatrics, IRCCS Giannina Gaslini, Genoa, Italy, [31] Department of Neuroscience, Rehabilitation, Ophthalmology, Genetics, Maternal and Child Health, University of Genoa, Genoa, Italy

EO1-5 軟骨無形成症における infigratinib 臨床試験：PROPEL3、AOBA、PROPEL I & T

窪田　拓生 [1], Daniela Rogoff [2], 佐藤　裕 [3], 大薗　恵一 [4]

[1] 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター, [2] BridgeBio Pharma Inc., [3] 協和キリン株式会社, [4] 医療法人医誠会医誠会国際総合病院難病医療推進センター

EO1-6　Once-weekly Somapacitan in Children with Turner Syndrome（REAL8）：a Randomised, Phase 3 Trial

Kenichi Kashimada [1], Nelly Mauras [2], Claudia Boettcher [3], Michael Hojby [4], Kamil Soltysik [4], Alexander A. L. Jorge [5], Agnes Linglart [6], Xiaoping Luo [7], Philip G. Murray [8,9], Philippe Backeljauw [10]

[1] National Center for Child Health and Development（NCCHD）,
[2] Nemours Children's Health, Jacksonville, FL, United States of America,
[3] Paediatric Endocrinology and Diabetology, Julie-von-Jenner Haus, University of Bern Faculty of Medicine, Bern, Switzerland,
[4] Novo Nordisk A/S, Soborg, Denmark,
[5] Genetic Endocrinology Unit（LIM25）, Hospital das Clinicas da Faculdade de Medicina da Universidade de Sao Paulo（HC-FMUSP）, Brazil,
[6] Universite Paris Saclay, Inserm, AP-HP, Service Endocrinologie et diabete de l'enfant, Hopital Bicetre Paris-Saclay, Le Kremlin-Bicetre, France,
[7] Department of Pediatrics Tongji Hospital, Tongji Medical College, Huazhong University of Science and Technology, Wuhan Hubei, China,
[8] Division of Developmental Biology and Medicine, Faculty of Biology, Medicine and Health, University of Manchester, UK,
[9] Department of Paediatric Endocrinology, Royal Manchester Children's Hospital, Manchester, UK,
[10] Division of Endocrinology, Department of Pediatrics, Cincinnati Children's Hospital Medical Center, University of Cincinnati College of Medicine, Cincinnati, OH, USA.

English Oral Session 2

11 月 6 日（金）　8：20 ～ 9：00　　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）

座長　杉本　哲（京都府立医科大学小児科）
　　長谷川　行洋（都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）

EO2-1　Local, Global, Synergy in Adolescent Obesity：A Korea-Japan 30-Year Policy Simulation Model

Kim Dong Hyun [1], Young Se Kwon [1,2], Jisun Park [1,2], Hyo-Bin Kim [1,2]

[1] Department of Pediatrics, Inha University College of Medicine,
[2] Specialized Public Medical Center for Children, Inha University Hospital

EO2-2 Weight Category Improvement Following Setmelanotide in Pediatric Patients with Acquired Hypothalamic Obesity

Miller Jennifer [1], Hanneke M van Santen [2], Susan A Phillips [3], Jill Hamilton [4], Shana McCormack [5], Megan Kelsey [6], Ashley Shoemaker [7], Cecilia Scimia [8], Guojun Yuan [8], Christian L Roth [9]

[1] Pediatric Endocrinology, Department of Pediatrics, College of Medicine, University of Florida, Gainesville, FL, USA,
[2] Princess Máxima Center for Pediatric Oncology, Utrecht, The Netherlands and the Department of Pediatric Endocrinology, Wilhelmina Children's Hospital, University Medical Center Utrecht, Utrecht, The Netherlands,
[3] Pediatric Endocrinology, Rady Children's Hospital/University of California San Diego, San Diego, CA, USA,
[4] Division of Endocrinology, Hospital for Sick Children, Department of Pediatrics, University of Toronto, Toronto, ON, Canada,
[5] Division of Endocrinology and Diabetes, Children's Hospital of Philadelphia, Philadelphia, PA, USA and Department of Pediatrics, Perelman School of Medicine at the University of Pennsylvania, Philadelphia, PA, USA,
[6] Department of Pediatrics, University of Colorado Anschutz Medical Campus, Aurora, CO, USA,
[7] Vanderbilt University Medical Center, Nashville, TN, USA,
[8] Rhythm Pharmaceuticals, Inc., Boston, MA, USA,
[9] Seattle Children's Hospital, University of Washington, Seattle, WA, USA

EO2-3 LONG-TERM EFFICACY WITH SETMELANOTIDE IN PEDIATRIC PATIENTS WITH ACQUIRED HYPOTHALAMIC OBESITY

Shoemaker Ashley H [1], Christian L Roth [2], Susan A Phillips [3], Jennifer Miller [4], Guojun Yuan [5], Cecilia Scimia [5], M. Jennifer Abuzzahab [6]

[1] Vanderbilt University Medical Center, Nashville, TN, USA,
[2] Seattle Children's Hospital, University of Washington, Seattle, WA, USA,
[3] Pediatric Endocrinology, Rady Children's Hospital/University of California San Diego, San Diego, CA, USA,
[4] Pediatric Endocrinology, Department of Pediatrics, College of Medicine, University of Florida, Gainesville, FL, USA,
[5] Rhythm Pharmaceuticals, Inc., Boston, MA, USA,
[6] Children's Minnesota, St. Paul, MN, USA

EO2-4 Serum vitamin D and Muscle-to-Fat Imbalance in Korean Adolescents : KNHANES 2022-2023

Lee Da Hye [1,2], Jae Hyeon Park [3]

[1] Department of Pediatrics, Chung-Ang University Hospital,
[2] Department of Pediatrics, Chung-Ang University College of Medicine,
[3] Department of Laboratory Medicine, Seoul National University Hospital

English Oral Session 3

11月6日（金） 9：00 ～ 9：40　第5会場（北九州国際会議場　3階　32会議室）

座長　中村　公俊（熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座）
　　沼倉　周彦（埼玉医科大学病院ゲノム医療科）

EO3-1　Reference intervals for serum adrenal steroids in early infancy using microbore UPLC-MS/MS

KIM KA YOUNG [1], Yun Jeong Lee [2], Min Jee Kim [3], Joon Hee Lee [4], Hwa Young Kim [5], Jaehyun Kim [5], Choong Ho Shin [2], Junghan Song [4], Kyunghoon Lee [4], Young Ah Lee [2]

[1] Department of Pediatrics, Catholic Kwandong University International St. Mary's Hospital, Incheon,
[2] Department of Pediatrics, Seoul National University Children's Hospital, Seoul,
[3] Integrated & Respite Care Center for Children, Seoul National University Hospital, Seoul,
[4] Department of Laboratory Medicine, Seoul National University Bundang Hospital, Seongnam,
[5] Department of Pediatrics, Seoul National University Bundang Hospital, Seongnam

EO3-2　Severe respiratory distress as an initial presentation of neonatal Graves' Disease

Keitaro Ishikura, Michihiko Ueno, Keiji Haseyama, Shuji Sai

Department of Pediatrics, Teine-Keijinkai Hospital

EO3-3　Childhood Type 1 Diabetes Forecasts After Rotavirus Vaccination in Korea

Park Jisun [1,2], Young Se Kwon [1,2], Dong Hyun Kim [1,2], Hyo-Bin Kim [1,2]

[1] Department of Pediatrics, Inha University College of Medicine,
[2] Specialized Public Medical Center for Children, Inha University Hospital

EO3-4　Reclassification from Type 1 to Type 2 Diabetes in an Adolescent Girl

Miyagi Hajime

Tokyo Rinkai Hospital

English Oral Session 4

11月7日（土） 11：05 ～ 12：05　第5会場（北九州国際会議場　3階　32会議室）

座長　伊藤　純子（東京家政大学）
　　佐野　伸一朗（静岡県立こども病院糖尿病・代謝内科）

EO4-1　Treatment and Genetic Determinants of Short Adult Height in Childhood Cancer Survivors

Tomoko Yoshida [1], Jessica L. Baedke [2], Fan Wang [3], Kerry Ye [3], Yan Chen [3], Wonjong Moon [3], Yadav Sapkota [3], José Miguel Martínez [2], Thomas E. Merchant [4], Carmen L. Wilson [3], Shizue Izumi [7], Gregory T. Armstrong [3], Kirsten K. Ness [3], Melissa M. Hudson [3,5], Angela Delaney [3,6], Yutaka Yasui [3]

[1] Department of Social Medicine, National Center for Child Health and Development,
[2] School of Public Health, University of Alberta,
[3] Department of Epidemiology and Cancer Control, St. Jude Children's Research Hospital,
[4] Department of Radiation Oncology, St. Jude Children's Research Hospital,
[5] Departments of Oncology, St. Jude Children's Research Hospital,
[6] Departments of Pediatric Medicine-Endocrinology, St. Jude Children's Research Hospital,
[7] School of Data Sciences, Shiga University

EO4-2　Pediatric Cystic Prolactin-Producing PitNET Successfully Treated with Cabergoline

Tomoki Kamiyama, Ichiki Okumura, Mika Dofuku, Sachie Nakamura, Toshihiro Tajima

Department of Pediatrics, Jichi Medical University

EO4-3　Single-cell transcriptomics reveals paradoxical leukemia expansion in prednisolone-resistant T-ALL

Sai Shuji [1,2], Masataka Hasegawa [3], Jutaro Abe [3], Shinsuke Hirabayashi [3], Atsushi Manabe [2,3]

[1] Institute for Genetic Medicine, Hokkaido University,

[2] Department of Pediatrics, Teine-Keijinkai Hospital,

[3] Department of Pediatrics, Hokkaido University

EO4-4　軟骨無形成症 11 例における薬物療法選択の背景

森川　俊太郎 [1], 山形　大輝 [1], 遠藤　愛 [1], 菱村　希 [1], 山口　健史 [1,2]

[1] 北海道大学病院小児科, [2] 北海道大学環境健康科学研究教育センター

EO4-5　Somapacitan in Children Born Small for Gestational Age：2-Year REAL8 Results with Switch from Daily GH

Kenichi Kashimada [1], Aristides Maniatis [2], Volker Bottcher [3], Michael Hojby [4], Xinran Cheng [5], Carlos Alberto Longui [6], Lawrence Silverman [7], Kamil Soltysik [4], Agnes Linglart [8]

[1] National Center for Child Health and Development（NCCHD),

[2] Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, 80112 CO, USA.,

[3] Division of Pediatric Endocrinology and Metabolism, MVZ Endokrinologikum Frankfurt am Main, Frankfurt 60596, Germany.,

[4] Medical & Translational Science, Novo Nordisk A/S, Soborg 2860, Denmark.,

[5] Department of Pediatric Genetics, Endocrinology and Metabolism, Chengdu Women and Children's Center Hospital, Chengdu, China.,

[6] Pediatric Endocrinology Unit, Pediatric Department, Irmandade da Santa Casa de Misericordia de Sao Paulo and Santa Casa de Sao Paulo School of Medical Sciences, Sao Paulo, Brazil.,

[7] Goryeb Children's Hosptial, Atlantic Health, New Jersey, USA,

[8] Universite Paris-Saclay, Inserm, AP-HP, Service d'Endocrinologie et diabete de l'enfant, Hopital Bicetre Paris Saclay, F-94270 Le Kremlin-Bicetre, France.

EO4-6　Designing phase III study of umedaptanib pegol（anti-FGF2 RNA aptamer）in children with achondroplasia

Kenichi Kashimada [1,2,3,4,5,6,7,8], Jun Mori [2], Kayo Ozaki [3], Yuki Hosokawa [4], Kei Takasawa [5], Asako Tajima [6], Yosuke Nonaka [7], Yoshikazu Nakamura [7], Keiichi Ohzono [8]

[1] Division of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development,

[2] Division of Pediatric Endocrinology, Metabolism and Nephrology, Children's Medical Center, Osaka City General Hospital,

[3] Department of Endocrinology and Metabolism, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital,

[4] Department of Pediatrics, Kurashiki Central Hospital,

[5] Department of Pediatrics, Institute of Science Tokyo Hospital,

[6] Department of Pediatrics, Institute of Science Tokyo Hospital, [7] RIBOMIC Inc.,

[8] Professor Emeritus, Osaka University

Rapid Communication Session　新しい研究を育てる口演

11 月 6 日（金）　8：20 ～ 9：20　　第 6 会場（北九州メッセ　3 階　301-304 会議室）

座長　中村　明枝（国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部）
　　川井　正信（大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門/消化器・内分泌科）

RC-1　ROHHAD 症候群に合併した神経堤腫瘍の全ゲノム解析

宇都宮　朱里[1]、中原　輝[2]、長谷川　高誠[3]、檜井　孝夫[2]

[1] 広島市立北部医療センター安佐市民病院小児科・がんゲノム診療科、
[2] 広島大学病院遺伝子診療科、[3] 岡山大学学術研究院医療開発領域小児科

RC-2　局所性 CHI の病変形成機序解明に向けた 11p15 アリル特異的ロングリード・RNA-seq 統合解析

山野　春樹[1]、家村　綾正[1]、鈴木　友梨[1]、齋藤　洋子[1]、我有　茉希[1]、中谷　久恵[1]、
辻　敦美[1]、山澤　一樹[2]、髙澤　啓[1]

[1] 東京科学大学発生発達病態学分野/小児科、
[2] 独立行政法人国立病院機構東京医療センター遺伝診療科

RC-3　末梢神経伝導検査による小児 2 型糖尿病の神経症スクリーニング

堂福　美佳、上山　智樹、浅倉　佑太、小林　瑞、宮内　彰彦、中村　幸恵、小坂　仁、
田島　敏広

自治医科大学小児科

RC-4　本邦初の *THRA* バリアントによる甲状腺ホルモン不応症の 1 例

髙橋　修平[1]、橋本　伸弘[2]、上牧　務[1,2]、岩野　麗子[3]、室谷　浩二[3]、今野　麻里絵[1]、
鳴海　覚志[1]

[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] 静岡市立清水病院小児科、
[3] 神奈川県立こども医療センター

フォーカスセッション（Focus Session）　小児インスリン治療研究会

11 月 7 日（土）　8：00 ～ 9：00　　第 5 会場（北九州国際会議場　3 階　32 会議室）

座長　髙谷　具純（獨協医科大学埼玉医療センター小児科）
　　川村　智行（あべのメディカルクリニック）

FS-1　1 型糖尿病児の血糖管理と心理社会的 QOL の検討 1：学校生活における疾病開示・療養行動環境の影響

田邉　裕子[1,2]、松井　克之[1,3,4]、根本　千裕[1,3,5]、高橋　英城[1,3]、前田　泰宏[1,6]、倉田　研児[1,7]、
佐々木　香織[1,8]、柚山　賀彦[1,8]、鈴木　潤一[1,9]、川村　智行[1,10]、菊池　透[1,11]、山本　幸代[1,12]

[1] 小児インスリン治療研究会、[2] 関西医科大学香里病院小児科、
[3] 滋賀県立総合病院小児内分泌代謝科、[4] 滋賀医科大学小児科学講座、
[5] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、
[6] 東京女子医科大学八千代医療センター小児科、[7] まつもと医療センター小児科、
[8] 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、[9] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、
[10] あべのメディカルクリニック、[11] 埼玉医科大学小児科、[12] 産業医科大学医学部医学教育

FS-2　1 型糖尿病児の血糖管理と心理社会的 QOL の検討 2：デバイスと学校環境の影響

松井　克之[1,2,3]、田邉　裕子[1,4]、根本　千裕[1,2,5]、高橋　英城[1,2]、前田　泰宏[1,6]、倉田　研児[1,7]、佐々木　香織[1,6]、柚山　賀彦[1,8]、鈴木　潤一[1,9]、川村　智行[1,10]、菊池　透[1,11]、山本　幸代[1,12]

[1] 小児インスリン治療研究会、[2] 滋賀県立総合病院小児内分泌代謝科、
[3] 滋賀医科大学小児科学講座、[4] 関西医科大学香里病院小児科、
[5] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、
[6] 東京女子医科大学八千代医療センター小児科、[7] まつもと医療センター小児科、
[8] 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、[9] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、
[10] あべのメディカルクリニック、[11] 埼玉医科大学小児科、[12] 産業医科大学医学部医学教育

FS-3　小児 1 型糖尿病児の療養行動と年齢・罹病期間の関連性：小児インスリン治療研究会データからの検討

高橋　英城[1,2]、松井　克之[1,2,3]、根本　千裕[1,2,5]、田邉　裕子[1,4]、前田　泰宏[1,6]、倉田　研児[1,7]、佐々木　香織[1,6]、柚山　賀彦[1,8]、鈴木　潤一[1,9]、川村　智行[1,10]、菊池　透[1,11]、山本　幸代[1,12]

[1] 小児インスリン治療研究会、[2] 滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科、
[3] 滋賀医科大学小児科学講座、[4] 関西医科大学香里病院小児科、
[5] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、
[6] 東京女子医科大学八千代医療センター小児科、[7] まつもと医療センター小児科、
[8] 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、[9] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、
[10] あべのメディカルクリニック、[11] 埼玉医科大学小児科、[12] 産業医科大学医学部医学教育

FS-4　小児期発症 1 型糖尿病における糖尿病性網膜症の特徴～小児インスリン治療研究会第 5 コホート研究より～

小川　洋平[1,2]、菊池　信行[2,3]、会津　克哉[2,4]、八ツ賀　秀一[2,5]、田久保　憲行[2,6]、長石　純一[2,7]、佐藤　詩子[2,8]、村尾　和良[2,9]、今田　進[2,10]、門脇　弘子[2,11]、菊池　透[2,12]

[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[2] 小児インスリン治療研究会、[3] 横浜労災病院小児科、
[4] 埼玉県立小児医療センター代謝内分泌科、[5] 函館五稜郭病院臨床遺伝科、
[6] 順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科・思春期科、[7] 鳥取市立病院小児科、
[8] 三楽病院小児科、[9] 鳥取県立中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科、
[10] こんだこども医院小児科、[11] 赤坂山王メディカルセンター小児科、[12] 埼玉医科大学小児科

FS-5　小児自己抗体陰性 1 型糖尿病の主因は、特定の遺伝子バリアントではなく HLA に依存する疾患感受性である

成田　知聡[1,2]、菊池　透[3]、杉原　茂孝[3]、田久保　憲行[2,3]、東海林　宏道[2]、中村　明枝[1]、深見　真紀[1,3]

[1] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[2] 順天堂大学医学部医学研究科小児思春期発達・病態学、[3] 小児インスリン治療研究会

FS-6　1 型糖尿病発症時の高トリグリセリド血症の実態と急性膵炎合併の検討：小児インスリン治療研究会第 6 コホート

糸永　知代[1,2]、澤野　堅太郎[2,3]、松田　史佳[1,2]、永田　知裕[2,4]、牧村　美佳[2,5]、鈴木　潤一[2,6]、柚山　賀彦[2,7]、川村　智行[2,8]、山本　幸代[2,9]

[1] 大分大学医学部小児科、[2] 小児インスリン治療研究会、[3] 新潟大学医歯学総合病院小児科、
[4] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[5] 国立病院機構小倉医療センター小児科、
[6] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、[7] 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、
[8] あべのメディカルクリニック、[9] 産業医科大学医学部医学教育担当教員

一般口演 1　下垂体・成長 1

11 月 5 日（木）　10：40 ～ 11：40　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　鏡　雅代（国立成育医療研究センター分子内分泌研究部）
　　濱田　淳平（愛媛大学大学院医学系研究科小児科学）

O1-1-1　早産 SGA 児における重症度と身長キャッチアップ時期の関連

北尾　牧子[1]、佐藤　美保[1]、志賀　健太郎[2]

[1]横須賀共済病院小児科、[2]横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター

O1-1-2　出生体重別成長曲線の活用

山口　健史[1,2]、田村　菜穂美[1]、岩田　啓芳[1]、中村　明枝[2,3]、伊藤　善也[4]、長　和俊[5,6]、盛一　享徳[7]、河野　由美[8]、岸　玲子[1]

[1]北海道大学環境健康科学研究教育センター、[2]北海道大学大学院医学研究院小児科、[3]国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[4]日本赤十字北海道看護大学看護学部、[5]地域医療機能推進機構（JCHO）北海道病院小児科、[6]北海道大学病院周産母子センター、[7]国立成育医療研究センター研究所小児慢性特定疾病情報室、[8]自治医科大学小児科学講座

O1-1-3　在胎週数および出生時 Ponderal index は低身長小児の骨格筋量指標と正に関連する

宮原　由起[1]、和田　珠希[1]、小泉　美紀子[1]、山野　由貴[1]、畑　彩葉[1]、前山　隆智[1,2]、位田　忍[3]、惠谷　ゆり[1]、川井　正信[1,2]

[1]大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[2]大阪母子医療センター研究所分子遺伝内分泌・代謝研究部門、[3]大阪母子医療センター臨床検査科

O1-1-4　本邦の SGA 性低身長症における成長ホルモン治療の長期安全性と有効性：グロウジェクト®の製造販売後調査結果

田中　敏章[1]、横谷　進[2]、五百蔵　稔[3]、南井　佐妃子[3]

[1]たなか成長クリニック、[2]公立大学法人福島県立医科大学、[3]JCR ファーマ株式会社

O1-1-5　SGA 性低身長症における GH 治療後の成人身長の予測因子

黒川　祥子[1]、池側　研人[1]、鳴海　覚志[2]、長谷川　奉延[2,3]、横谷　進[4]、田中　敏章[5]、長谷川　行洋[1,6]、天野　直子[1]、石井　智弘[1]

[1]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[3]柏たなか病院、[4]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、[5]たなか成長クリニック、[6]東京都立多摩北部医療センター小児科

O1-1-6　一絨毛膜二羊膜双胎児における AGA 児と比較した SGA 性低身長症への成長ホルモン治療効果

寺田　啓輝、川村　啓太、渡邉　勇太、田邉　聡美、峯　佑介、青木　政子、長野　伸彦、鈴木　潤一、森岡　一朗

日本大学医学部小児科学系小児科学分野

一般口演 2　骨代謝・骨系統疾患 1

11 月 5 日（木）　10：40 ～ 11：40　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

座長　滝島　茂（草加市立病院診療部小児科）
　　藤原　幾磨（仙台市立病院）

O1-2-1　軟骨低形成症の早期診断手順の妥当性の検討

北岡　太一[1]、中山　尋文[2,3]、山村　なつみ[4]、中道　龍哉[1]、齋藤　広幸[1,5]、山本　賢一[2,6]、藤原　誠[2]、大幡　泰久[2]、窪田　拓生[4]、道上　敏美[4,7]、大薗　恵一[1,5]

[1] 医誠会国際総合病院小児科、[2] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、
[3] 大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔外科学、[4] 大阪母子医療センター腎・代謝科、
[5] 医誠会国際総合病院難病医療推進センター、
[6] 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生命育成看護科学講座、
[7] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

O1-2-2　2 歳未満でボソリチド治療を開始した軟骨無形成症児における長期データ：累積的な臨床的有用性

北岡　太一[1]、Ravi Savarirayan[2]、Carlos Bacino[3]、Ricki S. Carroll[4]、Julie E. Hoover-Fong[5]、Melita Irving[6]、William Wilcox[7]、Claire Milligan[8]、Swati Mukherjee[8]、Richard Rowell[9]、Ian Sabir[8]、Alice Huntsman-Labed[8]、Lynda E. Polgreen[10]

[1] 医誠会国際総合病院小児科、
[2] Murdoch Children's Research Institute, Royal Children's Hospital, and University of Melbourne, Parkville, Victoria, AUS、
[3] Baylor College of Medicine, Houston, TX, USA、
[4] Nemours Children's Hospital, Wilmington, DE, USA、
[5] Johns Hopkins University, Baltimore, MD, USA、
[6] Guy's and St. Thomas' NHS Foundation Trust, Evelina Children's Hospital, London, UK、
[7] Emory University School of Medicine, Atlanta, GA, USA、
[8] BioMarin（UK）Ltd, London, UK、[9] BioMarin Pharmaceutical Inc., Novato, CA, USA、
[10] Lundquist Institute for Biomedical Innovation at Harbor-UCLA Medical Center, Torrance, CA, USA

O1-2-3　新生児期を含む生後早期にボソリチド導入を行った軟骨無形成症例の検討

末岡　秀文[1]、中村　慧[1]、石井　玲[1]、岩佐　真実[2]、大山　和紗[3]、西山　楓奈[4]、入江　日和[5]、楠　香澄[6]、吉藤　和久[7]、津川　毅[1]

[1] 札幌医科大学小児科学講座、[2] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3] 市立釧路総合病院小児科、[4] 苫小牧市立病院小児科、[5] 製鉄記念室蘭病院小児科、
[6] 国立病院機構北海道医療センター小児科、
[7] 北海道立子ども総合医療・療育センター脳神経外科

O1-2-4　軟骨無形成症患児を対象としたボソリチドの使用成績調査：3 年間のリアルワールド安全性・有効性評価

松本　志郎[1]、北岡　太一[2]、鬼頭　浩史[3]、鹿島田　健一[4]、徳岡　宏文[5]、磯田　道孝[5]、藁谷　みいな[5]、星野　洋[5]、道上　敏美[6]

[1] 熊本大学病院新生児学寄附講座、[2] 医誠会国際総合病院小児科、
[3] あいち子ども医療総合センター整形外科、
[4] 国立成育医療研究センター病院内分泌・代謝科、
[5] BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社、
[6] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

O1-2-5　新生児骨形成不全症におけるパミドロン酸初回投与時の発熱は IL-6 上昇を伴う：3 例の検討

佐藤　武志[1]、中野　さつき[1]、市橋　洋輔[1]、横山　忠史[2]、鳴海　覚志[1]

[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] 金沢大学附属病院小児科

O1-2-6　高 ALP 血症、低骨密度、頻回骨折を伴った SATB2 関連症候群における骨所見の検討

山本　賢一[1,2]、服部　真也[2]、伊藤　由作[2]、島田　貴明[2]、石見　壮史[2]、中野　由佳子[2]、
中山　尋文[2,3]、藤原　誠[2]、北岡　太一[4]、大薗　恵一[5]、大幡　泰久[2]、北畠　康司[2]
[1]大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、[2]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、
[3]大阪大学大学院歯学系研究科顎顔面口腔外科学、[4]医誠会国際総合病院小児科、
[5]医誠会国際総合病院難病医療推進センター

一般口演 3　糖代謝・糖尿病・低血糖 1

11 月 5 日（木）　10：40 ～ 11：40　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

座長　志賀　健太郎（横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター）
　　平井　洋生（公立学校共済組合四国中央病院小児科）

O1-3-1　GCK-MODY における思春期関連 HbA1c 上昇は可逆的である―複数症例の縦断的検討―

松田　希[1]、滝島　茂[1,2]、酢谷　明人[3]、宮井　健太郎[4]、鈴木　友梨[2]、安達　恵利子[2]、
髙澤　啓[2]
[1]草加市立病院小児科、[2]東京科学大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学（小児科）、
[3]川口市立医療センター小児科、[4]東京北医療センター小児科

O1-3-2　当院で抗 ZnT8 抗体を測定した小児 1 型糖尿病患者に対する臨床的検討

森脇　彩賀、錦織　朱、西林　優、池谷　紀衣子、尾﨑　佳代
兵庫県立こども病院

O1-3-3　1 型糖尿病第一度近親者における発症前ステージ分類に基づく小児疫学的実態―PREP-T1D 研究より

川村　智行[1]、中條　大輔[2]、今川　彰久[3]、菊池　透[4]、白木　ゆり[5]、小柴　隆二[5]、
島田　朗[6]
[1]あべのメディカルクリニック、
[2]国際医療福祉大学市川総合病院糖尿病・代謝・内分泌内科、[3]大阪医科薬科大学内科学、
[4]埼玉医科大学小児科、[5]サノフィ株式会社ジェネラルメディスンメディカル本部、
[6]埼玉医科大学内分泌内科・糖尿病内科

O1-3-4　1 型糖尿病のステージ分類、スクリーニング、疾患修飾療法における JSPE 会員の認識調査

髙谷　具純[1,2]、志賀　健太郎[1,3]、望月　美恵[1,4]、小川　洋平[1,5]、鈴木　滋[1,6]、鈴木　潤一[1,7]、
髙澤　啓[1,8]、田嶋　朝子[1,9]、濱田　淳平[1,10]、細川　悠紀[1,11]、松井　克之[1,12]、森　潤[1,13]、
山本　幸代[1,14]、柚山　賀彦[1,15]、田久保　憲行[1,16]、菊池　透[1,17]
[1]日本小児内分泌学会糖代謝委員会、[2]獨協医科大学埼玉医療センター小児科、
[3]横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター、
[4]独立行政法人国立病院機構甲府病院小児科、[5]新潟大学医歯学総合病院小児科、
[6]旭川医科大学小児科、[7]日本大学医学部小児科学系小児科学分野、
[8]東京科学大学発生発達病態学分野（小児科）、[9]東京慈恵会医科大学小児科学講座、
[10]愛媛大学大学院医学系研究科小児科学、[11]倉敷中央病院小児科、
[12]滋賀県立総合病院小児内分泌代謝科、
[13]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[14]産業医科大学医学部医学教育担当教員、[15]大阪公立大学大学院医学研究科発達小児科学、
[16]順天堂大学医学部小児科学講座、[17]埼玉医科大学小児科

O1-3-5　当院で診断した初発小児 1 型糖尿病における糖尿病性ケトアシドーシス合併例の臨床的特徴

山口　将邦[1,2]、島田　正晴[1]、和田　綾[1]、大澤　好充[1]、大津　義晃[1]、滝沢　琢己[1]
[1]群馬大学医学部附属病院小児科、[2]JCHO 群馬中央病院小児科

O1-3-6　小児 DKA/HHS オーバーラップ症例 10 例の臨床的検討

中村　千鶴子[1]、田所　宏啓[1]、濱島　崇[2]、水谷　陽貴[2]、松井　克之[3]、高橋　英城[3]、
田中　基意[3]、佐野　伸一朗[4]、村井　雄紀[4]、堀江　潤[4]、長崎　啓祐[1]
[1]長野県立こども病院、[2]あいち小児保健医療総合センター、[3]滋賀県立総合病院、
[4]静岡県立こども病院

一般口演 4　副腎

11 月 5 日（木）　10：40 ～ 11：40　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

座長　川越　倫子（戸畑総合病院小児科）
　　澤田　浩武（宮崎大学医学部看護学科）

O1-4-1　組織特異的 *SAMD9* ノックインマウスの副腎表現型解析

志村　和浩[1,2]、柴田　浩憲[1,3]、藏本　純子[4]、大和久　健太[5]、村上　智亮[5]、石井　智弘[1,6]、
長谷川　奉延[1,7]、鳴海　覚志[1]
[1]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2]横浜市立市民病院小児科、
[3]川崎市立川崎病院小児科、[4]慶應義塾大学医学部病理学教室、
[5]東京農工大学農学研究院獣医毒性学研究室、
[6]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[7]柏たなか病院

O1-4-2　LC-MS/MS を用いた先天性副腎過形成症スクリーニングにおける PORD 検出の可能性

渡辺　和宏[1,4]、小松　美南[1,4]、橋本　敦子[1,4]、鈴木　友梨[2]、齋藤　洋子[2]、山野　春樹[2]、
中谷　久恵[2]、石毛　信之[1,4]、鹿島田　健一[3,4]、髙澤　啓[2,4]
[1]公益財団法人東京都予防医学協会、[2]東京科学大学発生発達病態学分野（小児科）、
[3]国立成育医療研究センター内分泌代謝科、[4]東京都新生児スクリーニングコンソーシアム

★O1-4-3　*TNXB/TNXA* キメラ接合部の統合的解析から明らかにする、新規非定型的 CAH-X アレルと新たな分子病態

山口　智美[1,2,3]、髙澤　啓[4]、安達　恵利子[4,5]、齋藤　洋子[4]、松井　克之[6]、宇都宮　朱里[7]、
桐野　玄[4,5]、山野　春樹[4]、中谷　久恵[4]、長谷川　行洋[8]、濱島　崇[9]、川井　正信[10]、
長谷川　奉延[11]、鳴海　覚志[11]、古庄　知己[1,2,3,12,13]、鹿島田　健一[4,5]
[1]信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センター、[2]信州大学医学部遺伝医学教室、
[3]信州大学医学部クリニカル・シークエンス学講座、[4]東京科学大学発生発達病態学、
[5]成育医療研究センター内分泌代謝科、[6]滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科、
[7]広島市立北部医療センター安佐市民病院小児科・がんゲノム診療科、
[8]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[9]あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、
[10]大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[11]慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[12]信州大学基盤研究支援センター機器分析部門、
[13]信州大学医学部附属病院バイオバンク信州

O1-4-4　21 水酸化酵素欠損症における午前採血時の服薬後 17OHP 管理目標の検討

青山　幸平[1]、木村　隼大[1,3]、原　佑太朗[1]、大矢知　真希[1]、山口　直哉[1,2]、鈴木　敦詞[1]
[1]名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、
[2]名古屋市立大学医学部附属西部医療センター小児科、
[3]三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻臨床医学系講座小児科学分野

O1-4-5　産児における免疫測定法と LC-MS/MS 法によるコルチゾール値の乖離と交差反応の検討

下風　朋章[1]、岩野　麗子[2]、斎藤　朋子[1]、花川　純子[3]、室谷　浩二[3]
[1]神奈川県立こども医療センター新生児科、[2]神奈川県立こども医療センター臨床研究所、
[3]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科

O1-4-6　本邦の 21 水酸化酵素欠損症患者の糖質コルチコイド補充療法と身体発育の実態

鈴木　滋[1]、鹿島田　健一[2]、向井　徳男[3]、勝又　規行[4]、石井　智弘[5,6]、田島　敏広[7]、
柴田　洋孝[8]、長谷川　奉延[5,9]

[1]旭川医科大学小児科、[2]国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、
[3]旭川赤十字病院小児科、[4]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[5]慶應義塾大学医学部小児科、[6]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[7]自治医科大学小児科学講座、[8]大分大学医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座、
[9]柏たなか病院

一般口演 5　下垂体・成長 2

11 月 5 日（木）　17：05 ～ 18：05　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　堀川　玲子（サンマルコクリニック）
　　八ツ賀　秀一（福岡大学小児科）

O1-5-1　SHOX 異常症におけるコーディング領域変異群とエンハンサー領域コピー数変異群の表現型の比較

岩山　秀之[1,2]、泉　健吾[3]、鈴木　滋[3]、濱田　英五[4]、河原　幸平[5]、北川　幸子[4]、
高木　潤子[1]、伊藤　嘉規[1]、奥村　彰久[1]

[1]愛知医科大学、[2]ほしがおか成長クリニック、[3]旭川医科大学、[4]総合大雄会病院、
[5]豊田厚生病院

O1-5-2　SHOX 異常症における橈骨最大弯曲率の分布および特発性低身長との鑑別カットオフ値の検討

泉　健吾[1]、田上　晃弘[1]、齊藤　翔真[1]、八木　弘子[2]、島　彦仁[3]、森川　俊太郎[4]、
長崎　啓祐[5]、岩山　秀之[6]、鈴木　滋[1]

[1]旭川医科大学小児科、[2]弘前大学小児科、[3]東北大学小児科、[4]北海道大学小児科、
[5]長野県立こども病院内分泌代謝科、[6]愛知医科大学小児科

O1-5-3　父性減数分裂中に遺伝子変異の性染色体間移動が起こったと考えられる SHOX 遺伝子点変異が検出された 1 家系

中原　和恵[1]、泊　由里子[1]、春日井　悠[1]、吉元　陽祐[1]、岩屋　友香[1]、川上　沙織[1]、
西村　真直[1]、松尾　光通[1]、村田　憲治[1]、増本　夏子[1]、李　守永[1]、深見　真紀[2]

[1]独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター小児科、
[2]国立成育医療センター分子内分泌研究部

O1-5-4　日本人 SHOX 関連低身長小児患者における GH 治療の有効性および安全性：非盲検延長試験

緒方　勤[1,2]、伊達木　澄人[3]、深見　真紀[4]、高棹　直子[5]、平井　秀明[5]、茨木　亮[5]、
吉田　理[5]、山本　辰義[5]

[1]浜松医療センター、[2]浜松医科大学、[3]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、
[4]国立成育医療研究センター研究所、[5]JCR ファーマ株式会社

O1-5-5　成長障害を契機に診断された 1q21.1 微細欠失症候群の 3 家系 4 例の検討

黒澤　健悟[1]、妹尾　慎太郎[1]、山口　由起子[1]、藤本　正伸[1]、野中　智生[2]、粟野　宏之[2]、
難波　範行[1]

[1]鳥取大学医学部附属病院小児科、[2]鳥取大学医学部附属病院遺伝子診療科

O1-5-6　症候群性低身長児への全エクソーム解析の診断率と臨床的予測因子の検討

原　佑太朗[1]、木村　隼大[1,2]、大矢知　真希[1]、吉田　あや[1,3]、山口　直哉[1,4]、鈴木　敦詞[1]、
青山　幸平[1]

[1]名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、
[2]三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻臨床医学系講座小児科学分野、
[3]一宮市立市民病院、[4]名古屋市立大学医学部付属西部医療センター小児科

一般口演 6　周産期

11 月 5 日（木）　17：05 ～ 18：05　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

座長　松本　志郎（熊本大学病院小児科・新生児学寄附講座）
　　森岡　一朗（日本大学医学部小児科学系小児科学分野）

★O1-6-1　胎生期低栄養による低出生体重は肝グルココルチコイド応答の脱感作機構を障害する

根本　崇宏[1]、陸川　柊弥[1,2]、小坂　希美[1]、大羽　涼梨[1]、塚田　岳大[2]、柿沼　由彦[1]
[1] 日本医科大学、[2] 東邦大学

O1-6-2　胎児プログラミングは早産 SGA の catch-up growth を規定する可能性がある

黒田　淳平[1,2]、辻　敦美[1]、野口　優輔[1,3]、山野　春樹[1]、Yogi Analia[1]、髙澤　啓[1]、
髙木　正稔[1]、遠藤　健太郎[4]、関矢　一郎[4]、本多　泉[5]、岡崎　薫[2]、鹿島田　健一[1,6,7]
[1] 東京科学大学発生発達病態学、[2] 東京都立小児総合医療センター新生児科、
[3] 武蔵野赤十字病院新生児内科、[4] 東京科学大学再生医療研究センター、
[5] 東京都立多摩総合医療センター産婦人科、[6] 国立成育医療センター内分泌・代謝科、
[7] 国立成育医療センターシステム病態学

O1-6-3　臍帯血アミノ酸プロファイルの変化は出生体重と関連する

鞍嶋　有紀[1]、吾郷　真子[1]、森山　あいさ[1]、山本　慧[1]、皆本　敏子[2]、山中　大介[3]、
伯野　史彦[4]、竹谷　健[1]
[1] 島根大学医学部小児科、[2] 島根大学医学部産婦人科、
[3] 東京大学大学院農学生命科学研究科食と生体機能モデル学寄付講座、
[4] 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻

O1-6-4　早産児におけるビタミン D 代謝物 3-epi-25（OH）D_3 濃度評価と周産期臨床指標との関連

原　香織[1]、森澤　和美[1]、髙橋　修平[1]、有光　威志[1]、村松　翔太[2]、中川　央充[2]、
松下　弘道[2,3]、木内　歌穂[4]、草野　知江子[4]、堀　尚明[4]、飛彈　麻里子[5]、池田　一成[5]、
長谷川　奉延[1,6]、鳴海　覚志[1]
[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] 慶應義塾大学病院臨床検査科、
[3] 慶應義塾大学医学部臨床検査医学教室、[4] 太田記念病院小児科、
[5] さいたま市立病院周産期母子医療センター新生児内科、[6] 柏たなか病院

O1-6-5　生後早期の新生児における血清 25-hydroxyvitamin D 濃度の推移

原　香織[1]、池田　一成[2]、森澤　和美[1]、阿部　清美[1,3]、長谷川　奉延[1,4]、鳴海　覚志[1]
[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[2] さいたま市立病院周産期母子医療センター新生児内科、
[3] 埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科、[4] 柏たなか病院

O1-6-6　*NR3C2* 遺伝子に新規スプライスアクセプター部位バリアントを認めた偽性低アルドステロン症 I 型の双胎例

山野　由貴[1]、畑　彩葉[1]、和田　珠希[1]、宮原　由起[1]、岡本　伸彦[2]、惠谷　ゆり[1]、
川井　正信[1,3]
[1] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[2] 大阪母子医療センター遺伝診療科、
[3] 大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門

一般口演 7　肥満・やせ・栄養・脂質異常 1

11 月 5 日（木）　17：05 ～ 18：05　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

座長　母坪　智行（さっぽろ小児内分泌クリニック）
　　小林　浩司（山梨厚生病院小児科）

O1-7-1　帝王切開出生と 6 歳時小児肥満の関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

寺下　新太郎[1,2]、土田　暁子[1,3]、稲寺　秀邦[1,3]、今井　千速[2]、吉岡　英治[1,3]

[1] 富山大学エコチル調査富山ユニットセンター、[2] 富山大学学術研究部医学系小児科学、
[3] 富山大学医学部公衆衛生学講座

★O1-7-2　小児肥満における体組成指標（FMI・LMI）と代謝指標の関連

大濱　尚、齋藤　玲子、池上　朋未、桑村　真美、深野　玲司

産業医科大学病院

★O1-7-3　低 K 性代謝性アルカローシスを契機に診断された先天性レプチン欠損症の 1 例

森　潤[1]、長井　あかり[1]、甲賀　恵里[1]、渡部　瑶[1]、山田　勇気[1]、樋口　真司[1]、
川北　理恵[1]、奥野　美佐子[2]、長野　智那[3]、野津　寛大[3]

[1] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、[2] 兵庫医科大学小児科、
[3] 神戸大学小児科

O1-7-4　GH 治療を受けた日本人プラダー・ウィリ症候群患者における最終身長と関連因子の検討

大戸　佑二、小山　さとみ、髙谷　具純

獨協医科大学埼玉医療センター小児科

O1-7-5　プラダー・ウィリ症候群を疑った 2 症例における遺伝学的検査結果の検討

中川　万理恵[1]、中村　新太郎[1]、足立　夏帆[1]、太田　知子[1]、吉橋　博史[2]、田中　裕之[1]

[1] 東京大学医学部附属病院、[2] 東京都立小児総合医療センター

O1-7-6　成人プラダー・ウィリ症候群における成長ホルモン治療は骨格筋量および骨格筋質を改善する

川井　正信[1]、大戸　佑二[2]、和田　珠希[1]、杉浦　愛子[3]、根本　千裕[4]、池田　麻衣子[5]、
小山　さとみ[2]、鹿島田　健一[3]、室谷　浩二[4]、緒方　勤[5]

[1] 大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門、
[2] 獨協医科大学埼玉医療センター小児科、[3] 国立成育医療センター内分泌・代謝科、
[4] 神奈川県立こども病院内分泌代謝科、[5] 浜松医科大学小児科

一般口演 8　性腺・性分化 1

11 月 5 日（木）　17：05 ～ 18：05　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

座長　小川　朋恵（国立成育医療研究センターエコチル調査研究部）
　　望月　貴博（希望の森成長発達クリニック）

O1-8-1　6～8 歳発症特発性ゴナドトロピン依存性思春期早発症女児の成人身長予測式についての検討と検証

齋藤　玲子[1]、馬場　義郎[2,3]、尾﨑　佳代[4]、池側　研人[2]、長崎　啓祐[5]、中村　明枝[6]、
濱島　崇[7]、樋口　真司[8]、長谷川　行洋[2,9]

[1] 産業医科大学小児科、[2] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3] 新百合ヶ丘総合病院小児科、[4] 兵庫県立こども病院代謝内分泌科、
[5] 長野県立こども病院生命科学研究センター、
[6] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[7] あいち小児保健医療総合センター内分泌・代謝科、
[8] 大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科、[9] 多摩北部医療センター小児科

O1-8-2　思春期月経外来受診例の検討―小児内分泌科の役割―

宇治田　凪紗[1,2]、藤岡　泉[2]、纐纈　昌樹[1]、渡辺　健太[1]、山口　修平[1]、塩田　翔吾[1]、
杉浦　愛子[1]、荻原　康子[1]、吉井　啓介[1]、内木　康博[1,4]、ミラー　エリザベス[2]、
小宮　ひろみ[2]、鹿島田　健一[1,2,3,4]

[1]国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、
[2]国立成育医療研究センター女性の健康総合センター女性外科/婦人科、
[3]国立成育医療研究センター性分化・ジェンダーセンター、
[4]国立成育医療研究センターシステム発生研究部システム病態学

O1-8-3　ターナー症候群の視覚認知機能チェックリストの自動解析システムの作成

荒木　久美子[1]、稲田　勤[2]、西垣　五月[3]、望月　貴博[3]、荒木　まり子[4]、間部　裕代[5]、
樋口　洋介[6]

[1]秋山成長クリニック、[2]高知リハビリテーション専門職大学言語聴覚学専攻、
[3]希望の森成長発達クリニック、[4]高知大学医学部小児思春期医学、[5]間部病院小児科、
[6]岡山医療センター小児科

★O1-8-4　*ZNF462* は Kallmann 症候群の新たな責任遺伝子である

鈴木　友梨[1]、齋藤　洋子[1,2]、谷川　渉[3]、安達　恵利子[1,2]、山野　春樹[1]、中谷　久恵[1]、
我有　茉希[1]、辻　敦美[1]、松下　理恵[4]、杉山　謙二[5]、藤澤　泰子[3]、髙澤　啓[1]

[1]東京科学大学発生発達病態学分野/小児科、[2]JA とりで総合医療センター小児科、
[3]浜松医科大学小児科、[4]京都大学大学院薬剤疫学分野、[5]三重県立総合医療センター小児科

O1-8-5　*CHD7* バリアントを認めた高度自閉スペクトラム症合併 Kallmann 症候群の一例

加藤　弦樹[1]、波多野　恵[2]、鈴木　美慧[1]、小野　林太郎[1]、長谷川　大輔[1]、小澤　美和[1]

[1]聖路加国際病院、[2]東京科学大学大学院医歯学総合研究科分子腫瘍医学

O1-8-6　プレコンセプションケアに関する JSPE 会員の認識調査

小川　洋平[1,2]、山本　幸代[1,3]、濱田　淳平[1,4]、髙谷　具純[1,5]、志賀　健太郎[1,6]、望月　美恵[1,7]、
鈴木　滋[1,8]、鈴木　潤一[1,9]、髙澤　啓[1,10]、田嶋　朝子[1,11]、細川　悠紀[1,12]、松井　克之[1,13]、
森　潤[1,14]、柚山　賀彦[1,15]、田久保　憲行[1,16]、菊池　透[1,17]

[1]日本小児内分泌学会糖代謝委員会、[2]新潟大学医歯学総合病院小児科、
[3]産業医科大学医学部医学教育担当教員、[4]愛媛大学大学院医学系研究科小児科学、
[5]獨協医科大学埼玉医療センター小児科、
[6]横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター、
[7]独立行政法人国立病院機構甲府病院小児科、[8]旭川医科大学小児科、
[9]日本大学医学部小児科学系小児科学分野、[10]東京科学大学発生発達病態学分野（小児科）、
[11]東京慈恵会医科大学小児科学講座、[12]倉敷中央病院小児科、
[13]滋賀県立総合病院小児内分泌代謝科、
[14]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[15]大阪公立大学大学院医学研究科発達小児科学、[16]順天堂大学医学部小児科学講座、
[17]埼玉医科大学小児科

一般口演 9　下垂体・成長 3

11 月 6 日（金）　8：20 ～ 9：20　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　桑村　真美（産業医科大学小児科）
　　堀　友博（岐阜大学大学院医学系研究科小児科学）

★O2-9-1　PHV 年齢を代替指標として検討した思春期早発女子の成長学的特徴～秋田県成長コホートにおける縦断解析～

曽根田　瞬[1,2]、岸　健太郎[1,3]、師岡　直輝[1]、吉井　啓介[4]、横谷　進[5]、田中　敏章[1]

[1]たなか成長クリニック、[2]聖マリアンナ医科大学小児科、[3]市川ゆうサポートクリニック、
[4]国立成育医療研究センター内分泌代謝科、
[5]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

O2-9-2　PHV 年齢を代替指標として検討した思春期遅発女子の成長学的特徴～秋田県成長コホートにおける縦断解析～

師岡　直輝[1]、曽根田　瞬[1,2]、岸　健太郎[1,3]、吉井　啓介[4]、横谷　進[5]、田中　敏章[1]

[1]たなか成長クリニック、[2]聖マリアンナ医科大学小児科、[3]市川ゆうサポートクリニック、[4]国立成育医療研究センター内分泌代謝科、[5]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

O2-9-3　特発性成長ホルモン分泌不全症における負荷試験結果判定の相違

磯島　豪[1,5]、向山　祐理[1]、長谷川　奉延[2,5]、横谷　進[3,5]、田中　敏章[4,5]

[1]虎の門病院、[2]柏たなか病院、[3]福島県立医科大学、[4]たなか成長クリニック、[5]成長科学協会

O2-9-4　2 才未満の低血糖時クリティカルサンプルを用いた複合型下垂体機能低下症の診断精度

今村　真悠子[1]、池側　研人[1]、長谷川　行洋[1,2]、鳴海　覚志[3]、天野　直子[1]、石井　智弘[1]

[1]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2]東京都立多摩北部医療センター小児科、[3]慶應義塾大学医学部小児科

O2-9-5　Pou1f1 アイソフォーム比率の変化に対する下垂体細胞種による感受性の違い

秋葉　和壽[1,2]、中村　明枝[1]、深見　真紀[1]

[1]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[2]国立成育医療研究センター研究所ダイバーシティ研究室

O2-9-6　顔画像を用いた深層学習に基づく *Pou1f1* 変異マウスの早期遺伝子型予測

秋葉　和壽[1,2]、中村　明枝[1]、深見　真紀[1]

[1]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[2]国立成育医療研究センター研究所ダイバーシティ研究室

一般口演 10　甲状腺・骨代謝

11 月 6 日（金）　8：20 ～ 9：20　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

座長　原田　大輔（JCHO 大阪病院小児科）

服部　淳（国立成育医療研究センター研究所精密創薬研究部分子薬理研究室）

★O2-10-1　腺腫様甲状腺腫 60 例における包括的遺伝子解析

今野　麻里絵[1]、髙橋　修平[1]、志村　和浩[1]、渡邊　陽子[2]、村上　亜希子[2]、内野　眞也[3]、鳴海　覚志[1]

[1]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2]野口病院遺伝子検査室、[3]野口病院外科

O2-10-2　わが国の小児甲状腺疾患に対する外科的治療施設の実態調査

南谷　幹史[1,2]、内野　眞也[1]、阿部　清美[1]、伊藤　順庸[1]、長崎　啓祐[1]、荒田　尚子[1]、猪股　弘明[1]、大江　秀美[1]、鬼形　和道[1]、萱野　大樹[1]、佐藤　浩一[1]、鳴海　覚志[1]、長谷川　奉延[1]、深田　修司[1]、久門　真子[1]、溝上　哲也[1]、横谷　進[1]、吉村　弘[1]、杉谷　巌[3]、田島　敏広[4]、橋本　貢士[5]

[1]日本甲状腺学会小児甲状腺疾患診療委員会、[2]帝京大学ちば総合医療センター小児科、[3]日本内分泌外科学会、[4]日本小児内分泌学会、[5]日本甲状腺学会

O2-10-3　成長障害、骨系統疾患疑い症例に対する遺伝学的解析の有用性

中山　尋文[1,2]、島田　貴明[1]、石見　壮史[1]、伊藤　由作[1]、服部　真也[1]、中野　由佳子[1]、山本　賢一[1,3]、藤原　誠[1]、大幡　泰久[1]、北畠　康司[1]

[1]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2]大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔外科学、[3]大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻成育小児科学研究室

O2-10-4　メチル化特異的 MLPA 法が早期確定診断に有用であった *GNAS* 欠損症の一例

大道　優薫[1]、高橋　英城[2]、田中　基意[2]、服部　真也[3]、伊藤　由作[3]、山本　賢一[3,4]、
藤原　誠[3]、大幡　泰久[3]、松井　克之[2]
[1]滋賀県立総合病院レジデントセンター、[2]滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科、
[3]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[4]大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

O2-10-5　McCune-Albright 症候群患者における身体障害と QOL に最も影響する項目に関する全国調査

柴田　浩憲[1,2]、石井　智弘[2,3]、大薗　恵一[4]、長谷川　奉延[2,5]
[1]川崎市立川崎病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[4]医誠会国際総合病院難病医療推進センター、[5]柏たなか病院

O2-10-6　歩容異常を契機に診断し、*CDC73* 遺伝子バリアントを同定した小児副甲状腺癌の男児例

荻原　和樹[1]、矢ヶ崎　英晃[1]、塚原　麻里[1]、堀内　辰也[2]、成澤　宏宗[1]、石井　裕貴[2]、
若生　政憲[3]、赤羽　弘資[1]、櫻井　大樹[2]、犬飼　岳史[1]
[1]山梨大学医学部小児科、[2]山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科、
[3]独立行政法人国立病院機構甲府病院整形外科

一般口演 11　糖代謝・糖尿病・低血糖 2

11 月 6 日（金）　8：20 ～ 9：20　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

座長　菊池　信行（横浜労災病院）
　　矢ヶ崎　英晃（山梨大学医学部小児科）

O2-11-1　日本人先天性高インスリン血症における *HK1* イントロン領域バリアントの同定と臨床像

樋口　真司[1,2]、永安　佑衣[2]、加藤　勝[2]、坊　亮輔[3]、大津　義晃[4]、矢本　香織[5]、
藤澤　泰子[6]、緒方　勤[5,7]、依藤　亨[8]
[1]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[2]大阪市立総合医療センター遺伝子診療部、[3]神戸大学小児科、[4]群馬大学小児科、
[5]浜松医科大学医化学講座、[6]浜松医科大学小児科、[7]浜松医療センター小児科、
[8]伊達赤十字病院第 2 内科

O2-11-2　先天性高インスリン血症における新規 *HK1* イントロン変異は FOXA2 の転写活性化機能低下を呈する

矢本　香織[1]、宮本　祥子[1]、佐野　伸一朗[2]、大久保　由美子[3]、谷川　渉[4]、増永　陽平[1]、
樋口　真司[5]、森　潤[5]、藤澤　泰子[6]、才津　浩智[1]、緒方　勤[1,4,6]
[1]浜松医科大学医化学講座、[2]静岡県立こども病院糖尿病・代謝内科、
[3]静岡済生会総合病院小児科、[4]浜松医科大学小児科、
[5]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、[6]浜松医療センター小児科

O2-11-3　パシレオチドにより在宅移行可能となった難治性先天性高インスリン血症の 1 例

和田　啓介[1]、山本　慧[1]、小林　弘典[2]、鞍嶋　有紀[1]、竹谷　健[1]
[1]島根大学小児科、[2]島根大学医学部附属病院検査部

O2-11-4　新生児高インスリン性低血糖症の既往とステロイド誘発高血糖を契機に *HNF4A* バリアントが同定された 8 歳女児

吉田　あや[1,2]、木村　隼大[2,3]、原　佑太朗[2]、大矢知　真希[2]、山口　直哉[2,4]、鈴木　敦詞[2]、
青山　幸平[2]
[1]一宮市立市民病院小児科、[2]名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児科学分野、
[3]三重大学大学院医学研究科生命医学専攻臨床医学系講座小児科学分野、
[4]名古屋市立大学医学部附属西部医療センター小児科

O2-11-5　アスパラギナーゼ関連低血糖の臨床像と病態解析

桐野　玄[1,2]、中谷　久恵[1]、足洗　美穂[2]、眞柄　達也[1,2]、白川　詩織[1]、山野　春樹[1]、
安達　恵利子[1]、辻　敦美[1]、小野　林太郎[2]、吉原　宏樹[2,3]、細谷　要介[2]、星野　顕宏[1]、
長谷川　大輔[2]、磯田　健志[1]、神谷　尚宏[1]、鹿島田　健一[1,4]、小澤　美和[2]、髙木　正稔[1]、
髙澤　啓[1]
[1]東京科学大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学分野、[2]聖路加国際病院小児科、
[3]聖マリアンナ医科大学小児科、[4]成育医療研究センター内分泌代謝科

O2-11-6　1型糖尿病を発症したHYOU1遺伝子異常の1例

笹岡　大記、徳永　成晃、永松　扶紗、阿南　浩太郎、中村　公俊
熊本大学病院

一般口演12　性腺・性分化2

11月6日（金）　15：45 ～ 16：45　　第2会場（北九州国際会議場　1階　メインホール）

座長　糸永　知代（大分大学医学部小児科）
　　河田　泰定（北九州宗像中央病院）

O2-12-1　非典型外性器を呈する児の性別判定法の提案（第2報）―精巣を触知せず、正常大の子宮があれば女児と判別可能―

境内　愛実[1]、山内　建[1]、竹下　峻希[1]、友滝　清一[1]、河井　昌彦[2]
[1]京都大学医学部附属病院小児科、[2]京都大学大学院医学研究科新生児学講座

O2-12-2　非典型的外性器を呈する早産児の性別判定法の提案（第3報）両側鼠径部～陰嚢内精巣を触知+子宮非検出例は男児

竹下　峻希、境内　愛実、山内　建、友滝　清一、河井　昌彦
京都大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門

O2-12-3　性分化疾患を有する新生児におけるAMH値とライディッヒ細胞機能との関連

小松　弘季[1,3]、前山　隆智[1]、山野　由貴[2]、宮原　由起[2]、和田　珠希[2]、惠谷　ゆり[2]、
川井　正信[1,2]
[1]大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門、
[2]大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[3]大阪大学大学院医学系研究科小児科学

O2-12-4　完全型アンドロゲン不応症における診断説明と医師・患者双方による理解度評価

石見　和世[1]、石井　智弘[2]、井澤　雅子[3]、濱島　崇[3]、長谷川　奉延[4]、長谷川　行洋[2]
[1]兵庫県立大学看護学部、[2]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3]あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、[4]慶應義塾大学医学部小児科学

O2-12-5　先天性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症88例における包括的遺伝子解析

谷川　渉[1]、岡本　新悟[2]、小原　收[3]、増永　陽平[1,4]、矢本　香織[1,4]、藤澤　泰子[1]、
大山　伊吹[1]、才津　浩智[4]、深見　真紀[5]、要　匡[6]、緒方　勤[1,4,7]
[1]浜松医科大学小児科学講座、[2]岡本内科こどもクリニック、[3]かずさDNA研究所、
[4]浜松医科大学医化学講座、[5]国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[6]国立成育医療研究センターゲノム医療研究部、[7]浜松医療センター小児科

O2-12-6　性腺機能低下症の男性の治療前後の骨密度・骨質に関する検討

池側　研人[1]、長谷川　行洋[1,2]、天野　直子[1]、石井　智弘[1]
[1]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2]多摩北部医療センター小児科

一般口演 13　糖代謝・糖尿病・低血糖 3

11 月 6 日（金）　15：45 ～ 16：45　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

座長　森田　智（鹿児島生協病院小児科）
　　森川　俊太郎（北海道大学大学院医学研究院小児科学教室）

O2-13-1　*FN3K* および *FN3KRP* の一塩基多型による HbA1c 値個別性の解析
武者　育麻[1]、川名　宏[1]、沼倉　周彦[1,2]、大竹　明[1,2]、菊池　透[1]
[1] 埼玉医科大学病院小児科、[2] 埼玉医科大学病院ゲノム医療科

O2-13-2　7 歳未満の 1 型糖尿病における advanced hybrid closed loop（AHCL）導入後の血糖管理指標
永田　知裕[1,2]、天野　直子[1]、長谷川　行洋[1,2]、石井　智弘[1]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 東京都立多摩北部医療センター小児科

O2-13-3　7 歳未満の 1 型糖尿病患児における AHCL の有効性と血糖管理状況の検討
峯　佑介[1]、渡邉　勇太[1]、寺田　啓輝[1]、田邉　聡美[1]、森田　康子[1]、青木　政子[1]、
鈴木　潤一[1]、浦上　達彦[2]、森岡　一朗[1]
[1] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、[2] 浦上小児内分泌・糖尿病クリニック

O2-13-4　小児 1 型糖尿病における、Advanced Hybrid Closed Loop の設定が Time In Range に与える影響
今田　寛、上原　絵理香、平田　優、髙谷　具純、濱田　洋通
千葉大学医学部附属病院小児科

O2-13-5　就学前 1 型糖尿病児の保育園における医療行為の実態と支援体制の検討
菊池　信行、小松　洋介
横浜労災病院

O2-13-6　CGM 時代における小児 1 型糖尿病患児の低血糖自己認識―サマーキャンプでの検討―
島田　正晴、江田　陽一、山口　将邦、大澤　好充、大津　義晃、滝沢　琢己
群馬大学大学院医学系研究科小児科学

一般口演 14　下垂体・成長 4

11 月 6 日（金）　15：45 ～ 16：45　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

座長　西垣　五月（希望の森成長発達クリニック）
　　松岡　尚史（東京女子医科大学附属足立医療センター小児科）

O2-14-1　新しい診断基準に基づく小児頭蓋咽頭腫術後の後天性視床下部性肥満の評価―体重増加に関連する因子の探索―
荻原　康子[1]、加納　瑠為[2]、堤　義之[2]、渡辺　健太[2]、纐纈　昌樹[1]、山口　修平[1]、
塩田　翔吾[1]、杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、吉井　啓介[1]、内木　康博[1]、宮嵜　治[2]、
荻原　英樹[3]、鹿島田　健一[1]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センター放射線診療部、
[3] 国立成育医療研究センター脳神経外科

O2-14-2　ROHHAD 症候群における診断アプローチおよび重症度分類の提案：厚労研究班疫学データに基づく検討
宇都宮　朱里[1]、小野　泰輔[2]、中藤　大輔[3]、小崎　健次郎[3]
[1] 広島市立北部医療センター安佐市民病院小児科、[2] 広島大学病院小児科、
[3] 慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター

O2-14-3　日本の後天性視床下部性肥満の診療実態に関する小児科医の認識調査研究

長崎　啓祐[1]、田中　智洋[2]、黒﨑　雅道[3]、大谷　結[4]、大久保　まり絵[4]、稲垣　芳文[5]、森　潤[6]

[1]長野県立こども病院内分泌代謝科、生命科学研究センター、
[2]名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学、
[3]鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経外科学分野、[4]株式会社社会情報サービス、
[5]リズムファーマ株式会社、[6]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科

O2-14-4　低身長フォロー中に意識障害を契機に診断されたリジン尿性蛋白不耐症の同胞２例

菱村　希[1]、中島　理沙[1]、山形　大輝[1]、遠藤　愛[1]、山口　健史[1,2]、小杉山　清隆[1,3]、阿部　二郎[1,4]、長尾　雅悦[4]、森川　俊太郎[1]

[1]北海道大学小児科、[2]北海道大学環境健康科学研究教育センター、
[3]手稲渓仁会病院小児科、[4]国立病院機構北海道医療センター小児遺伝代謝センター

O2-14-5　20 番染色体母性片親性ダイソミーの臨床像の解明

小川　朋恵[1]、室谷　浩二[2]、長崎　啓祐[3,4]、澤野　堅太郎[4]、鈴木　敦詞[5]、鈴木　滋[6]、松田　純子[7]、波多野　恵[8]、堀川　玲子[9]、吉井　啓介[10]、緒方　勤[1,11,12]、深見　真紀[1]、鏡　雅代[1]

[1]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[2]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[3]長野県立こども病院内分泌代謝科、
[4]新潟大学医歯学総合病院小児科、[5]名古屋市立大学病院小児科、[6]旭川医科大学小児科、
[7]川崎医科大学附属病院小児科、[8]聖路加国際病院小児科、
[9]サンマルコクリニック内分泌・糖尿病内科、[10]国立成育医療研究センター内分泌代謝科、
[11]浜松医科大学医学部、[12]浜松医療センター小児科

O2-14-6　ANKRD17 関連神経発達症は、細胞周期の制御異常により多彩な表現型を呈し、Noonan 症候群との鑑別を要する

矢ヶ崎　英晃[1]、渡邊　大輔[1]、成澤　宏宗[1]、牧野　耕一[1]、三井　弓子[1]、小林　基章[1]、佐藤　和正[1]、中村　誠[2]、太田　正法[1]、犬飼　岳史[1]

[1]山梨大学医学部小児科、[2]富士吉田市立病院小児科

一般口演 15　水・電解質・CCS・内分泌腫瘍

11 月 7 日（土）　8：00 ～ 9：00　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　岡田　賢（広島大学大学院医系科学研究科小児科学）
　　三善　陽子（大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科臨床栄養発育学研究室）

O3-15-1　小児頭蓋咽頭腫術後の水・電解質の管理

岩元　銀河[1]、森口　駿[1]、向山　祐理[1]、山本　茉莉[1]、滝沢　文彦[1]、小川　哲史[1]、伊藤　純子[1]、横谷　進[1,3]、福原　宏和[2]、福原　紀章[2]、登坂　雅彦[2]、西岡　宏[2]、山田　正三[2]、磯島　豪[1]

[1]虎の門病院小児科、[2]虎の門病院間脳下垂体外科、
[3]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

O3-15-2　軽症の AVP 分泌不全（AVPD）の評価における Miller 原法を改変した水制限試験の有用性・安全性

長谷川　行洋[1,2]、宗永　健志[3]、赤星　祥伍[4]、黒川　祥子[1]、勝二　隆志[1,4]、池側　研人[1,4]、天野　直子[1]、石井　智弘[1]、長谷川　奉延[3]、長　秀男[3]、有安　大典[3]

[1]都立小児総合医療センター、[2]多摩北部医療センター小児科、
[3]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[4]都立小児総合医療センター臨床研究支援センター

O3-15-3　小児 MEN2 の有病割合と甲状腺髄様癌の分布：NDB を用いた記述疫学研究

松下　理恵[1]、深澤　俊貴[1]、田中　佐智子[1,2]、川上　浩司[1]
[1] 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康解析学講座薬剤疫学分野、
[2] 神戸薬科大学疾病予防学研究室

O3-15-4　妊孕性低下リスクを有するがん等治療を受ける女児に対する卵巣組織凍結：当院の現状と課題

荻原　康子[1]、浦田　陽子[2]、吉川　綾[3]、吉井　啓介[1]、内木　康博[1]、塩田　曜子[4]、
坂口　大俊[4]、井口　晶裕[4]、富澤　大輔[4]、寺島　慶太[4]、清谷　知賀子[4]、小宮　ひろみ[5]、
松本　公一[4]、鹿島田　健一[1,5]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、
[2] 国立成育医療研究センター女性総合診療センター不妊診療科、
[3] 国立成育医療研究センターエコチル調査研究部、
[4] 国立成育医療研究センター小児がんセンター、
[5] 国立成育医療研究センター女性総合診療センター女性外科/婦人科

O3-15-5　小児急性リンパ性白血病治療後 5 年間の BMI 変動に関する後ろ向き観察研究

永松　扶紗、笹岡　大記、阿南　浩太郎、中村　公俊
熊本大学病院小児科

O3-15-6　原発性性腺機能低下の診断における LHRH 負荷試験の有用性とカットオフ値の検討

山口　修平[1]、纐纈　昌樹[1]、渡辺　健太[1]、塩田　翔吾[1]、杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、
荻原　康子[1]、吉井　啓介[1]、内木　康博[1]、塩田　曜子[2]、坂口　大俊[2]、井口　晶裕[2]、
富澤　大輔[2]、寺島　慶太[2]、清谷　知賀子[2]、松本　公一[2]、鹿島田　健一[1]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センター小児がんセンター

一般口演 16　骨代謝・骨系統疾患 2

11 月 7 日（土）　8：00 ～ 9：00　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

座長　菅野　潤子（東北大学大学院発生・発達医学講座小児病態学分野）
　　山本　賢一（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）

O3-16-1　GAMLSS 曲線を用いた日本人小児における血清 ALP の性・年齢別変化の可視化

土岐　真智子[1]、鈴木　絵理[1]、鳥居　健一[1]、前田　直則[1]、藤田　尚代[1]、三春　晶嗣[1]、
山澤　一樹[1,2]、長谷川　奉延[3]、鳴海　覚志[3]
[1] 国立病院機構東京医療センター小児科、[2] 国立病院機構東京医療センター遺伝診療科、
[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

O3-16-2　小児低 ALP 血症の臨床背景と経時的推移の検討

伊東　英美[1]、橘　真紀子[1]、石井　裕代[1]、福井　美穂[1]、福岡　智哉[1]、山本　賢一[1,2]、
木村　武司[1]、藤原　誠[1]、大幡　泰久[1]、北畠　康司[1]
[1] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

O3-16-3　*CASR* c.-10C ＞ T は上流 AUG 形成を介した翻訳異常により家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症をきたす

内田　登[1,2,3]、髙橋　修平[2]、長谷川　奉延[2,4]、鳴海　覚志[2]
[1] 東京都済生会中央病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 済生会宇都宮病院臨床遺伝センター、[4] 柏たなか病院

O3-16-4　抗 PHEX 自己抗体を介した自己免疫性くる病が示唆された SLE 合併 FGF23 関連低リン血症の 1 例

中澤　優之介[1,2]、大津　義晃[1]、田部井　容子[1]、池内　由果[1]、江田　陽一[1]、島田　正晴[1]、
伊東　伸朗[3]、星野　良朋[3]、入江　航生[3]、滝沢　琢己[1]
[1] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 佐久総合病院佐久医療センター小児科、
[3] 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科

O3-16-5　腫瘍性骨軟化症におけるブロスマブと腫瘍切除の治療成績の比較：後ろ向きコホート研究

足立　夏帆[1,2]、加藤　創生[2,3]、中川　万理恵[1]、田中　裕之[1]、岡野　由香里[4]、
古川　滉一朗[2,3]、入江　航生[2,3]、木村　聡一郎[2,3]、星野　良朋[2,3]、日髙　尚子[2,3]、田中　栄[5]、
齋藤　琢[2,5]、小林　寛[5]、南學　正臣[3]、槙田　紀子[2,3]、伊東　伸朗[2,6]
[1] 東京大学医学部附属病院小児科、[2] 東京大学医学部附属病院骨粗鬆症センター、
[3] 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科、[4] 東京大学医学部附属病院放射線科、
[5] 東京大学医学部附属病院整形外科、
[6] 東京大学大学院医学系研究科難治性骨疾患治療開発講座

O3-16-6　重症ビタミン D 欠乏性くる病を発症した胆道閉鎖症の 4 例

杉浦　愛子[1,2]、纐纈　昌樹[1]、渡辺　健太[1]、山口　修平[1]、塩田　翔吾[1]、宇治田　凪紗[1]、
荻原　康子[1]、吉井　啓介[1]、内木　康博[1]、内田　孟[2]、福田　晃也[2]、阪本　靖介[2]、
笠原　群生[2]、鹿島田　健一[1]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センター臓器移植センター

一般口演 17　下垂体・成長 5

11 月 7 日（土）　11：05 ～ 12：05　　第 1 会場（北九州メッセ　1 階　B 展示場）

座長　宇都宮　朱里（広島市立北部医療センター安佐市民病院小児科）
兼次　拓也（琉球大学病院周産母子センター）

O3-17-1　ヌーナン症候群小児・思春期患児におけるソマプシタンの 2 年成績：1 日 1 回投与 GH からの切替を含む REAL8 試験

森　潤[1]、Alexander A. L Jorge[2]、Assunta Albanese[3]、Michael Hojby[4]、
Thomas Edouard[5]、Anna Grandone[6]、Kamil Soltysik[4]、Michael Tansey[7]、Hui Yao[8]
[1] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[2] Genetic Endocrinology Unit（LIM25）, Endocrinology Division, Hospital das Clinicas da Faculdade de Medicina da Universidade de Sao Paulo（HC-FMUSP）, Sao Paulo, Brazil、
[3] Department of Paediatric Endocrinology, St George's University Hospitals, NHS Foundation Trust, London, UK、
[4] Medical & Translational Science, Novo Nordisk A/S, Soborg, Denmark、
[5] Endocrine, Bone Diseases and Genetics Unit, Reference Centre for Rare Diseases of Calcium and Phosphate Metabolism（OSCAR Network, ERN BOND）and Reference Centre for Rare Diseases of Growth（FIRENDO Network, Endo-ERN）, Children's Hospital, Toulouse University Hospital, Toulouse, France、
[6] Department of Woman, Child and General and Specialized Surgery, University of Campania Luigi Vanvitelli, Naples, Italy、
[7] Division of Pediatric Endocrinology and Diabetes, University of Iowa Carver College of Medicine, Iowa City, Iowa, USA、
[8] Department of Endocrinology and Metabolism, Wuhan Children's Hospital, Tongii Medical College, Huazhong University of Science and Technology, Wuhan, China

O3-17-2　GHD 患者におけるソマプシタン投与の実態：ベースライン特性，治療パターン，12 か月間の有効性（GloBE-Reg）

森　潤[1]、Primoz Kotnik[2,3]、Malika Alimussina[4]、Suet Ching Chen[5]、Bradley S. Miller[6]、Alberto Pietropoli[7]、Dirk Schnabel[8]、Aristides Maniatis[9]、Abdulmoein Al Agha[10]

[1] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[2] Division of Pediatric Endocrinology, Diabetes and Metabolic Disorders, University Children's Hospital, University Medical Center Ljubljana, Ljubljana, Slovenia、
[3] Faculty of Medicine, University of Ljubljana, Ljubljana, Slovenia、
[4] Office for Rare Conditions, University of Glasgow, Glasgow, United Kingdom、
[5] Developmental Endocrinology Research Group, Royal Hospital for Children Glasgow, Glasgow, United Kingdom、
[6] Pediatric Endocrinology, University of Minnesota Medical School, MHealth Fairview Masonic Children's Hospital, Minneapolis, Minnesota, USA、
[7] Rare Endocrine Disorders, Novo Nordisk Health Care AG, Zurich, Switzerland、
[8] Center for Chronic Sick Children, Pediatric Endocrinology, Charite - University Medicine Berlin, Berlin, INSIGHTS-GHT, Germany、
[9] Pediatric Endocrinology, Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, CO, USA、
[10] Pediatric Department, Pediatric Endocrinology & Diabetes Section, King Abdulaziz University Hospital, Jeddah, Saudi Arabia

O3-17-3　成長ホルモン分泌不全症の小児におけるロナペグソマトロピンの有効性および安全性：riGHt 試験 104 週間の結果

岩山　秀之[1]、吉田　さやか[2]、飛梅　斎[3]、樋口　洋介[4]、難波　範行[5]、森　潤[6]、齋藤　玲子[7]、尾﨑　佳代[8]、長崎　啓祐[9]、高橋　利和[10]、内木　康博[11]、Jennifer M Ikle[12]、Allison Seiko Komirenko[12]、Yetao Hu[12]、Laurie Domrzalski[12]、Pamela M Lai[12]、Aimee D Shu[12]、堀川　玲子[13]

[1] 愛知医科大学病院小児科、[2] 奈良県総合医療センター小児科、[3] 福山市民病院小児科、
[4] NHO 岡山医療センター小児科、[5] 鳥取大学医学部周産期・小児医学講座、
[6] 大阪市立総合医療センター小児内分泌代謝・腎臓内科、[7] 産業医科大学小児科、
[8] 兵庫県立こども病院代謝内分泌科、[9] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[10] 高橋クリニック、
[11] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[12] Ascendis Pharma, LLC、
[13] サンマルコクリニック

O3-17-4　週 1 回の GH 製剤への変更で限局性脂肪萎縮をきたした複合下垂体機能低下の男児例

檜作　和子、柿本　令奈、加藤　嘉一、福重　寿郎
鹿児島市立病院

O3-17-5　特発性低身長症 85 例に対する遺伝子パネル解析と臨床表現型の検討

木村　隼大[1,2]、鈴木　敦詞[1]、原　佑太朗[1]、大矢知　真希[1]、吉田　あや[1,3]、山口　直哉[1]、齋藤　伸治[1]、青山　幸平[1]

[1] 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、
[2] 三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻臨床医学系講座小児科学分野、
[3] 一宮市立市民病院小児科

O3-17-6　Prader-Willi 症候群患者 77 例の側弯症進行と内分泌学的評価に関する単施設後方視研究

根本　千裕[1]、山田　美歩[1]、東　駿祐[1]、花川　純子[1]、黒田　友紀子[2]、大庭　真俊[3]、中村　直行[3]、室谷　浩二[1]

[1] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2] 神奈川県立こども医療センター遺伝科、
[3] 神奈川県立こども医療センター整形外科

一般口演 18　肥満・やせ・栄養・脂質異常 2

11 月 7 日（土）　11：05 ～ 12：05　　第 2 会場（北九州国際会議場　1 階　メインホール）

座長　竹本　幸司（愛媛県立新居浜病院）
和田　珠希（大阪母子医療センター消化器・内分泌科）

O3-18-1　当科における小児家族性高コレステロール血症患者 17 例の診療経験
田中　裕之、中村　新太郎、中川　万理恵、太田　知子、足立　夏帆
東京大学医学部附属病院小児科

O3-18-2　小児家族性高コレステロール血症ホモ接合体に対する肝移植の有効性の検討
塩田　翔吾[1]、纐纈　昌樹[1]、渡辺　健太[1]、山口　修平[1]、杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、
荻原　康子[1]、内木　康博[1]、鹿島　健幹[2]、小峰　竜二[3]、栁　佑典[3]、内田　孟[3]、
福田　晃也[3]、阪本　靖介[3]、笠原　群生[3]、鹿島田　健一[1]、吉井　啓介[1]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3] 国立成育医療研究センター臓器移植センター

O3-18-3　オポチュニスティック・スクリーニングを契機に診断に至ったシトステロール血症の 1 家系
家村　綾正[1,2]、宮本　薫子[1]、小野　真[1]
[1] 千葉市立幕張海浜病院小児科、
[2] 東京科学大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学分野（小児科）

O3-18-4　ロナファルニブは Hutchinson–Gilford Progeria Syndrome 患者の脂質・糖質代謝異常を改善する可能性がある
藤本　正伸、黒澤　健悟、妹尾　慎太郎、山口　由起子、難波　範行
鳥取大学医学部周産期・小児医学分野

★O3-18-5　ミグリトールは肝 LTB_4 経路活性低下を伴い食事誘発性脂肪肝炎を改善する
長　千春、合田　武司、小西　まどか、井上　望、河辺　泰宏、福原　正太、中島　久和、
杉本　哲
京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学

O3-18-6　若年成人女性の耐糖能を含む健康状態と生活習慣の調査によるプレコンセプションケア
三善　陽子[1,2]、永田　沙耶[1]
[1] 大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科臨床栄養発育学研究室、
[2] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学

一般口演 19　糖代謝・糖尿病・低血糖 4

11 月 7 日（土）　11：05 ～ 12：05　　第 3 会場（北九州国際会議場　2 階　国際会議室）

座長　布川　香織（鎌倉療育医療センター小さき花の園小児科）
齋藤　玲子（産業医科大学小児科）

O3-19-1　16 年間の学校検尿にて示された 2 型糖尿病・耐糖能異常の発症リスク
山口　由起子[1]、梅原　千佳[2]、山中　美羽[2]、藤本　正伸[1]、黒澤　健悟[1]、妹尾　慎太郎[1]、
難波　範行[1]
[1] 鳥取大学医学部周産期・小児医学分野、[2] 鳥取大学医学部医学科

O3-19-2　本邦における小児・思春期 2 型糖尿病における薬物治療に関する実態調査（一次調査）

鈴木　潤一[1,10]、髙谷　具純[2,10]、小川　洋平[3,10]、志賀　健太郎[4,10]、花木　啓一[5,10]、
濱田　淳平[6,10]、松井　克之[7,10]、田久保　憲行[8,10]、菊池　透[9,10]
[1] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、[2] 獨協医科大学埼玉医療センター小児科、
[3] 新潟大学医歯学総合病院小児科、
[4] 横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター、
[5] 鳥取大学医学部保健学科母性・小児家族看護学、[6] 愛媛大学大学院医学系研究科小児科学、
[7] 滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科、[8] 順天堂大学医学部小児科学講座、
[9] 埼玉医科大学小児科、[10] 日本小児内分泌学会糖代謝委員会

O3-19-3　日本人小児 2 型糖尿病におけるルセオグリフロジンの有効性：メトホルミン併用有無別解析（第 III 相試験）

菊池　透[1]、浦上　達彦[2,3]、梅内　秀郎[4]、北島　五輪男[4]、山崎　広徳[4]、中村　秀文[5]
[1] 埼玉医科大学病院小児科、[2] 日本大学病院小児科、[3] 浦上小児内分泌・糖尿病クリニック、
[4] 大正製薬株式会社、[5] 国立成育医療研究センター

O3-19-4　Rabson-Mendenhall 症候群様の臨床像を呈した A 型インスリン抵抗症の男児例

八田　容理子[1,2,4]、大江　英之[5]、赤羽　貴美子[6]、岩山　秀之[3,7]、高木　潤子[1]
[1] 愛知医科大学医学部内科学講座内分泌・代謝内科、[2] 岩山小児科、
[3] 愛知医科大学医学部小児科学講座、[4] 公立陶生病院小児科、
[5] 知多半島総合医療センター小児科、[6] 公立陶生病院内分泌・代謝内科、
[7] ほしがおか成長クリニック

O3-19-5　CAKUT フォロー中に耐糖能異常を認めた小児 *HNF1B* 異常症の 3 例

村井　雄紀、堀江　潤、佐野　伸一朗
静岡県立こども病院

O3-19-6　CGM・OGTT 所見と乖離した HbA1c 高値を認めたフォンタン循環の 2 例

田所　宏啓、中村　千鶴子、長崎　啓祐
長野県立こども病院内分泌代謝科

一般口演 20　甲状腺

11 月 7 日（土）　11：05 ～ 12：05　　第 4 会場（北九州国際会議場　2 階　21 会議室）

座長　橘　真紀子（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）
　　虫本　雄一（九州大学病院小児科）

O3-20-1　東京都における先天性甲状腺機能低下症スクリーニング成績と 2 回目採血の有用性

小松　美南[1,4]、橋本　敦子[1,4]、渡辺　和宏[1,4]、石毛　信之[1,4]、大石　公彦[2,4]、鳴海　覚志[3,4]
[1] 公益財団法人東京都予防医学協会、[2] 東京慈恵会医科大学小児科学講座、
[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[4] 東京都新生児スクリーニングコンソーシアム

O3-20-2　先天性甲状腺機能低下症におけるパークロレイト放出試験の再検討と新たな病型診断法の確立

鈴木　友梨[1]、今野　麻里絵[2]、酢谷　明人[3]、髙橋　修平[2]、木島　俊英[2]、白川　詩織[1,4]、
山野　春樹[1]、齋藤　洋子[1]、折本　竜太[5]、田中　由美[4]、中川　竜一[6]、松田　希[7]、
宮井　健太郎[5]、滝島　茂[7]、我有　茉希[1]、辻　敦美[1]、鳴海　覚志[2]、髙澤　啓[1]
[1] 東京科学大学発生発達病態学分野、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 川口市立医療センター小児科、[4] 土浦協同病院小児科、[5] 東京北医療センター小児科、
[6] 武蔵野赤十字病院小児科、[7] 草加市立病院小児科

O3-20-3　サイログロブリン高値の先天性甲状腺機能低下症における合成障害関連遺伝子の機能喪失型バリアント集積

鈴木　敦詞[1]、木村　隼大[1,2]、原　佑太朗[1]、大矢知　真希[1]、吉田　あや[3]、山口　直哉[1,4]、田中　達之[5]、谷村　知繁[1]、齋藤　伸治[1]、水野　晴夫[6]、青山　幸平[1]

[1]名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、
[2]三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻臨床医学系講座小児科学分野、
[3]一宮市立市民病院小児科、[4]名古屋市立大学医学部附属西部医療センター小児科、
[5]豊橋市民病院小児科、[6]藤田医科大学医学部小児科学

O3-20-4　*DUOX2*両アリル変異を共有する一卵性双胎における先天性甲状腺機能低下症発症不一致の要因解析

上原　絵理香[1]、宇治田　凪紗[2]、浦川　立貴[1]、服部　淳[1]、鏡　雅代[1]、深見　真紀[1]、松原　圭子[3]、鳴海　覚志[4]、堀川　玲子[2,5]、中尾　佳奈子[1]

[1]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[2]国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、
[3]国立成育医療研究センター研究所ダイバーシティ研究室、
[4]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[5]サンマルコクリニック

O3-20-5　父由来 *DIO3* 遺伝子欠失による乳児期発症中枢性甲状腺機能低下症：世界初報告と新たな病態機序

堀　友博[1,2,3]、森　真以[1,2,3]、松本　英樹[1,3]、笹井　英雄[1,2,3,4]、久保田　一生[1,2,3]、小関　道夫[1,3]、川本　典生[1,3]、伊藤　宏司[5]、阪下　達哉[6]、神山　寿成[5]、山本　裕[5]、大西　秀典[1,2,3]

[1]岐阜大学大学院医学系研究科小児科学、
[2]岐阜大学医学部附属病院ゲノム疾患・遺伝子診療センター、
[3]岐阜大学大学院医学系研究科希少難病研究室、
[4]岐阜大学大学院医学系研究科小児希少難病早期診断・予防医学講座、
[5]岐阜県総合医療センター新生児内科、[6]岐阜県総合医療センター遺伝子診療科

O3-20-6　TRAb 陰性バセドウ病の家族歴から診断に至った家族性非自己免疫性甲状腺機能亢進症の家系例

澤野　堅太郎[1]、三ッ井　勇介[1]、小貫　孝則[1]、入月　浩美[1]、松林　泰弘[2]、小川　洋平[1]

[1]新潟大学医歯学総合病院小児科、[2]新潟大学医歯学総合病院内分泌・代謝内科

ポスター発表 1　下垂体・成長 1

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　秋葉　和壽（国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部）
　　川村　遥（長崎大学病院小児科）

P1-1-1　遺伝学的再評価で診断に至った *SHOX* 欠失による低身長の姉弟例

平田　優[1]、今田　寛[1]、上原　絵理香[1,2]、澤田　大輔[1,2]、井野元　茜[2]、尾内　善広[2]、濱田　洋通[1]

[1]千葉大学医学部附属病院小児科、[2]千葉大学医学部附属病院遺伝子診療部

P1-1-2　*FOXG1* 遺伝子は複合型下垂体機能低下症の新規責任遺伝子の候補となる

秀野　公美[1]、岡田　朝美[1]、鈴木　智也[1]、鳥尾　倫子[2]、都　翔一郎[3]、三宅　紀子[3]、都　研一[1]

[1]福岡市立こども病院内分泌・代謝科、[2]福岡市立こども病院小児神経科、
[3]国立国際医療研究センター国立国際医療研究所疾患ゲノム研究部

P1-1-3　NPR2 遺伝子に新規イントロン欠失バリアントを有する低身長母娘例

見浪　実紀[1]、田邉　裕子[1]、野村　直宏[1]、藤本　実優[1]、卯西　恵理[1]、高屋　淳二[1]、
伊藤　由作[2]、服部　真也[2]、藤原　誠[2]、山本　賢一[3]、大幡　泰久[2]、金子　一成[1]
[1]関西医科大学小児科学教室、[2]大阪大学医学系研究科小児科学、
[3]大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻成育小児科学研究室

P1-1-4　複数の内分泌異常を合併した 3 番染色体短腕微細欠失症候群の 1 例

荒木　まり子[1]、篠田　知周[1,2]、西本　由佳[1]、池田　真理子[1]
[1]高知大学医学部小児思春期医学講座、[2]高知県立あき総合病院

P1-1-5　Isolated growth hormone deficiency, typeII（IGHD2）の家系例

妹尾　慎太郎、黒澤　健悟、山口　由起子、藤本　正伸、難波　範行
鳥取大学医学部周産期・小児医学分野

P1-1-6　成長ホルモン分泌不全と思春期発来遅延を認めた SIX1 遺伝子異常の 1 例

大高　新[1]、高橋　郁子[1]、野口　篤子[1]、高橋　勉[1]、小崎　健次郎[2]、新井　浩和[1]
[1]秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座、[2]慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター

P1-1-7　*PTPN11* 変異を有する Noonan 症候群に成長ホルモン分泌不全症を合併した 1 例

西本　由佳[1]、篠田　知周[1,2]、大原　鳳斗[1,3]、三浦　紀子[1]、玉城　渉[1]、荒木　まり子[1]、
池田　真理子[1]
[1]高知大学医学部小児思春期医学講座、[2]高知県立あき総合病院小児科、
[3]独立行政法人国立病院機構国立病院小児科

ポスター発表 2　下垂体・成長 2

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　大津　義晃（群馬大学大学院医学系研究科小児科学）
　　有安　大典（横浜市立市民病院小児科）

P1-2-1　幼少期に著明な低身長を呈し学童期以降に改善した糖原病 VI 型の姉妹例

太田　知子、中村　新太郎、中川　万理恵、足立　夏帆、田中　裕之
東京大学医学部附属病院

P1-2-2　小学 1 年生の身長及び成長ピーク学年より中学 3 年生時点の身長を予測できるか？

地行　健二[1]、竹本　幸司[2]、宇都宮　秀和[1]、濱田　淳平[1]、江口　真理子[1]
[1]愛媛大学大学院医学系研究科小児科学、[2]愛媛県立新居浜病院小児科

P1-2-3　前思春期の身長 SDS が主に成人身長を規定する～秋田県成長コホート女子における検討～

田中　敏章[1]、曽根田　瞬[1,2]、岸　健太郎[1,3]、師岡　直輝[1]、吉井　啓介[4]、横谷　進[5]
[1]たなか成長クリニック、[2]聖マリアンナ医科大学小児科、[3]市川ゆうサポートクリニック、
[4]国立成育医療研究センター内分泌代謝科、
[5]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

P1-2-4　女子の思春期早発と遅発の思春期の成長の比較～秋田県女子における検討～

岸　健太郎[1,2]、曽根田　瞬[1,3]、師岡　直輝[1]、吉井　啓介[4]、横谷　進[5]、田中　敏章[1]
[1]たなか成長クリニック、[2]市川ゆうサポートクリニック、[3]聖マリアンナ医科大学小児科、
[4]国立成育医療研究センター内分泌代謝科、
[5]福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

P1-2-5　成長曲線描画ツールの開発

樋口　洋介、川﨑　綾子、藤原　進太郎、江渕　有紀、古城　真秀子
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター小児科

P1-2-6　当院小児内分泌外来における 2023 年以降の低身長症例の転帰

中野　剛希、多久　葵、牧村　美佳
国立病院機構小倉医療センター

P1-2-7　成長障害の早期発見に向けた就学前成長曲線活用の有用性：学校健診 10 年間の受診例からの検討
和田　水生、小林　舞子、阿部　裕樹
新潟市民病院

P1-2-8　SGA 性低身長に対する GH 治療前評価を契機に診断された下垂体茎断裂症候群の 1 例
山本　徳高[1]、山形　雄伸[1]、吉﨑　加奈子[1]、川北　理恵[1,2]、細川　悠紀[1]
[1]倉敷中央病院小児科、[2]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科

P1-2-9　栄養状態の著明な改善により、初回 GH 分泌刺激試験が偽陽性と考えられた、初診時重症 GHD の 1 例
橋本　悟、瀧浦　俊彦、加勢田　正人、吉野　浩、成田　雅美
杏林大学病院小児科

ポスター発表 3　副腎

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）
座長　麻生　敬子（東邦大学医療センター大森病院小児科）
尾﨑　佳代（兵庫県立こども病院代謝内分泌科）

P1-3-1　ステロイド長期使用の休薬後に発症したグルココルチコイド離脱症候群の女児例における副腎機能推移について
多村　公晃、新村　南、渡辺　健太、田嶋　朝子
東京慈恵会医科大学小児科学講座

P1-3-2　川崎病に対するステロイド併用療法後の副腎機能回復時期の検討
木内　歌穂[1]、宮田　功一[1]、水野　裕介[1]、草野　知江子[1]、堀　尚明[1]、鳴海　覚志[2]
[1]太田記念病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室

P1-3-3　感染、痙攣のストレス時におけるコルチゾール値の検討
奥村　真央、青山　凌佑、大口　英里子、春田　一憲、岡井　佑、小川　千香子、
伊藤　祥絵、伊藤　早苗、松岡　佐知、立松　壽、長谷川　正幸、星野　伸
名古屋掖済会病院小児科

P1-3-4　中枢性副腎皮質機能低下症を疑われた起立性調節障害の女子例
松浦　宏樹、池原　康裕、酒井　悠佑、佐々木　拓、竹内　勇介、吉江　春人
諏訪赤十字病院小児科

P1-3-5　反復する感冒時の意識障害を契機に診断に至った ACTH 単独欠損症の 13 歳女児例
小松　洋介、上ノ町　優志、沼沢　慶太、志賀　健太郎
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター

P1-3-6　意識障害で発症し可逆性脳血管攣縮症候群を伴った小児 Cushing 病の 1 例
青木　政子[1]、四宮田　悠[1]、寺田　啓輝[1]、松田　健剛[1]、渡邉　真太郎[1]、徳永　航[1]、
川口　忠恭[1]、田邉　聡美[1]、峯　佑介[1]、桃木　恵美子[1]、石井　和嘉子[1]、鈴木　潤一[1]、
山室　俊[2]、森岡　一朗[1]
[1]日本大学医学部小児科学系小児科学分野、[2]日本大学医学部脳神経外科学系神経外科学分野

P1-3-7　単純性肥満の経過観察中に成長率低下を認め、医原性クッシング症候群の診断に至った 1 例
小松　理瑛子[1]、中野　さつき[1]、川本　咲美[1]、阿部　清美[2,3]、鳴海　覚志[3]
[1]さいたま市立病院小児科、[2]埼玉県立小児総合医療センター代謝・内分泌科、
[3]慶應義塾大学医学部小児科

P1-3-8　Cushing 症候群寛解後のステロイド漸減中に診断した潰瘍性大腸炎の 1 例
篠田　知周[1,2]、西本　由佳[1]、荒木　まり子[1]、向田　健太郎[3]、池田　真理子[1]
[1]高知大学医学部小児思春期医学講座、[2]高知県立あき総合病院小児科、
[3]高知県立幡多けんみん病院消化器内科

ポスター発表 4　性腺・性分化 1

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　江藤　潤也（あさのはこどもクリニック）
　　荻原　康子（国立成育医療研究センター内分泌・代謝科）

P1-4-1　非典型的な外性器を呈する児の性別判定法の提案（第 1 報）～精巣・子宮に基づく性別判定～
河井　昌彦[1]、竹下　峻希[2]、境内　愛実[2]、山内　建[2]
[1] 京都大学大学院医学研究科新生児学講座、[2] 京都大学小児科

P1-4-2　尿道下裂を呈した男児双胎における新規 DHX37 遺伝子多型の検討
須磨　葉月[1]、白川　詩織[1]、鈴木　友梨[1]、伊藤　佳史[2]、山野　春樹[1]、齋藤　洋子[1]、
中谷　久恵[1]、辻　敦美[1]、岡本　健太郎[2]、髙澤　啓[1]、髙木　正稔[1]
[1] 東京科学大学病院小児科、[2] 東京科学大学病院小児外科

P1-4-3　Y-常染色体の相互転座をモザイクに持つ性染色体性性分化疾患の父子例：混合性性腺異形成を含む多様な表現型
鹿島　健幹[1]、長谷川　行洋[1,2]、蜂屋　瑠見[3]、天野　直子[1]、石井　智弘[1]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 東京都立多摩北部医療センター小児科、
[3] 国際医療福祉大学市川総合病院

P1-4-4　G-分染法で 46, XY、SRY-FISH 法で 45, X/46, XY モザイクが判明し、混合性性腺異形成症と診断した 12 歳女児例
上ノ町　優志、志賀　健太郎、沼沢　慶太、小松　洋介
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター

P1-4-5　5α 還元酵素欠損症の親子例
齋藤　大、中川　智博、三浦　啓暢、島　彦仁、菊池　敦生、菅野　潤子
東北大学大学院医学系研究科・発生発達医学講座小児病態学分野

P1-4-6　小陰茎・停留精巣を契機に診断した *DHX37* バリアントによる精巣退縮症候群の 1 例
金子　拓弥[1,2]、藤澤　泰子[1]、東　駿祐[1,2]、根本　千裕[2]、花川　純子[2]、黒田　友紀子[3]、
岩野　麗子[4]、上原　健史[5]、室谷　浩二[2]
[1] 浜松医科大学小児科、[2] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、
[3] 神奈川県立こども医療センター遺伝科、[4] 神奈川県立こども医療センター臨床研究所、
[5] 板橋中央総合病院小児科

P1-4-7　46,XY 性分化疾患の精査で Frasier 症候群と診断した新生児例
西林　優、錦織　朱、森脇　彩賀、池谷　紀衣子、尾﨑　佳代
兵庫県立こども病院代謝内分泌科

P1-4-8　46,XY 膀胱外反症あるいは総排泄腔外反症新生児 2 例における精巣機能評価
服部　花穂[1]、木島　俊英[1]、市橋　洋輔[1,2]、佐藤　武志[1]、石井　智弘[1,3]、長谷川　奉延[1,4]、
鳴海　覚志[1]
[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] 東京都立大塚病院小児科、
[3] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[4] 柏たなか病院

ポスター発表 5　糖代謝・糖尿病・低血糖 1

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　鎌﨑　穂高（F ビレッジこどもクリニック）
　　松本　真明（姫路赤十字病院小児科）

P1-5-1　*HNF4A* スプライスバリアントを有し親子両世代で新生児期低血糖を認めた 1 家系

宗永　健志[1,2]、今野　麻里絵[3]、髙橋　修平[3]、永田　知裕[2]、石井　智弘[2]、鳴海　覚志[3]
[1] 済生会宇都宮病院小児科、[2] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

P1-5-2　経口ブドウ糖負荷試験で耐糖能の経時的悪化を認めた *HNF4A* 病的バリアントの 1 例

浅井　優作[1]、村中　あかり[1]、沼倉　周彦[1,2,3]、三井　哲夫[1]
[1] 山形大学医学部附属病院小児科、[2] 埼玉医科大学病院ゲノム医療科、
[3] 埼玉医科大学病院小児科

P1-5-3　顕性 1 型糖尿病に先行し、持続血糖測定で血糖異常を認めた単一膵島自己抗体陽性小児例

望月　美恵[1,2]、沢登　恵美[1,2]、小林　浩司[2]
[1] 独立行政法人国立病院機構甲府病院小児科、[2] 山梨大学小児科

P1-5-4　思春期に再発した 6q24 関連新生児一過性糖尿病の一例

木下　香、諏訪部　信一
国保直営総合病院君津中央病院小児科

P1-5-5　NICU で加療した先天的な形態異常を伴う一過性新生児糖尿病の一例

白髪　綾香[1,2]、大嶋　和海[2]、中村　俊介[2]、菅　あさ美[2]、大杉　康司[2]
[1] 小田原市立総合医療センター、[2] 大和市立病院

P1-5-6　持続血糖モニタリング（CGM）が血糖管理に有効であった新生児一過性糖尿病の 1 女児例

兼次　拓也[1]、津波古　健太[1]、島田　浩平[1]、津嘉山　真弓[1]、黒川　慎吾[2]、名嘉山　賀子[2]、
仲田　昌吾[2]、島袋　渡[2]、浜田　和弥[2]、仲村　貞郎[2]、仲宗根　一彦[3]、吉田　朝秀[1]、
知念　安紹[2]、荒巻　道彦[4]、鏡　雅代[5]、中西　浩一[2]
[1] 琉球大学病院周産母子センター、[2] 琉球大学大学院医学研究科育成医学講座、
[3] 沖縄赤十字病院、
[4] 国立成育医療研究センター研究所衛生検査センター先天性疾患遺伝学的検査部門、
[5] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

P1-5-7　新生児ヘモクロマトーシスにおいて見かけ上の高インスリン血症を呈し低血糖の病態評価を困難にした 1 例

須田　峻平[1]、髙野　洋子[1]、鏑木　浩太[2]、丸山　憲一[2]
[1] 伊勢崎市民病院小児科、[2] 群馬県立小児医療センター新生児科

P1-5-8　保険未加入の海外渡航者であったため多面的な問題が生じた、初発 1 型糖尿病の小児例

古川　良樹[1]、柚山　賀彦[1]、上田　華奈子[1]、大梅　成崇[1]、須永　紋奈[1]、川村　智行[2]、
濱崎　考史[1]
[1] 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、[2] あべのメディカルクリニック

ポスター発表 6　糖代謝・糖尿病・低血糖 2

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　香川　礼子（広島大学病院）
　　齋藤　朋洋（山梨県立中央病院）

P1-6-1　チルゼパチドが著効した INSR 遺伝子ヘテロ接合性病的バリアントによる A 型インスリン抵抗症の思春期女子例

平林　佳奈枝[1]、長崎　啓祐[2,3]、深見　真紀[4]
[1] 長野赤十字病院小児科、[2] 長野県立こども病院内分泌代謝科、
[3] 長野県立こども病院生命科学研究センター、[4] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部

P1-6-2　多嚢胞性卵巣症候群様の表現型を呈したインスリン受容体異常症の 1 例

長井　あかり[1]、山田　勇気[1]、樋口　真司[1]、川北　理恵[1]、李　知子[2]、森　潤[1]
[1] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、[2] 兵庫医科大学小児科学

P1-6-3　著明な高インスリン血症を契機に診断したインスリン抵抗症 A 型の女児例

堀江　潤、村井　雄紀、佐野　伸一朗
静岡県立こども病院

P1-6-4　遺伝的インスリン抵抗症疑いの 10 歳女子の一症例

金城　さおり、又吉　慶、長元　詩央
沖縄県立中部病院

P1-6-5　抗精神病薬内服中に 2 型糖尿病を発症した神経発達症の男児：2 型糖尿病の発症予防及び早期発見に向けた対応

屋宜　宣良、山本　晶子、小松　なぎさ
熊本中央病院小児科

P1-6-6　最近 10 年間の小児期発症 2 型糖尿病の動向

志賀　健太郎、上ノ町　優志、沼沢　慶太
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター

P1-6-7　発達障害のある思春期 2 型糖尿病患者へ社会支援導入の上で新規承認薬を開始した一例

中谷　恵理
近江八幡市立総合医療センター小児科

P1-6-8　高浸透圧高血糖状態を契機に 1b 型糖尿病の診断に至った重症心身障害児の一例

上岡　由奈[1]、田嶋　華子[1]、加藤　美和[1,2]、栗原　茉杏[1]、宮本　雄策[3]、植田　高弘[1]
[1] 日本医科大学武蔵小杉病院小児科、[2] 社会福祉法人賛育会賛育会病院小児科、
[3] 聖マリアンナ医科大学病院小児科

P1-6-9　SGLT-2 阻害薬内服中に Fitz-Hugh-Curtis 症候群を発症した 1 型糖尿病例

李　彩佳、寺田　啓輝、田邉　聡美、峯　佑介、青木　政子、鈴木　潤一、森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

ポスター発表 7　肥満・やせ 1

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　花木　啓一（鳥取大学医学部保健学科）
　　長井　静世（滋賀医科大学小児科学講座）

P1-7-1　小児プラダー・ウィリ症候群に対する成長ホルモン治療は骨格筋の質を改善する

和田　珠希[1,2]、大戸　佑二[3]、小泉　美紀子[1]、畑　彩葉[1]、山野　由貴[1]、前山　隆智[1,2]、
宮原　由起[1]、小山　さとみ[3]、位田　忍[4]、惠谷　ゆり[1]、川井　正信[1,2]
[1] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科、
[2] 大阪母子医療センター分子遺伝・内分泌代謝研究部門、
[3] 獨協医科大学埼玉医療センター小児科、[4] 大阪母子医療センター臨床検査科

P1-7-2　成人 Prader-Willi 症候群に対する体組成改善目的での成長ホルモン治療経験

上嶋　昌和[1]、宇和田　佳太[1]、森口　拓磨[1]、高橋　菖[1]、永松　晋作[2]、松尾　英城[2]、
守屋　圭[2]
[1] 奈良県総合医療センター糖尿病内分泌内科、[2] 奈良県総合医療センター消化器内科

P1-7-3　糖尿病治療にチルゼパチドを導入した Prader-Willi syndrome の女児例

三浦　啓暢[1]、齋藤　大[1]、木幡　将人[2]、島　彦仁[1]、片桐　秀樹[2]、菊池　敦生[1]、
菅野　潤子[1]
[1] 東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野、
[2] 東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝・内分泌内科学分野

P1-7-4　高度肥満、知的障害、小陰茎から Prader-Willi 症候群を疑ったが、Burnside Butler 症候群と診断した 1 例

中川　智博[1,2]、齋藤　大[2]、島　彦仁[2]、鏡　雅代[3]、深見　真紀[3]、菊池　敦生[2]、菅野　潤子[2]
[1] 仙台市立病院、[2] 東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野、
[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

P1-7-5　肝硬変まで進行した視床下部性肥満の一女児例、不十分な成長ホルモン治療との関連について

浅野　茉莉香[1]、内田　義人[2]、武者　育麻[1,3]、吉村　萌[1]、飛田和　えりか[1]、沼倉　周彦[1,3]、
水野　卓[2]、持田　智[2]、菊池　透[1]
[1] 埼玉医科大学病院小児科、[2] 埼玉医科大学病院消化器内科・肝臓内科、
[3] 埼玉医科大学病院ゲノム医療科

P1-7-6　小児肥満の短期教育入院は BMI-SDS が高い症例で有効である

山口　修平[1]、纐纈　昌樹[1]、渡辺　健太[1]、塩田　翔吾[1]、杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、
荻原　康子[1]、吉井　啓介[1]、鹿島田　健一[1]、田中　久子[2]、森崎　菜穂[2]、内木　康博[1]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センター社会医学研究部

P1-7-7　小児肥満教育入院における有効性の性差の検討

多久　葵、中野　剛希、牧村　美佳
国立病院機構小倉医療センター

P1-7-8　小児肥満診療における個別的対応の試み

藤原　幾磨、中川　智博、及川　嶺、三浦　啓暢、島　彦仁
仙台市立病院小児科

ポスター発表 8　甲状腺 1

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　伊藤　順庸（金沢医科大学小児科学）
　　今野　麻里絵（慶應義塾大学医学部小児科学教室）

P1-8-1　チアマゾールの急激な血中濃度上昇との関連が示唆された急性顆粒球減少症
多久和　麻由子[1]、高桑　聖[1]、小松　弘季[2]
[1] 兵庫県立西宮総合医療センター、[2] 大阪大学医学部附属病院

P1-8-2　過成長・骨成熟が目立った 2 歳発症の Basedow 病女児例
加藤　嘉一、柿本　令奈、檜作　和子、福重　寿郎
鹿児島市立病院小児科

P1-8-3　感染症の入院中に Basedow 病と診断された 2 例
谷口　千尋、宮下　健悟
富山県立中央病院

P1-8-4　起立性調節障害様症状の評価・経過中に発見された Basedow 病の 3 例
佐竹　俊哉、千葉　有美子、髙宮　聖実、嶋田　怜士、遠海　重裕
帝京大学医学部附属病院小児科

P1-8-5　等頻度房室解離を伴う促進性房室接合部調律を呈した川崎病合併バセドウ病の 8 歳男児
藤田　凌[1]、小田　洋一郎[1]、中村　晶[1]、秋下　小百合[1]、西木　拓己[2]
[1] 茅ヶ崎市立病院小児科、[2] 帝京大学医学部小児科

P1-8-6　思春期発来に伴い自己抗体が著明に再上昇し難治性再燃を来した小児バセドウ病の 1 例
宇都宮　秀和、地行　健二、濱田　淳平、江口　真理子
愛媛大学大学院医学系研究科小児科学

P1-8-7　外科治療を要する TSH 受容体遺伝子の機能獲得型変異による先天性甲状腺機能亢進症の 12 歳男児の一例
長元　詩央[1]、金城　さおり[1]、又吉　慶[1]、鳴海　覚志[2]
[1] 沖縄県立中部病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

P1-8-8　不自然な甲状腺機能の経過から母体の Basedow 病が見つかり、その影響が考えられた 1 例
鈴木　智也、秀野　公美、岡田　朝美、都　研一
地方独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院内分泌・代謝科

ポスター発表 9　甲状腺 2

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　志村　和浩（横浜市立市民病院小児科）
　　岩山　秀之（愛知医科大学）

P1-9-1　Basedow 病から橋本病による甲状腺機能低下症に移行した Down 症候群の 2 例
山田　美歩[1,2]、土岐　真智子[2,3]、東　駿祐[1]、根本　千裕[1]、花川　純子[1]、室谷　浩二[1]
[1] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 国立病院機構東京医療センター

P1-9-2　Down 症候群に合併した橋本病の臨床的特徴
武内　香菜子[1]、円山　牧子[1]、熊田　寛子[1]、内海　孝法[1,2]、香川　礼子[1]、早川　誠一[1]、
岡田　賢[1]
[1] 広島大学病院小児科、[2] 県立広島病院新生児科

P1-9-3　バセドウ病から橋本病への病型変化を呈した自己免疫性甲状腺疾患の 1 例

入江　加奈子、岩瀬　孝志、水尾　杏海、日下　隆
香川大学医学部小児科

P1-9-4　橋本病へ移行した小児期発症バセドウ病の 3 例

壷井　史奈[1]、神野　和彦[1]、藤井　勇気[1]、鈴木　伸[2]、出雲　大幹[1]、郷田　聡[2]、
坂田　園子[1]、石川　暢恒[1]
[1]県立広島病院小児科、[2]県立広島病院小児腎臓科

P1-9-5　バセドウ病寛解後短期間で顕性甲状腺低下症に移行した甲状腺片側無形成を伴う 22q11.2 欠失症候群例

岩本　匡洋、松本　真明、浅見　日向、武内　恵太、長谷川　貴也、本郷　裕斗、
阪田　美穂、中川　卓、五百蔵　智明
姫路赤十字病院小児科

P1-9-6　初診時に認めた腎機能障害が、甲状腺ホルモン補充療法により可逆性に正常化した慢性甲状腺炎の 1 例

宮垣　知史、谷口　貴彦、百瀬　笙子、森下　祐馬、冨井　敏宏、中川　憲夫、
岡本　亜希子、甲山　望、短田　浩一、西村　陽
京都第一赤十字病院小児科

P1-9-7　ヨード過剰摂取が原因で甲状腺機能障害を認めた Gitelman 症候群

吉澤　弘行、西山　敦子、田口　真輝、山田　光陽、大西　遥菜
奈良県西和医療センター小児科

P1-9-8　長期経腸栄養に伴うヨウ素欠乏性甲状腺機能低下症におけるヨウ素補充頻度調整の検討

大髙　智博[1]、小山　さとみ[1,2]、野村　好平[1]、吉原　伸弥[1]、藤田　雄治[1]、白石　秀明[1]
[1]獨協医科大学、[2]獨協医科大学埼玉医療センター

ポスター発表 10　骨代謝・骨系統疾患 1

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　北岡　太一（医誠会国際総合病院小児科）
　　川嶋　明香（山形県立中央病院小児科）

P1-10-1　当院で遺伝学的解析を行った COL2A1 異常症患者 12 名の臨床的、遺伝学的特徴

吾郷　祐子[1]、二川　奈都子[1]、綾　晃記[1,2]、樋口　洋介[3]、長岡　義晴[4]、原田　大輔[5]、
柏木　博子[5]、守分　正[6]、長谷川　高誠[7]
[1]岡山大学病院小児科、[2]岡山赤十字病院小児科、[3]岡山医療センター小児科、
[4]広島市立広島市民病院小児科、[5]JCHO 大阪病院小児科、[6]岩国医療センター小児科、
[7]岡山大学学術研究院医療開発領域小児科

P1-10-2　著明な低身長を呈し軟骨無形成症との鑑別を要した *B3GALT6* 関連疾患の乳児例

森　真以[1,2,3]、堀　友博[1,2,3]、松本　英樹[1,3]、笹井　英雄[1,2,3,4]、久保田　一生[1,2,3]、小関　道夫[1,3]、
川本　典生[1,3]、大西　秀典[1,2,3]
[1]岐阜大学大学院医学系研究科小児科学、
[2]岐阜大学医学部附属病院ゲノム疾患・遺伝子診療センター、
[3]岐阜大学大学院医学系研究科希少難病研究室、
[4]岐阜大学大学院医学系研究科小児希少難病早期診断・予防医学講座

P1-10-3　成人期に胸郭低形成による肺胞低換気を生じ非侵襲的陽圧換気を要した偽性軟骨無形成症の一例

島　彦仁、西條　直也、藤原　幾磨、菊池　敦生、菅野　潤子
東北大学病院小児科

P1-10-4　低身長を契機に骨形成不全症 IV 型と診断された 4 歳女児の 1 例

上村　美季[1]、保田　知奈未[1]、田山　耕太朗[1]、山口　祐樹[1]、渡邉　浩司[1]、木村　正人[1]、
渡邊　庸平[1]、大沼　良一[1]、菅野　潤子[2]、千葉　洋夫[1]
[1]国立病院機構仙台医療センター、[2]東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野

P1-10-5　成長曲線が診断の一助となった偽性軟骨無形成症の 3 歳女児

坂元　沙樹、德永　美菜子、加藤　嘉一、関　祐子、岡本　康裕
鹿児島大学病院小児科

P1-10-6　閉塞性無呼吸により肺高血圧症および右心不全を呈した軟骨無形成症の一例

中道　龍哉[1]、齋藤　広幸[1,2]、北岡　太一[1,2]、外川　正生[1,2]、大薗　恵一[1,2]
[1]医誠会国際総合病院小児科、[2]医誠会国際総合病院難病医療推進センター

P1-10-7　心肺停止を繰り返し大後頭孔減圧術に至った軟骨無形成症

德永　成将、山本　夏穂、明利　聡瑠、松山　美静代、盛武　浩
宮崎大学医学部附属病院

P1-10-8　成長ホルモン療法中に小脳腫瘍を合併した軟骨低形成症の 15 歳男子例

齋藤　広幸[1]、北岡　太一[1]、中道　龍哉[1]、平山　龍一[3]、大薗　恵一[2]
[1]医誠会国際総合病院小児科、[2]医誠会国際総合病院難病医療推進センター、
[3]大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学

ポスター発表 11　骨代謝・骨系統疾患 2

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　藤本　正伸（鳥取大学医学部周産期・小児医学分野）
　　鈴木　大（石巻赤十字病院小児科）

P1-11-1　軟骨無形成症の小児患者を対象とした umedaptanib pegol（抗 FGF2-RNA アプタマー）第 III 相臨床試験

鹿島田　健一[1,2,3,4,5,6,7,8]、森　潤[2]、尾﨑　佳代[3]、細川　悠紀[4]、髙澤　啓[5]、田嶼　朝子[6]、
野中　洋介[7]、中村　義一[7]、大薗　恵一[8]
[1]国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、
[2]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[3]兵庫県立こども病院代謝内分泌科、[4]倉敷中央病院小児科、[5]東京科学大学病院小児科、
[6]東京慈恵会医科大学附属病院小児科、[7]株式会社リボミック、[8]大阪大学名誉教授

P1-11-2　軟骨無形成症に対する新生児期早期ボソリチド投与の臨床経過

佐野　伸一朗[1]、村井　雄紀[1]、堀江　潤[1]、永井　晴識[2]、石崎　竜司[2]、山田　浩介[3]、
清水　健司[3]、本田　義信[4]
[1]静岡県立こども病院糖尿病代謝内科、[2]静岡県立こども病院脳神経外科、
[3]静岡県立こども病院遺伝染色体科、[4]いわき市医療センター未熟児新生児科

P1-11-3　軟骨無形成症患者に対するボソリチド治療効果の検討

菅野　潤子[1]、齋藤　大[1]、及川　嶺[1]、中川　智博[1,2]、三浦　啓暢[1]、島　彦仁[1]、
藤原　幾磨[2]、菊池　敦生[1]
[1]東北大学大学院発生・発達医学講座小児病態学分野、[2]仙台市立病院小児科

P1-11-4　ENPP1 関連疾患と鑑別を要した、*PHEX* 新規バリアントの X 連鎖性低リン血症性くる病の男児例

真玉　千紘[1,2]、金城　由佳里[1]、鞍嶋　有紀[3]、井垣　純子[1]
[1]南部医療センター・こども医療センター、[2]大田市立病院小児科、
[3]島根大学医学部附属病院小児科

P1-11-5　多様な病因の偽性副甲状腺機能低下症におけるロングリードシークエンスによる *GNAS*-DMR アレル別メチル化解析

中村　紗佑里[1,2,3]、成澤　宏宗[1,4]、浦川　立貴[1]、谷本　由季絵[5]、土屋　恭一郎[5]、
庄司　健介[2]、川嶋　明香[6]、中村　明枝[1]、深見　真紀[1]、鏡　雅代[1]
[1]国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[2]国立成育医療研究センター教育研修センター、[3]東北大学医学部次世代小児医療講座、
[4]山梨大学医学部附属病院小児科、[5]山梨大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科、
[6]山形県立中央病院小児科

P1-11-6　潜在性甲状腺機能低下症の精査を契機に *GNAS* 遺伝子に新規ミスセンスバリアントを認めた 1 家系

出澤　洋人[1]、山本　政寿[1]、泉　維昌[1]、浦川　立貴[2]、鏡　雅代[2]
[1]茨城県立こども病院小児総合診療科、[2]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

P1-11-7　母体既往のため出生早期から追跡した偽性副甲状腺機能低下症 1a 型の男児

中島　佑、安部　希、石井　加奈子、酒井　康成
九州大学病院小児科

P1-11-8　*CASR* 遺伝子に新規の病的バリアントを同定し、低 Ca 血症の管理に難渋した男児例

清水　大地[1]、加藤　嘉一[1]、檜作　和子[1]、服部　真也[2]、伊藤　由作[2]、藤原　誠[2]、
山本　賢一[2]、大幡　泰久[2]
[1]鹿児島市立病院、
[2]大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻情報統合医学小児科学講座

P1-11-9　てんかん合併が考えられた常染色体顕性低カルシウム血症 1 型の 1 例

有薗　弘海[1]、原田　大輔[1,2]、上山　薫[1]、石浦　嘉人[1]、松下　浩子[1]、清野　佳紀[1]、
柏木　博子[1]
[1]地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院、[2]桃山学園大学人間教育学部

ポスター発表 12　症候群・遺伝・その他

11 月 5 日（木）　18：15 ～ 19：15　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　児島　加奈子（福岡大学病院小児科）
　　永松　扶紗（熊本大学病院小児科）

P1-12-1　体細胞性バリアントの分布は胎盤発生過程の個体差を示唆する

土井　響[1,2]、服部　淳[1,3]、中尾　佳奈子[1]、本村　健一郎[4]、和田　誠司[5]、福井　由宇子[1]、
深見　真紀[1,2]
[1]国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[2]東北大学大学院医学系研究科次世代小児医療講座、
[3]国立成育医療研究センター精密創薬研究部分子薬理研究室、
[4]国立成育医療研究センター女性免疫バイオメディカル研究室、
[5]国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター

P1-12-2　SNP アレイとメチル化解析の乖離からアレル構成を検討した 15q11.1-q13.3 部分テトラソミーの 1 例

成澤　宏宗[1,2]、浦川　立貴[2]、中村　紗佑里[2]、鏡　雅代[2]、渡邊　大輔[1]、矢ヶ崎　英晃[1]、
佐藤　和正[1]、太田　正法[1]、犬飼　岳史[1]
[1]山梨大学医学部附属病院小児科、[2]国立成育医療研究センター分子内分泌研究部

P1-12-3　多毛と心血管異常を契機に診断した Cantú 症候群の 1 例と文献的考察

纐纈　昌樹[1]、伊藤　玲子[2]、金　基成[3]、渡辺　健太[1]、山口　修平[1]、塩田　翔吾[1]、
杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、荻原　康子[1]、内木　康博[1]、鹿島田　健一[1]、吉井　啓介[1]
[1]国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2]国立成育医療研究センター総合診療科、
[3]国立成育医療研究センター循環器科

P1-12-4　社会環境の「3 相」変化は小児慢性疾患の Diagnostic pathways を変化させるのか？～10 年間の単施設観察研究～

滝島　茂[1,2]、松田　希[1]、佐藤　健[1]、髙澤　啓[2]、長谷川　毅[1]
[1] 草加市立病院診療部小児科、
[2] 東京科学大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学（小児科）

P1-12-5　もやもや症候群を発症した Noonan 症候群の 1 例

箱田　明子、西井　亜紀
JR 仙台病院

P1-12-6　JMDC 保険者データベースを用いた 0–19 歳プラダー・ウィリー症候群患者の全国推計患者数および有病率の推定

小西　絢子[1,2]、馬場　幸子[3]、川井　正信[1,4]
[1] 大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門、
[2] 大阪公立大学大学院医学研究科公衆衛生学、[3] 大阪母子医療センター母子保健調査室、
[4] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科

P1-12-7　JMDC データベースを用いた成人ヌーナン症候群患者の入院理由に関する解析

小泉　美紀子[1,2]、馬場　幸子[3]、川井　正信[1,4]
[1] 大阪母子医療センター消化器内分泌科、[2] 淀川キリスト教病院小児科、
[3] 大阪母子医療センター母子保健調査室、
[4] 大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門

P1-12-8　コホートプロファイル：成育母子コホート研究

吉井　啓介[1]、山口　修平[1]、塩田　翔吾[1]、杉浦　愛子[1]、纐纈　昌樹[1]、渡辺　健太[1]、
宇治田　凪紗[1]、内木　康博[1]、森崎　菜穂[2]、小川　浩平[3]、鏡　雅代[4]、中村　明枝[4]、
土井　響[4]、五十嵐　瑞穂[4]、久保田　雅也[5]、山本　貴和子[6]、鹿島田　健一[1]
[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センター社会医学研究部、
[3] 国立成育医療研究センター産科、[4] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[5] 国立成育医療研究センター神経内科、[6] 国立成育医療研究センター総合アレルギー科

ポスター発表 13　下垂体・成長 3

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　小田　洋一郎（茅ケ崎市立病院小児科）
　　島　彦仁（東北大学病院）

P1-13-1　成長ホルモン分泌不全性低身長症患児におけるソマプシタン 4 年間投与の有効性および安全性：REAL4 試験の結果

川井　正信[1]、Bradley S. Miller[2]、Jo Blair[3]、Michael Hojby[4]、Jan Frystyk[5,6]、Aristides Maniatis[7]、Tina Lund Leunbach[4]、森　潤[8]、Jin Ho Choi[9]、Volker Bottcher[10]、Michel Polak[11]

[1] 大阪母子医療センター、
[2] Division of Endocrinology, Department of Pediatrics, University of Minnesota Medical School, M Health Fairview Masonic Children's Hospital, Minneapolis, MN, USA、
[3] Department of Paediatric Endocrinology, Alder Hey Children's NHS Foundation Trust, Liverpool, UK、
[4] Medical & Translational Science, Novo Nordisk A/S, Soborg, Denmark、
[5] Department of Clinical Research, University of Southern Denmark, Odense 5230, Denmark、
[6] Department of Endocrinology, Odense University Hospital, Odense 5000, Denmark、
[7] Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, CO, USA、
[8] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、
[9] Department of Pediatrics, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine, Seoul, Korea、
[10] Division of Pediatric Endocrinology and Metabolism, MVZ Endokrinologikum Frankfurt am Main, Frankfurt 60596, Germany、
[11] Pediatric Endocrinology, Necker–Enfants Malades Univ. Hosp., Univ. Paris Cite, AP-HP, Paris, France

P1-13-2　ターナー症候群女児における週 1 回ソマプシタン投与：無作為割付第 3 相試験（REAL8）

鹿島田　健一[1]、Nelly Mauras[2]、Claudia Boettcher[3]、Michael Hojby[4]、Kamil Soltysik[4]、Alexander A. L. Jorge[5]、Agnes Linglart[6]、Xiaoping Luo[7]、Philip G. Murray[8,9]、Philippe Backeljauw[10]

[1] 国立成育医療センター、
[2] Nemours Children's Health, Jacksonville, FL, United States of America、
[3] Paediatric Endocrinology and Diabetology, Julie-von-Jenner Haus, University of Bern Faculty of Medicine, Bern, Switzerland、
[4] Novo Nordisk A/S, Soborg, Denmark、
[5] Genetic Endocrinology Unit（LIM25）, Hospital das Clinicas da Faculdade de Medicina da Universidade de Sao Paulo（HC-FMUSP）, Brazil、
[6] Universite Paris Saclay, Inserm, AP-HP, Service Endocrinologie et diabete de l'enfant, Hopital Bicetre Paris-Saclay, Le Kremlin-Bicetre, France、
[7] Department of Pediatrics Tongji Hospital, Tongji Medical College, Huazhong University of Science and Technology, Wuhan Hubei, China、
[8] Division of Developmental Biology and Medicine, Faculty of Biology, Medicine and Health, University of Manchester, UK、
[9] Department of Paediatric Endocrinology, Royal Manchester Children's Hospital, Manchester, UK、
[10] Division of Endocrinology, Department of Pediatrics, Cincinnati Children's Hospital Medical Center, University of Cincinnati College of Medicine, Cincinnati, OH, USA.

P1-13-3　SGA 小児・思春期患児における 1 日 1 回投与 GH 製剤からの切り替え後成績を含むソマプシタン 2 年成績：REAL8 試験

鹿島田　健一[1]、Aristides Maniatis[2]、Volker Bottcher[3]、Michael Hojby[4]、Xinran Cheng[5]、Carlos Alberto Longui[6]、Lawrence Silverman[7]、Kamil Soltysik[4]、Agnes Linglart[8]
[1] 国立成育医療センター、
[2] Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, 80112 CO, USA.、
[3] Division of Pediatric Endocrinology and Metabolism, MVZ Endokrinologikum Frankfurt am Main, Frankfurt 60596, Germany.、
[4] Medical & Translational Science, Novo Nordisk A/S, Soborg 2860, Denmark.、
[5] Department of Pediatric Genetics, Endocrinology and Metabolism, Chengdu Women and Children's Center Hospital, Chengdu, China.、
[6] Pediatric Endocrinology Unit, Pediatric Department, Irmandade da Santa Casa de Misericordia de Sao Paulo and Santa Casa de Sao Paulo School of Medical Sciences, Sao Paulo, Brazil.、
[7] Goryeb Children's Hosptial, Atlantic Health, New Jersey, USA、
[8] Universite Paris-Saclay, Inserm, AP-HP, Service d'Endocrinologie et diabete de l'enfant, Hopital Bicetre Paris Saclay, F-94270 Le Kremlin-Bicetre, France.

P1-13-4　併存症合併例を含む小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者に対する長時間作用型成長ホルモン製剤の有効性

石井　裕代[1]、橘　真紀子[1]、伊東　英美[1]、福井　美穂[1]、中野　由佳子[1]、山本　賢一[1,2,3]、藤原　誠[1]、木村　武司[1]、高桑　聖[1,4]、三善　陽子[1,5]、窪田　拓生[1,6]、大幡　泰久[1]、北畠　康司[1]
[1] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、
[3] 大阪大学医学部附属病院遺伝子診療部、[4] 兵庫県立西宮病院小児科、
[5] 大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科、[6] 大阪母子医療センター腎・代謝科

P1-13-5　長時間作用型ヒト成長ホルモンアナログ製剤の導入と裂脳症を背景としたてんかん発作増悪の関連を疑った症例

山形　大輝[1]、遠藤　愛[1]、菱村　希[1]、山口　健史[1,2]、植田　佑樹[1]、森川　俊太郎[1]
[1] 北海道大学病院小児科、[2] 北海道大学環境健康科学研究教育センター

P1-13-6　SGA 性低身長児における GH 開始前のインスリン感受性と GH 反応性の検討

高杉　祐生[1,2]、中川　竜一[1,2]、髙澤　啓[1,2]
[1] 武蔵野赤十字病院小児科、[2] 東京科学大学病院発生発達病態学

P1-13-7　成長ホルモン分泌不全と中枢性甲状腺機能低下症を有し、社会的保護を要した 4 歳男児の 1 例

石橋　祐哉[1]、宇都宮　朱里[2]、内田　直幸[3]、佐久間　彩子[2]、小野　浩明[2]、荒新　修[2]
[1] 広島市立北部医療センター安佐市民病院初期研修医、
[2] 広島市立北部医療センター安佐市民病院小児科、[3] 県立広島病院新生児科

P1-13-8　成長ホルモン治療を行い肥大型心筋症の増悪と成人身長の改善を認めた Costello 症候群の 1 例

大串　健一郎、安藏　慎、曽根田　瞬、麻生　健太郎、清水　直樹
聖マリアンナ医科大学小児科

ポスター発表 14　下垂体・成長 4

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　井上　忍（国立病院機構宮崎東病院）
　　小山　雄平（株式会社 LSI メディエンス）

P1-14-1　小児期発症頭蓋咽頭腫の長期予後調査：関連 3 学会会員への一次アンケート

向山　祐理[1]、磯島　豪[1]、福原　紀章[2]、森川　俊太郎[3]、佐野　伸一朗[4]、森　潤[5]、
千葉　謙太郎[6]、木野　弘善[8]、森迫　拓貴[9]、竹内　和人[10]、水野　晴夫[11]、長谷川　奉延[12]、
高橋　裕[13]、大月　道夫[7]、西岡　宏[2]

[1] 虎の門病院小児科、[2] 虎の門病院間脳下垂体外科、[3] 北海道大学病院小児科、
[4] 静岡県立こども病院糖尿病・代謝内科、
[5] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、[6] 東京女子医科大学脳神経外科、
[7] 東京女子医科大学内分泌内科、[8] 筑波大学附属病院脳神経外科、
[9] 大阪公立大学医学部附属病院脳神経外科、[10] 名古屋大学医学部附属病院脳神経外科、
[11] 藤田医科大学病院小児科、[12] 柏たなか病院小児科、
[13] 奈良県立医科大学附属病院糖尿病・内分泌内科

P1-14-2　脳腫瘍治療後に視床下部障害を発症した小児 3 例について

新村　南[1]、山岡　正慶[1]、廣津　竜也[2]、野中　雄一郎[2]、木村　妙[1]、田嶋　朝子[1]

[1] 東京慈恵会医科大学小児科学講座、[2] 東京慈恵会医科大学脳外科学講座

P1-14-3　急速に進行した視野障害を契機に診断した非機能性下垂体神経内分泌腫瘍の 14 歳例

平松　直子[1]、石川　有希美[1]、西村　拓朗[1,2]、土屋　ひかる[1,2]、秋庭　崇人[1,2]、
矢賀部　彩音[1]、米山　俊之[1]、三森　愛美[2]、田久保　憲行[2]、木村　芽以子[3]、
海老原　伸行[3]、石井　尚登[4]、高橋　健[1,2]

[1] 順天堂大学医学部附属浦安病院小児科、[2] 順天堂大学医学部小児科学講座、
[3] 順天堂大学医学部附属浦安病院眼科、[4] 順天堂大学医学部附属浦安病院脳神経外科

P1-14-4　初経後早期の無月経と成長曲線異常により下垂体機能低下症が示唆された Germinoma の一例

坂田　泉澄、山内　建、竹下　峻希、境内　愛実、才田　聡、河井　昌彦
京都大学医学部附属病院

P1-14-5　画像上増大を伴わず，成長障害を契機に診断・治療に至ったラトケ嚢胞の一例

中村　望[1,2,3]、根本　千裕[1]、山田　美歩[1]、東　駿祐[1]、花川　純子[1]、磯島　豪[2]、西岡　宏[3]、
室谷　浩二[1]

[1] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2] 虎ノ門病院小児科、
[3] 虎の門病院間脳下垂体外科

P1-14-6　下垂体茎連続性を認めた異所性下垂体後葉の一例

北川　幸子[1,2]、岩山　秀之[2,3]、伊藤　嘉規[2]、奥村　彰久[2]

[1] 総合大雄会病院小児科、[2] 愛知医科大学医学部小児科学講座、[3] ほしがおか成長クリニック

P1-14-7　成長ホルモン分泌能を経時的に評価した *IGSF1* 異常症の 1 例

八木　弘子[1]、伊藤　悦朗[1]、菊池　敦生[2]、高山　順[3]、照井　君典[1]

[1] 弘前大学小児科、[2] 東北大学小児科、
[3] 東北大学大学院医学系研究科 AI フロンティア新医療創生分野

P1-14-8　内分泌学的精査の過程で偶発的に脳動静脈奇形の診断に至った Turner 症候群の一例

加藤　美和[1,2]、坂口　陽平[1]、石田　理奈[1]、生形　有史[1]、中野　沙季[1]、原田　祥子[1]、
入鹿山　佳代[1]、醍醐　政樹[1]、髙　京愛[1]、小松　充孝[1]

[1] 社会福祉法人賛育会賛育会病院、[2] 日本医科大学小児・思春期学分野大学院研究科

ポスター発表 15　下垂体・成長/副腎

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　佐藤　武志（慶應義塾大学医学部小児科学教室）
　　関　祐子（鹿児島大学小児科）

P1-15-1　ケトン性低血糖症における低血糖時 critical sample での GH 値評価の限界
深尾　友美[1,2]、瀧浦　俊彦[1]、大久保　結子[1]、橋本　悟[1]、吉野　浩[1]、成田　雅美[1]
[1] 杏林大学医学部小児科、[2] 杏林大学医学部付属杉並病院小児科

P1-15-2　成長ホルモン治療中にてんかん発作を発症した 3 症例
永木　茂[1]、七字　美延[2]、小国　弘量[2]、大澤　真木子[2]
[1] ながきこどもクリニック、[2] 東京女子医科大学病院

P1-15-3　著明な低身長を呈した mosaic trisomy 14 with UPD（14）mat の 1 例
田所　宏啓[1]、小貫　孝則[1]、澤野　堅太郎[1]、入月　浩美[1]、塚田　正範[1]、鏡　雅代[2]、
小川　洋平[1]
[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[2] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部

P1-15-4　下垂体性 hCG の上昇を認め性腺腫瘍との鑑別を要した Campomelic Dysplasia の 46,XY 女性例
花川　純子[1]、根本　千裕[1]、東　駿祐[1]、山田　美歩[1]、長谷川　由香里[2]、西　盛宏[3]、
室谷　浩二[1]
[1] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2] 神奈川県立こども医療センター検査科、
[3] 神奈川県立こども医療センター泌尿器科

P1-15-5　先天性副腎過形成と鑑別を要した偽性低アルドステロン症の新生児例
池谷　紀衣子[1]、錦織　朱[1]、西林　優[1]、森脇　彩賀[1]、貝藤　裕史[2]、尾﨑　佳代[1]
[1] 兵庫県立こども病院代謝内分泌科、[2] 兵庫県立こども病院腎臓内科

P1-15-6　CRH 負荷試験偽陰性を呈し IPSS により診断に至った小児 Cushing 病の 1 例
儘田　光和、坂部　匡彦
日本赤十字社和歌山医療センター小児科

P1-15-7　原発性副腎機能低下症が初発症状であり全ミトコンドリアゲノム解析にて診断しえた非典型 Kearns-Sayre 症候群
尾﨑　佳代[1]、森脇　彩賀[1]、錦織　朱[1]、西林　優[1]、池谷　紀衣子[1]、村山　圭[2]、
丸山　あずさ[3]、森貞　直哉[4]
[1] 兵庫県立こども病院代謝内分泌科、
[2] 順天堂大学大学院医学研究科難治性疾患診断・治療学講座、
[3] 兵庫県立こども病院神経内科、[4] 兵庫県立こども病院臨床遺伝科

P1-15-8　術前にメチロシン投与を行った高度心機能低下を伴う褐色細胞腫の 14 歳男児
髙尾　洋輝[1]、内田　英利[1]、富家　由美[2]、小川　喜美雄[2]、斎藤　和由[1]、日比　八束[2]、
水野　晴夫[1]
[1] 藤田医科大学医学部小児科学、[2] 藤田医科大学医学部内分泌外科

ポスター発表 16　性腺・性分化 2

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　松山　美靜代（宮崎大学医学部小児科）
　　多久　葵（国立病院機構小倉医療センター）

P1-16-1　SOX10 遺伝子の関与が示唆された難聴合併 Kallmann 症候群の 1 例
藤本　英ミレナ、榎本　さやか、鈴木　このみ、水谷　陽貴、濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター

P1-16-2　DCC 遺伝子のハプロ不全による低ゴナドトロピン性性腺機能低下症が疑われる遠位 18q 欠失症候群の男児例

福田　太郎[1,2]、榎本　さやか[1]、藤本　英ミレナ[1]、鈴木　このみ[1]、水谷　陽貴[1]、濱島　崇[1]

[1] あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、[2] 名古屋大学医学部附属病院小児科

P1-16-3　FGFR1 関連 Kallmann 症候群の男児例―骨脆弱性を踏まえた治療介入時期の検討

東　駿祐、山田　美歩、根本　千裕、花川　純子、室谷　浩二

神奈川県立こども医療センター

P1-16-4　二次性徴の進行停止を契機に診断した中隔視神経形成異常症の視床下部性性腺機能低下症

大澤　好充[1,2]、島田　正晴[1]、山口　将邦[1]、江田　陽一[1]、大津　義晃[1]、滝沢　琢己[1]

[1] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 群馬県立小児医療センター内分泌代謝科

P1-16-5　BRCA2 に両アレル性病的バリアントを認めた原発性卵巣機能不全症の姉妹例

窪田　義己[1]、池側　研人[1]、吉橋　博史[2]、志村　和浩[3]、鳴海　覚志[3]、長谷川　行洋[1,4]、天野　直子[1]、石井　智弘[1]

[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[2] 東京都立小児総合医療センター臨床遺伝科、[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[4] 東京都立多摩北部医療センター小児科

P1-16-6　思春期多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）の臨床的検討

望月　貴博、北山　称、西垣　五月

希望の森成長発達クリニック

P1-16-7　リュープロレリン初回投与 2 時間後にアナフィラキシーショックを呈した特発性中枢性思春期早発症の 1 例

中野　さつき[1,2]、濱畑　裕子[1]、小松　理瑛子[1]、川本　咲美[1]、明石　真幸[1,2]、鳴海　覚志[2]

[1] さいたま市立病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科

P1-16-8　思春期早発症女児に対する GnRH アナログ治療中の骨年齢抑制効果に影響する因子

西垣　五月、北山　称、望月　貴博

希望の森成長発達クリニック

ポスター発表 17　性腺・性分化 3

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　明利　聡瑠（宮崎大学医学部小児科）
　　松田　希（草加市立病院）

P1-17-1　TE 筋注 3 回後の DHT 外用追加が近位型尿道下裂術前の亀頭幅増大と伸展陰茎長伸長に有効であった 1 例

津浦　海里[1]、藤井　雅行[1]、服部　花穂[1]、中野　さつき[2]、佐藤　武志[1]、石井　智弘[1,3]、長谷川　奉延[1,4]、鳴海　覚志[1]

[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] さいたま市立病院小児科、
[3] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[4] 柏たなか病院

P1-17-2　術後早期に受診が途絶え、思春期に性腺機能の再評価を要した 46,XX ovotesticular DSD

明利　聡瑠[1]、徳永　成将[1]、山本　夏穂[1]、松山　美静代[1]、澤田　浩武[2]、盛武　浩[1]

[1] 宮崎大学医学部小児科、[2] 宮崎大学医学部看護学科

P1-17-3　46,XX 先天性副腎過形成症における性自認の揺らぎと心理社会的支援：発達段階に基づくナラティブレビュー

荻原　康子[1]、池田　真希子[2]、渡辺　健太[1]、纐纈　昌樹[1]、山口　修平[1]、塩田　翔吾[1]、杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、吉井　啓介[1]、内木　康博[1]、鹿島田　健一[1]

[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センターこころの診療科

P1-17-4　小陰茎および停留精巣を契機に 1 歳時に診断されたクラインフェルター症候群の一例
石田　敦士
岐阜県立多治見病院小児科

P1-17-5　視覚認知障害と発達性協調運動障害を合併したターナー症候群の 1 例
荒木　久美子[1]、稲田　勤[2]、濱田　淳平[3]
[1] 秋山成長クリニック、[2] 高知リハビリテーション専門職大学言語聴覚学専攻、
[3] 愛媛大学医学部小児科

P1-17-6　思春期早発症を合併したターナー症候群の一例
大嶋　英莉香、原田　大輔、上山　薫、中西　隆哉、難波　範行、清野　佳紀、柏木　博子
JCHO 大阪病院

P1-17-7　鞍棘を伴うゴナドトロピン依存性思春期早発症の 9 歳女児例
松本　英樹[1,2]、堀　友博[1,2]、森　真以[1,2]、笹井　英雄[1,2,3]、久保田　一生[1,2]、小関　道夫[1,2]、
川本　典生[1,2]、大西　秀典[1,2]
[1] 岐阜大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 岐阜大学大学院医学系研究科希少難病研究室、
[3] 岐阜大学大学院医学系研究科小児希少難病早期診断・予防医学講座

P1-17-8　母に投与されたエストラジオール外用ゲル剤の経皮的移行により女性化乳房を来したと考えられた 2 歳男児
渡邊　夏実、伊藤　駿、植田　有紀子、佐藤　真理、麻生　敬子
東邦大学医療センター大森病院小児科

ポスター発表 18　糖代謝・糖尿病・低血糖 3

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）
座長　川北　理恵（大阪市立総合医療センター）
武者　育麻（埼玉医科大学病院小児科）

P1-18-1　低 K・致死性不整脈を伴う DKA に対してインスリン再開時期を検討した 1 例
嶋中　幸造[1,2]、岩淵　敦[1,2,3]、河原　さくら[1]、中村　和[1]、矢板　克之[1]、奥脇　一[1]、
城戸　崇裕[1,3]、高田　英俊[1,3]
[1] 筑波大学附属病院小児科、[2] 日立総合病院小児科、[3] 筑波大学医学医療系小児科

P1-18-2　小田原市立総合医療センター小児 1 型糖尿病患者における AHCL の HCL および MDI に対する優位性の検討
西山　邦幸[1,3]、﨑村　青葉[2]、大杉　康司[2]、松田　基[1]、志賀　健太郎[3]
[1] 小田原市立総合医療センター、[2] 大和市立病院、[3] 横浜市立大学附属市民総合医療センター

P1-18-3　小児 1 型糖尿病患者における AHCL 導入時期別の CGM 指標
松本　真明、岩本　匡洋、長谷川　貴也、本郷　裕斗、阪田　美穂、中川　卓、五百蔵　智明
姫路赤十字病院小児科

P1-18-4　AHCL 療法導入時から多職種連携を行うことで円滑な血糖管理を実現した 1 型糖尿病の 1 例
﨑村　青葉[1,2]、西山　邦幸[1]、大杉　康司[1,2]、松田　基[1]、志賀　健太郎[3]
[1] 小田原市立総合医療センター小児科、[2] 大和市立病院小児科、
[3] 横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター

P1-18-5　短期間の生活変化後に重症低血糖を反復した AHCL 療法中小児 1 型糖尿病の 1 例
江田　陽一[1]、島田　正晴[1]、大津　義晃[1]、大澤　好充[1,2]、滝沢　琢己[1]
[1] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 群馬県立小児医療センター内分泌代謝科

P1-18-6　夜間のみのオート基礎導入で血糖コントロールが改善した 780G 使用中の 1 型糖尿病の 1 歳児例
真玉　千紘[1,2]、金城　由佳里[1]、井垣　純子[1]
[1] 南部医療センター・こども医療センター、[2] 大田市立病院小児科

P1-18-7　発達障害を伴う 1 型糖尿病児に対して Automated Insulin Delivery（AID）療法を導入した 1 例
竹本　圭佑、篠崎　浩平、髙橋　朋香、岩本　美紀、宮脇　正和、徳原　大介
和歌山県立医科大学

P1-18-8　注意欠如優勢型 ADHD による自己管理困難に AHCL が代償的に機能した 1 型糖尿病の 1 例
井垣　純子[1]、松岡　剛司[2]
[1] 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児内分泌代謝科、
[2] 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児神経科・こころ科

ポスター発表 19　糖代謝・糖尿病・低血糖 4

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）
座長　阿部　裕樹（新潟市民病院小児科）
奥原　宏治（天使病院こども医療センター小児科）

P1-19-1　HbA1c 値と CGM 指標に乖離を認める嚢胞性線維症関連糖尿病の同胞例
水谷　陽貴、榎本　さやか、鈴木　このみ、藤本　英ミレナ、濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科

P1-19-2　急性 GVHD 後に 1 型糖尿病を発症した臍帯血移植後女児例
江澤　佑真[1,2]、山口　将邦[1,2]、江田　陽一[2]、島田　正晴[2]、大澤　好充[3]、大津　義晃[2]、
村山　悦子[2]、大和　玄季[2]、飯島　真由子[2]、原　勇介[2]、滝沢　琢己[2]
[1] 群馬中央病院、[2] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[3] 群馬県立小児医療センター

P1-19-3　小児白血病で HbA1c が高値となるのはなぜか？
木島　俊英[1]、市橋　洋輔[1,3]、市川　やよい[2]、高田　啓志[1]、伊藤　淳平[1]、山崎　文登[1,4]、
本田　護[2]、森　麻希子[2]、嶋田　博之[2]、鳴海　覚志[1]
[1] 慶應義塾大学医学部小児科、[2] 埼玉県立小児医療センター血液腫瘍科、
[3] 都立病院機構大塚病院、[4] 国立がんセンター遺伝子診療部

P1-19-4　急性リンパ性白血病と劇症 1 型糖尿病の同時発症例に対し AHCL が有効であった 1 例
兵頭　美咲[1]、中野　慎也[1]、松石　登志哉[2]、本田　裕子[2]、稲垣　二郎[2]、安井　昌博[2]
[1] 北九州市立八幡病院小児科、[2] 北九州市立八幡病院小児血液・腫瘍内科

P1-19-5　松果体芽腫治療後の汎下垂体機能低下症に 1 型糖尿病を併発した女児の治療経過
板谷越　拓也[1]、武者　育麻[1,2]、沼倉　周彦[1,2]、菊池　透[1]
[1] 埼玉医科大学病院小児科、[2] 埼玉医科大学病院ゲノム医療科

P1-19-6　抗 GAD 抗体関連脳症が疑われた 1 型糖尿病の 3 歳男児例
沼沢　慶太、志賀　健太郎、上ノ町　優志
横浜市立大学附属市民総合医療センター

P1-19-7　耐糖能異常を認知して 2 か月の経過で急性感染症に伴う高血糖高浸透圧状態をきたした重症心身障害児の 2 例
山本　政寿、出澤　洋人、泉　維昌
茨城県立こども病院小児総合診療科

P1-19-8　ジアゾキシドとコーンスターチの併用により良好な術前血糖管理が可能であった小児インスリノーマの一例
橋本　大[1,2]、樋渡　友菜[1,2]、新村　南[2]、宮國　憲昭[3]、黒部　仁[3]、田嶼　朝子[2]、
秋山　政晴[2]、高畠　典子[1,2]
[1] 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科、[2] 東京慈恵会医科大学小児科学講座、
[3] 東京慈恵会医科大学外科学講座

ポスター発表 20　肥満・やせ 2

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　海野　聡子（久留米大学医学部小児科学講座）
　　堀　尚明（SUBARU 健康保険組合太田記念病院）

P1-20-1　小児肥満の脂肪肝における超音波減衰係数 ATI と代謝指標の臨床的有用性の検討
佐久間　彩子、宇都宮　朱里、田坂　生萌、小野　浩明、荒新　修
広島市立北部医療センター安佐市民病院小児科

P1-20-2　低栄養状態に伴う Low T3 症候群の治療過程における FT3 正常化と BMI-SDS 変化の検討
折本　竜太、土屋　理奈、松原　直己、宮井　健太郎
東京北医療センター小児科

P1-20-3　壊血病とくる病を発症した、極度の偏食を伴う自閉スペクトラム症児の一例
田中　基意、高橋　英城、松井　克之
滋賀県立総合病院小児内分泌代謝糖尿病科

P1-20-4　低 Ca 血症に伴うけいれんを契機に、胆汁うっ滞による脂溶性ビタミン欠乏症と診断した Down 症候群の乳児例
藤井　雅行[1,2]、中野　さつき[1,2]、水谷　茉友香[1]、小松　理瑛子[1,2]、阿部　清美[1,2,3]、
鳴海　覚志[2]
[1] さいたま市立病院、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科

P1-20-5　家族性高コレステロール血症を合併したシトリン欠損症の一例
田嶋　華子[1,2]、上岡　由奈[1,2]、加藤　美和[1,3]
[1] 日本医科大学武蔵小杉病院小児科、[2] 日本医科大学付属病院小児科、
[3] 社会福祉法人賛育会賛育会病院小児科

P1-20-6　家族性高コレステロール血症の患児における臨床背景に関する検討
沼田　遥、田嶼　朝子、木村　妙、新村　南
東京慈恵会医科大学小児科学講座

P1-20-7　小児家族性高コレステロール血症ダブルヘテロ接合体の 6 歳児でのスタチン使用経験
水上　美輪[1]、長井　静世[2]、若林　えり子[2]、塚村　篤史[2]、筒井　英美[2]、斯波　真理子[3]、
丸尾　良浩[2]
[1] 滋賀医科大学医学部附属病院臨床教育センター、[2] 滋賀医科大学小児科学講座、
[3] 大阪医科薬科大学病院循環器センター

P1-20-8　ジアゾキシド投与後に肥満を伴い 2 型糖尿病を発症した先天性高インスリン女児
伊藤　駿、渡邊　夏美、植田　有紀子、佐藤　真理、麻生　敬子
東邦大学医療センター大森病院

ポスター発表 21　甲状腺 3

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　數川　逸郎（千葉県こども病院内分泌科）
　　久保　和泰（佐賀整肢学園）

P1-21-1　*IRS4* 遺伝子異常症による先天性中枢性甲状腺機能低下症の臨床的特徴
川村　遥、本川　未都里、伊達木　澄人
長崎大学病院小児科

P1-21-2　FT3/FT4 比高値は中枢性甲状腺機能低下症の診断に有用な指標となる

山内　建[1]、竹下　峻希[1]、境内　愛実[1]、友滝　清一[1]、河井　昌彦[2]
[1]京都大学医学部附属病院小児科、[2]京都大学大学院医学研究科新生児学講座

P1-21-3　レボチロキシン（LT4）投与により視床下部―下垂体―甲状腺（HPT）軸の改善を認めた中枢性甲状腺機能低下症の 2 例

藤里　碧[1]、酢谷　明人[1,2]、髙澤　啓[1,2]
[1]川口市立医療センター小児科、[2]東京科学大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学分野

P1-21-4　新生児マススクリーニング検査で発見された甲状腺ホルモン不応症の 1 例

熊田　寛子、円山　牧子、武内　香菜子、香川　礼子、岡田　賢
広島大学病院

P1-21-5　低身長精査での高 TSH 血症を契機に診断されたマクロ TSH 血症の 4 歳女児例

馬場　義郎[1,2]、服部　尚樹[3]、鳴海　覚志[2]
[1]新百合ヶ丘総合病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3]関西医科大学整形外科学講座

P1-21-6　びまん性肝血管腫による消費性甲状腺機能低下症に対しリオチロニン（LT3）単独療法が有効であった乳児例

末廣　悠花[1]、加藤　嘉一[2]、祝迫　洋樹[2]、下園　翼[3]、馬場　悠生[2]、柿本　令奈[2]、
児玉　祐一[2]、福重　寿郎[2]
[1]鹿児島大学病院、[2]鹿児島市立病院、[3]福岡市立こども病院

P1-21-7　先天性ネフローゼ症候群に伴って発症した甲状腺機能低下症に対し、レボチロキシン頻回内服を行った 2 症例

錦織　朱[1]、西林　優[1]、森脇　彩賀[1]、池谷　紀衣子[1]、貝藤　裕史[2]、尾﨑　佳代[1]
[1]兵庫県立こども病院代謝内分泌科、[2]兵庫県立こども病院腎臓内科

P1-21-8　レボチロキシン過量内服後の LC-MS/MS 法による甲状腺ホルモン値の推移

中山　まどか[1]、志村　和浩[1]、有安　大典[1]、岩野　麗子[2]、室谷　浩二[3]、鳴海　覚志[4]
[1]横浜市立市民病院小児科、[2]神奈川県立こども医療センター臨床研究所、
[3]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[4]慶應義塾大学医学部小児科学教室

ポスター発表 22　骨代謝・骨系統疾患 3

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　木下　香（国保直営総合病院君津中央病院小児科）
　　箱田　明子（JR 仙台病院小児科）

P1-22-1　9 歳時に運動機能障害を呈した周産期重症型低ホスファターゼ症―アスホターゼアルファの至適投与量について

山村　なつみ[1]、田村　太資[2]、藤原　香緒里[1]、窪田　拓生[1]、道上　敏美[1,3]
[1]大阪母子医療センター腎・代謝科、[2]大阪母子医療センターリハビリテーション科、
[3]大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

P1-22-2　*ALPL* 遺伝子の新規バリアントを認めた低ホスファターゼ症家族例

高橋　佳久[1]、青山　幸平[1,2]、佐藤　哲彦[1]
[1]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、[2]名古屋市立大学病院

P1-22-3　酵素補充療法が奏功した *ALPL* 遺伝子にヘテロ接合性変異を有する低ホスファターゼ症の一例

神川　愛純、東　玖美、井上　なつみ、横山　忠史、岡島　道子、和田　泰三
金沢大学附属病院小児科

P1-22-4　生後早期より酵素補充療法を開始し、3 か月で抜管に至った周産期重症型低ホスファターゼ症の 1 例

長沼　純子[1]、大澤　好充[1]、宮川　陽一[2]、山口　有[3]、丸山　憲一[2]

[1] 群馬県立小児医療センター内分泌代謝科、[2] 群馬県立小児医療センター新生児科、[3] 群馬県立小児医療センター遺伝科

P1-22-5　演題取り下げ

P1-22-6　ボソリチド投与中に外科的介入を要した軟骨無形成症の 2 例：大後頭孔狭窄症および腰部脊柱管狭窄症

植田　有紀子[1,2]、渡邊　夏実[1]、伊藤　駿[1]、荻原　英樹[2]、和田　明人[1]、佐藤　真理[1]、麻生　敬子[1]

[1] 東邦大学医療センター大森病院、[2] 国立成育医療研究センター

P1-22-7　Burosumab 治療が有効であった FGF23 関連低リン血症を伴う McCune-Albright 症候群の 1 例

渡辺　健太[1]、江口　佳孝[2]、纐纈　昌樹[1]、山口　修平[1]、塩田　翔吾[1]、杉浦　愛子[1]、宇治田　凪紗[1]、荻原　康子[1]、吉井　啓介[1]、鹿島田　健一[1]、内木　康博[1]

[1] 国立成育医療研究センター内分泌・代謝科、[2] 国立成育医療研究センター整形外科

P1-22-8　乳幼児健診を契機に診断したビタミン D 欠乏性くる病重症例

岩本　美紀[1,2]、竹本　圭佑[2]、髙橋　朋香[2]、下薗　英史[4]、宮脇　正和[2,3]、徳原　大介[2]

[1] 海南医療センター小児科、[2] 和歌山県立医科大学小児科、[3] 紀南病院小児科、[4] 愛徳医療福祉センター整形外科

ポスター発表 23　骨代謝・骨系統疾患 4

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　吉井　啓介（国立成育医療研究センター内分泌・代謝科）
　　田中　裕之（東京大学医学部附属病院小児科）

P1-23-1　けいれんを契機にビタミン D 欠乏性低カルシウム血症と診断し、養育環境を背景に弟も発症した兄弟例

杉之原　理衣、富田　一郎、藤崎　徹、中野　慎也

北九州市立八幡病院小児科

P1-23-2　母体ビタミン D 欠乏による低 Ca 血症により痙攣をきたした乳児例

浦田　芽久美[1]、山田　茉莉子[2]、中里　健[1]、土岐　平[1]、峰尾　恵梨[1]、橘田　一輝[1]、石倉　健司[1]

[1] 北里大学医学部小児科学、[2] 東邦大学医学部腎臓学講座

P1-23-3　筋緊張低下・運動発達遅滞からビタミン D 欠乏性くる病の診断に至った一例

瀧澤　千絵子[1]、酢谷　明人[1,2]、髙澤　啓[1,2]

[1] 川口市立医療センター、[2] 東京科学大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学分野

P1-23-4　新生児高 Ca 血症を契機に母体副甲状腺機能亢進症を診断し遅発性低 Ca 血症を予測し得た例

岩田　悠佑[1,2]、野田　雅裕[1]、永井　由紗[1]、柏原　未奈[1]、菅生　将史[2]、重田　真幸[2]、香取　竜生[1]

[1] 公立昭和病院小児科、[2] 公立昭和病院糖尿病内分泌内科

P1-23-5　母体原発性副甲状腺機能亢進症児における出生後のカルシウムおよび PTH の経時的変動

山本　幸佑、小泉　周大、北條　文慧、福島　秀晃、今和泉　幸恵、佐藤　恵美、六鹿　泰弘

JA 愛知厚生連海南病院

P1-23-6　特発性乳児高カルシウム血症の 1 例

円山　牧子、武内　香菜子、熊田　寛子、香川　礼子、岡田　賢

広島大学病院小児科

P1-23-7　バセドウ病の甲状腺全摘出術後に hungry bone syndrome をきたした思春期女児の一例
土屋　理奈[1]、北川　亘[2]、伊藤　公一[2]、折本　竜太[1]、宮井　健太郎[1]
[1]東京北医療センター小児科、[2]伊藤病院外科

P1-23-8　新生児マススクリーニングの高 TSH 血症と先天性難聴を契機に診断した HDR 症候群
島﨑　俊介[1]、岸村　美宥[1]、佐藤　純一[1]、森田　訓子[2]、松永　達雄[3]
[1]船橋市立医療センター小児科、[2]野田総合病院耳鼻咽喉科、
[3]東京医療センター聴覚・平衡覚研究部

P1-23-9　原因不明の高カルシウム血症を呈した 3p 欠失症候群の 1 例
波多野　陽輝[1]、數川　逸郎[1]、木原　牧子[1]、鮎田　香子[2]、柴　康弘[3]、勝浦　美沙子[1]、
皆川　真規[1]
[1]千葉県こども病院、[2]成田赤十字病院、[3]松戸市立総合医療センター

ポスター発表 24　CCS・内分泌腫瘍

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　喜多村　美幸（公立八女病院小児科）
　　波多野　恵（東京科学大学分子腫瘍医学）

P1-24-1　18 トリソミーに高カルシウム血症を合併し、治療を要した 1 例
豊田　純也[1]、犬飼　香織[1]、石塚　一裕[1]、横山　ゆきえ[1]、落合　成紀[1]、金子　綾太[1]、
石丸　雅矩[2]、煙石　真弓[1]、杉山　延喜[1]、安達　昌功[3]、山田　佳之[1]
[1]東海大学医学部総合診療学系小児科学、[2]東海大学医学部付属八王子病院小児科、
[3]昭和医科大学病院小児科学教室

P1-24-2　甲状腺濾胞性腫瘍を発症した Prader-Willi 症候群の小児例
西門　優一[1]、林　祐里[2]、清田　篤志[2]、尾崎　信暁[2]、加藤　哲朗[3]、加藤　万事[3]
[1]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児科、
[2]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院内分泌内科、
[3]総合上飯田第一病院甲状腺・内分泌外科

P1-24-3　鞍上部黄色肉芽腫 3 例の臨床的検討～頭蓋咽頭腫と比較して～
鈴木　このみ、榎本　さやか、藤本　英ミレナ、水谷　陽貴、濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科

P1-24-4　下垂体機能低下症をきたし摘出術を行った Xanthogranuloma の 2 例
三ッ井　勇介、小川　洋平、澤野　堅太郎、小貫　孝則、岡田　正康、三橋　大樹
新潟大学医歯学総合病院

P1-24-5　当科で経験した MEN2A の一例での乳児期から甲状腺全摘術までの検査所見の経過
井上　巳香、中農　万里、小幡　美智
国立病院機構金沢医療センター

P1-24-6　小児がん経験者における骨年齢を基準とした骨密度評価の検討
中村　新太郎、中川　万理恵、太田　知子、足立　夏帆、田中　裕之
東京大学医学部附属病院小児科

P1-24-7　小児がん経験者 10 例に対する長期間作用型成長ホルモンの安全性の検討
徳永　美菜子、関　祐子、坂元　沙樹、加藤　嘉一、岡本　康裕
鹿児島大学病院小児科

P1-24-8　治療に難渋しているプロラクチノーマの 16 歳女子例
柴崎　拓実、市川　加波、福嶋　ほたる、師田　悠、中沢　洋三
信州大学医学部小児医学教室

ポスター発表 25　水・電解質

11 月 6 日（金）　17：00 ～ 18：00　　ポスター会場（北九州メッセ　1 階　A 展示場）

座長　太田　正法（都留市立病院）
　　内木　康博（国立成育医療研究センター）

P1-25-1　部分型 AVP 分泌不全症における AVP 分泌能の経時的推移

勝二　隆志[1]、長谷川　行洋[1,2]、有安　大典[3]、長谷川　奉延[3]、長　秀男[3]、池側　研人[2]、天野　直子[2]、石井　智弘[2]

[1] 東京都立多摩北部医療センター小児科、[2] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

P1-25-2　重症心身障害児の中枢性尿崩症に対するデスモプレシン OD 錠舌下投与の有用性

吉川　侑子、長谷川　真理、秋定　博子、野上　恵嗣

奈良県立医科大学小児科

P1-25-3　血清抗ラブフィリン 3A 抗体陽性でリンパ球性漏斗下垂体後葉炎が疑われた AVP 欠乏症の 4 歳男児

藤原　進太郎、川﨑　綾子、江渕　有紀、樋口　洋介、古城　真秀子

岡山医療センター

P1-25-4　新生児期から発症までの経過を追跡し得た Gitelman 症候群の幼児例

若林　えり子[1]、長井　静世[1]、塚村　篤史[1]、筒井　英美[1]、丹羽　房子[2]、丸尾　良浩[1]

[1] 滋賀医科大学、[2] 三菱京都病院

P1-25-5　経時的フォローにより中枢性尿崩症が明らかとなったラトケ嚢胞の 14 歳女児例

大山　和紗[1,8]、西山　楓奈[2,8]、入江　日和[3,8]、岩佐　真実[4,8]、中村　慧[8]、木村　友亮[5]、秋山　幸功[5]、西野　豪[6]、柏木　葉月[7]、渡邊　麗子[7]、末岡　秀文[8]、石井　玲[8]、津川　毅[8]

[1] 市立釧路総合病院小児科、[2] 苫小牧市立病院小児科、[3] 製鉄記念室蘭病院小児科、[4] 東京都立小児総合医療センター内分泌代謝科、[5] 札幌医科大学脳神経外科学講座、[6] 市立釧路総合病院脳外科、[7] 札幌医科大学病理診断学講座、[8] 札幌医科大学小児科学講座

P1-25-6　習慣性多飲との鑑別に苦慮したラトケ嚢胞合併のバゾプレシン分泌低下症の 1 例

勝浦　美沙子[1]、數川　逸郎[1]、木原　牧子[1]、柴　康弘[1]、波多野　陽輝[1]、阿部　茉衣子[1]、鮎田　香子[2]、皆川　真規[1]

[1] 千葉県こども病院、[2] 成田赤十字病院

P1-25-7　薬剤抵抗性てんかんに対し半球離断術を施行後、中枢性尿崩症を来し口渇障害のために内服管理に苦慮した一例

河原　さくら[1,2,3]、岩淵　敦[1,2]、榎園　崇[1,2,3]、佐伯　紗希[1]、神徳　穂乃香[1]、矢板　克之[1]、奥脇　一[1]、城戸　崇裕[1,2]、増田　洋亮[3,4]、高田　英俊[1,2]

[1] 筑波大学附属病院小児内科、[2] 筑波大学医学医療系小児科、[3] 筑波大学附属病院てんかんセンター、[4] 筑波大学医学医療系脳神経外科

P1-25-8　髄膜腫摘出術 3 年後に再増大し SIADH をきたした神経線維腫症 2 型幼児例

金森　瀬怜奈[1]、堂福　美佳[2]、上山　智樹[2]、中村　幸恵[2]、田島　敏広[2]

[1] 自治医科大学卒後臨床研修センター、[2] 自治医科大学小児科学

日本動機づけ面接学会 共催セミナー

クライアントと歩む小児内分泌
―動機づけ面接をつかった会話―

日時　2026 年 11 月 7 日（土）13：00～16：00

トレーナー　川村　智行
あべのメディカルクリニック院長
日本動機づけ面接学会代表理事

ファシリテーター　井上　巳香（金沢医療センター小児科）
波多野　恵（聖路加国際病院小児科）
広瀬　正和（D Medical Clinic Osaka）
柚山　賀彦（大阪公立大学大学院発達小児医学）
布川　香織（鎌倉療育医療センター小さき花の園小児科）
髙谷　具純（獨協医科大学埼玉医療センター小児科）
古川　良樹（大阪公立大学大学院発達小児医学）
高池　浩子（東京女子医科大学糖尿病・代謝内科）
黒木　元子（公益社団法人熊本県栄養士会）
川村　恵子（Osaka Diabetes Clinical Support Office）

セミナー概要

「動機づけ面接（MI）」とは、患者さん自身の内なる動機を引き出し、自発的な行動変容を促す協働的な対話スタイルです。指示や説得ではなく、共感的なコミュニケーションを通じて患者さんをパートナーとして尊重することで、慢性疾患の管理などで大きな効果を発揮します。

本セミナーでは、全くの初心者から経験者までを対象に、ファシリテーターを配置した実践的なプログラムをご用意しています。座学にとどまらず、たっぷりと時間をかけたグループワークを通じて、明日からの臨床現場ですぐに使えるスキルを体感していただけます。

「指導がうまくいかない」といった日々の悩みが解消され、診療がより楽しく、やりがいのあるものに変わるかもしれません。小児内分泌領域の現場をより豊かにする MI を、ぜひ一緒に体験してみませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

オンデマンド配信のみのセッション

教育講演 1

OEL1　プレコンセプションケアとしての小児肥満対策の意義と実践

菊池　透
埼玉医科大学小児科

教育講演 2

OEL2　日本人の食事摂取基準 2025 年版―何が変わったのか、2030 年版策定に向けて

朝倉　敬子
東邦大学医学部

教育講演 3

OEL3　1 型糖尿病を診るすべての小児科医へ～線で行うインスリン治療～

広瀬　正和[1]、上田　華奈子[2]、古川　良樹[2]、大梅　成崇[2]、須永　紋奈[2]、西川　直子[3,5]、
堀田　優子[4]、橋村　夏野子[5]、橋本　友美[6]、東出　崇[6]、柚山　賀彦[2]、川村　智行[7]
[1] D Medical Clinic Osaka、[2] 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学、
[3] 独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター小児科・小児神経科、[4] PL 病院小児科、
[5] 橋村医院、[6] はぐはぐキッズクリニック、[7] あべのメディカルクリニック

教育講演 4

OEL4　新生児マススクリーニングの新展開

鹿島田　健一
成育医療研究センター

教育講演 5

OEL5　臨床研究における研究倫理アップデート：小児を対象とする臨床研究の倫理的配慮等の留意事項

河原　直人
九州大学病院 ARO 次世代医療センター

教育講演 6

OEL6-1　X 染色体連鎖性低リン血症性くる病・軟骨無形成症・軟骨低形成症の診療ガイドラインと最新アップデート

窪田　拓生
大阪母子医療センター腎・代謝科

OEL6-2　小児骨代謝疾患の診療ガイドラインと最新アップデート： 低ホスファターゼ症診療ガイドライン Update

道上　敏美
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

教育講演 7

OEL7　小児期発症内分泌疾患の移行期医療・成人移行支援―現状と最新の動向―

鈴木　滋[1,2]
[1] 旭川医科大学小児科、[2] 日本小児内分泌学会移行期対応委員会

教育講演 8

OEL8　小児内分泌疾患に対する遺伝カウンセリングの実際

伊達木　澄人
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学

教育講演 9

OEL9　LT4 単独治療で残存症状のある甲状腺機能低下症患者に対する LT4 ＋ LT3 併用療法

濱田　勝彦
田尻クリニック

教育講演 10

OEL10　日本専門医機構新専門医制度の現状と課題―内分泌代謝科（小児科）専門医・糖尿病専門医の行方と展望―

田久保　憲行
順天堂大学医学部小児科学講座

Year Book1

YB1　下垂体・成長

森川　俊太郎
北海道大学大学院医学研究科小児科学教室

Year Book2

YB2　副腎

濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科

Year Book3

YB3　性腺・性分化疾患

澤野　堅太郎
新潟大学医歯学総合病院

Year Book4

YB4　思春期

佐藤　武志
慶應義塾大学医学部小児科学教室

Year Book5

YB5　甲状腺

橘　真紀子

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

Year Book6

YB6　骨代謝・副甲状腺・骨系統疾患

藤本　正伸

鳥取大学医学部周産期・小児医学分野

Year Book7

YB7　共に歩む糖代謝診療 分類・計測・自動化が変える臨床を考える

柚山　賀彦

大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学

Year Book8　肥満・やせ・栄養・脂質代謝

YB8　小児・思春期の体重異常をめぐる新展開―肥満薬物療法、MC4R 経路、FUS/REDs、脂質管理―

和田　珠希

大阪母子医療センター消化器・内分泌科

Year Book9

YB9　CCS・腫瘍・トランジション

向山　祐理

虎の門病院小児科

Year Book10

YB10　新生児内分泌

松本　英樹

岐阜大学大学院医学系研究科

Year Book11

YB11　遺伝・症候群

矢ヶ崎　英晃

山梨大学医学部小児科